

文部科学省 大学間連携共同教育推進事業

西日本から世界に翔たく  
異文化交流型リーダーシップ・プログラム

平成 24 年度～平成 28 年度 活動報告書



西日本学生リーダーズ・スクール (UNGL)

University Network for Global Leadership Development in West Japan

愛媛大学 (代表校)、山口大学、香川大学、佐賀大学、京都外国語大学・短期大学、  
京都文教大学、広島経済大学、松山大学、九州国際大学、愛知みずほ大学・短期大学部、  
京都光華女子大学・短期大学部、熊本学園大学、山口学芸大学、追手門学院大学、  
摂南大学、梅光学院大学



## はじめに

愛媛大学が代表校を務める「西日本から世界に翔たく異文化交流型リーダーシップ・プログラム（UNGL）」は、平成 24 年度に文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」に採択され、平成 24 年 9 月から平成 29 年 3 月まで、西日本各地の大学・短期大学と連携する中で、大学生のリーダーシップを養成する様々な取組を行ってきました。平成 27 年度には文部科学省による中間評価においては、「A：計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。」と判定されています。

さて、急速な勢いでグローバル化が進む現代社会では、企業組織や地域・国際社会で活躍する人材に求められる能力がますます多様化・高度化しています。そのような中、歴史・文化・習慣的背景の差異を乗り越えながら効果的な協働を生み出し、地域や国際社会で活躍できる「リーダーシップ」醸成の重要性は、営利・非営利を問わず、どのような組織においても認識されているところです。例えば、「社会人基礎力」（経済産業省）の一つに「チームで働く力；多様な人々とともに、目標に向けて協力する力」が、「グローバル人材」（グローバル人材育成推進会議）に求められる要素に「リーダーシップ」があげられていることなどはその証左と言えるでしょう。

とはいえ、効果的なリーダーシップに関する知識・技能・態度は、ある日突然、体得できているという類のものではなく、体系的・継続的・段階的に養成していくことが必要です。この点を踏まえ、UNGL では、学生の汎用的能力から語学力や専門知識まで広範囲にわたる資質能力を大学在学中に統合的に養成するために、研修フィールドの開発、プログラムの企画・運営、経験を学びに変える省察手法の共有、学生の活動をサポートする教職員の能力開発（FD/SD）に取り組んでまいりました。

これまでに 70 を超えるプログラムが実施され、延べ 3,000 名を超える学生がこれらを受講しました。その運営に当たった教職員は延べ 600 名に上り、平成 28 年度現在、19 の大学・短期大学が連携して本取組が実施されています。

今回、補助事業期間が終わるに当たり、これまでの活動を総括した報告書を作成しました。われわれとしては、これらの実績を基に、平成 29 年度以降も自主的な取組として、連携事業を継続していく所存です。UNGL が行う実践的なリーダーシップ養成の取組は、多数の大学の連携し、学生の能力開発に関するスキルやノウハウを共有しつつ発展させていく点で極めて先進的な事業です。今後も、事業運営に一層注力する所存ですので、御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

UNGL 事業推進代表者

国立大学法人愛媛大学長 大橋 裕一

## 補助期間終了に寄せて

実社会の彼方此方で「リーダーシップ」の必要性が広範に叫ばれる中、愛媛大学では平成19年度より、学生のリーダーシップを養成するための取組である「愛媛大学リーダーズ・スクール (ELS)」を準正課教育の一環として開講し（平成19年度文部科学省「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」採択事業）、大学内だけでなく地域・国際社会で活躍するリーダーの輩出を目標にした活動を行ってきました。

これらの活動を通して培われたノウハウを基盤とし、学生の汎用的能力から語学力や専門知識まで広範囲にわたる資質能力を大学在学中に統合的に養成するためのプログラムとして、平成24年度より「西日本から世界に翔たく異文化交流型リーダーシップ・プログラム (University Network for Global Leadership Development in West Japan ; 以下UNGLと略記)」が発足し、これを連携校間で協働して実施してきました。研修フィールドの開発、プログラムの企画・運営、経験を学びに変える省察手法の標準化、学生の活動をサポートする教職員の能力開発 (FD/SD) など、単一の大学では実施の難しい事業も、大学間で連携して取り組むことにより実現が可能となりました。

加盟各校のご尽力により、次年度以降は連携を保持しつつ学生のリーダーシップ養成ならびに教職員のスキル向上を企図したプログラムを継続実施してまいりますが、本年度をもって補助期間の終了を迎えますことから、一旦これまでの活動を整理し、さらなる発展・継続の方途を明瞭にするためにも本報告書を取り纏めました。各位におかれましては、取組の成果をご覧いただき、ご助言賜りたく存じます。

末筆ながら、本事業を実施するにあたり、ご尽力いただきました連携各校の皆様、また、南ソウル大学（韓国）、国立高雄第一科技大学（台湾）、CNMI Public School System（北マリアナ諸島連邦）をはじめ国内外での研修実施先をご提供くださった皆様、そして何より本事業のステークホルダーとしてご支援・ご協力いただきました一般社団法人大学教育学会、アジア太平洋学生支援協会（Asia Pacific Student Services Association）、公益財団法人えひめ女性財団、一般社団法人松山青年会議所、F ネット愛媛の皆さまに心より謝意を表します。

UNGL 事業推進責任者（平成24年度～26年度前半）

追手門学院大学 副学長／教授

秦 敬治

同（平成26年度後半～28年度）

愛媛大学 教育・学生支援機構教育企画室講師

村田 晋也

# 目 次

はじめに

補助期間終了に寄せて

## 1 事業概要

## 2 取組概要（活動内容）

実施プログラムリスト	6
実施プログラム報告	
平成 24 年度	12
平成 25 年度	23
平成 26 年度	114
平成 27 年度	155
平成 28 年度	207
学生リーダーシップ・カンファレンス	227

## 3 評価等

中間評価進捗状況報告書	245
中間評価結果	260
フォローアップ実施状況報告書	262
フォローアップ結果	274
大学間連携共同教育推進事業（日本学術振興会）冊子の本事業ページ	276
大学間連携共同教育推進事業シンポジウム in 金沢チラシ	277
学生の声（本事業ウェブサイトより）	278

## 4 参考資料

教職員能力開発	282
教材等一覧	283
連携校共同会議等の開催状況	285
学会発表・関連論文等	286
規程等	288



# 1 事業概要

## UNGL の養成するリーダーシップ

UNGL ではリーダーシップを「チームの目的・目標が円滑かつ迅速に達成されるよう、メンバー間の効果的な協働を促す上で必要な知識・スキル・態度」と捉え、これと関連した以下の能力を養成することをねらいとしています。これは、UNGL 発足の母体となった先進的な取組、「愛媛大学リーダーズ・スクール (ELS)」の教育理念・手法等を踏襲し、発展させたものです。

### ■ UNGL リーダーシップ・マインド

様々な組織や集団においてリーダーシップを発揮する際に必要となる基盤的姿勢・態度。自己と他者の関係性を理解し、グループの中で自分の役割を真摯かつ誠実に果たそうとする態度などが含まれます。

### ■ UNGL リーダーシップ・コンピテンシー

これは次の4つの力から構成されます。

- ◎アクション力                      目的・目標に向かって確実にやり抜く力（プレゼン力、企画力、課題発見力、決断力）
- ◎チームワーク力                   目標に向けて他者と責任と権限を共有しながら力と心を合わせる力（クリティカル・マインド、統率力、業務分担力、対話促進力、規律性）
- ◎セルフ・リーディング力           成長のために常に目標を掲げ士気を保ちながら、自己を導く力（自己認識、順応性、ストレス管理力、自己啓発力）
- ◎市民性・社会性                   社会の構成員としての意識を持ち、社会の相互依存性を理解し、互いの利益を目指す力



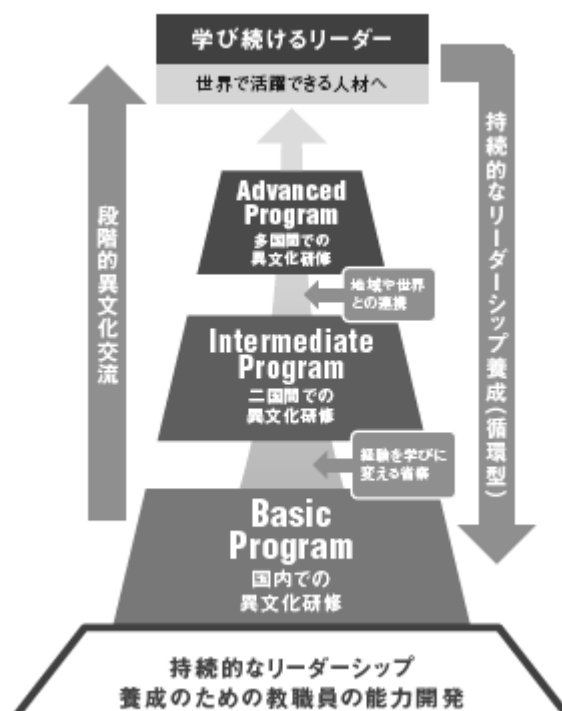
## UNGL プログラムの構成・教育手法

UNGL は、学生の効果的な学びと成長を促すために、1) 国内での異文化研修 (Basic Program)、2) 二国間での異文化研修 (Intermediate Program)、3) 多国間での異文化研修 (Advanced Program) を段階的に展開しています。これらを通じて、学生が「学内・国内→2 国間→多国間」と継続的に立場や文化の差異を乗り越えながら、リーダーシップを体系的に養うことができるよう企図しています。

UNGL が展開する各プログラムでは、学生の活動を、①学生の能力開発に関する知識やスキルを持った教職員、②共に活動する学生間、③学生自身の視点から振り返る「省察 (リフレクション)」の時間を必ず設けています。丁寧な観察に基づく教職員からのフィードバック、学生間でのピア・リフレクション、そして個人での省察は、リーダーシップに関する自己の成長や課題を明瞭にし、さらなる取組への動機付けを得る上で有用なものです。

学んだ事柄を実践し、その経験・体験を丁寧に精査し振り返ることは、知識を体得し活用する能力を伸長させるだけでなく、次に自分が学ぶ必要のある事柄を明瞭にする上でも役立ちます。それにより、さらなる学習への動機付けが生まれ、再び学んだ事柄を実践してすることで漸進的に学びを深めていくことが可能となります。このような学びのサイクルを構築し、それによって効果的なリーダーシップのあり方に関する知識・スキル・態度を養成することが UNGL の主な教育手法です。

国内外の多様なフィールドで、多種多様な参加学生・教職員と共に実践の機会を生み出し、学びの場を設けることは、各大学の正課教育の枠組みの中では難しいことと思います。UNGL は、正課教育から得た知識や理解を実践的な知恵へと変換する助けとなる「準正課教育」のプログラムを提供します。正課外教育と比べて、教職員がより積極的に活動内容を設計し、責任を持って適切に関与・指導を行います。これは、プログラムを受講する学生はもとより、教職員が学生を支援する能力やスキルを向上させる機会ともなります。学生の成長とともに、教職員の能力開発を可能とする OJT 型の研修プログラムは UNGL の特色の一つです。



## 連携校一覧

時期	No.	大学等名
平成 24 年度 補助事業採択当初	1	山口大学
	2	香川大学
	3	愛媛大学（代表校）
	4	佐賀大学
	5	京都外国語大学
	6	京都文教大学
	7	広島経済大学
	8	松山大学
	9	九州国際大学
	10	京都外国語短期大学
平成 26 年度 連携校追加承認	11	愛知みずほ大学
	12	京都光華女子大学
	13	熊本学園大学
	14	愛知みずほ大学短期大学部
	15	京都光華女子大学短期大学部
平成 27 年度 連携校追加承認	16	山口学芸大学
	17	追手門学院大学
	18	摂南大学
平成 28 年度協力校	19	梅光学院大学

# 平成24年度「大学間連携共同教育推進事業」選定取組

## 取組名称：西日本から世界に翔たく異文化交流型リーダーシップ・プログラム

取組大学：愛媛大学（代表校）、山口大学、香川大学、京都外国語大学、京都文教大学、広島経済大学、松山大学、九州国際大学、京都外国語短期大学、愛知みずほ大学、熊本学園大学、京都光華女子大学、短期大学、京大短期大学、愛知みずほ短期大学、京大短期大学、追手門学院大学、摂南大学、摂南大学

本取組では、連携する大学群及び各機関と協働のうえ、「異文化交流型リーダーシップ・ネットワーク」を形成し、西日本の大学から世界で活躍し「学び続けるリーダー」を輩出する。

<b>背景</b>	学生に対するリーダーシップ力の醸成は、学士力、社会人基礎力、各大学ダイバロママホリシーに限らず、経済界や地域社会からも期待が寄せられている。
<b>現状</b>	専門領域に偏らないスタンダード・リーダーシップを体系的に提供する大学はない。また、慣れ親しんだ仲間との環境下では、その関係を再構築しても、新たなリーダーシップの醸成には限界がある。
<b>ポイント</b>	学内・国内外に新たなフィールドを求め、「立場や世代間、文化背景の異なりを超えた」プログラムを拡充・拡大し、学生に提供する。また、本事業に関わる教職員の能力開発を持続的に行う。

### プログラム(事業)の概要

**学び続けるリーダー**  
世界で活躍できる人材へ

Advanced Program  
(多国間での異文化研修)

Intermediate Program  
(2国間での異文化研修)

Basic Program  
(学内・国内での異文化研修)

段階的異文化交流

持続的なりリーダーシップ養成(循環型)

地域や世界との連携

経験を学びに変える省察

### ステークホルダーの要請と関係

**地域や国際社会で活躍できる人材育成**

**【地域からの要望】**

- ◆ ジョブ・シヤドウイング
- ◆ フロント・マシナリ研修
- ◆ 地域リーダー養成セミナー
- ◆ 国際カンファレンス

などの共同実施

**ステークホルダー地域社会**

**学生**

協力校：梅光学院大学

連携機関／関連大学コンソーシアム

(公社)松山青年会議所、(公財)えひめ女性財団、Fネット愛媛、アジア太平洋学生支援協会(APSSA)、(一社)大学教育学会、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)

### 期待される成果

- 体系的・段階的・継続的な学生リーダーシップの確立
- リーダーシップ評価指標の開発
- 経験を学びに変える省察手法の標準化
- 持続的なりリーダーシップ養成のための教職員能力プログラムの確立
- リーダーシップを培うための多様なフィールドの提供



## 2 取組概要（活動内容）

## 実施プログラムリスト

### 【平成 24 年度】

No.	実施日	プログラム名	担当大学	参加者数				
				教職員	学生 スタッフ	学生	その他	合計
1	2月14日 ～15日	学生リーダーズ・ウィンタースクール	九州国際 大学	2		22		24
2	3月3日	山口大学新明倫館リーダーズスクール	山口大学	5		12	13	30
3	3月7日 ～12日	東北支援プロジェクトえひめライン	愛媛大学 松山大学	2		30		32
4	3月26日 ～31日	リーダーシップ・チャレンジ in 韓国	愛媛大学	14		27	1	42
小計				23		91	14	128

### 【平成 25 年度】

No.	実施日	プログラム名	担当大学	参加者数				
				教職員	学生 スタッフ	学生	その他	合計
1	6月22日 ～8月3日	まつやま「キズナ」プロジェクト ～大切な人へ～ (全6回)	愛媛大学 松山大学	2		7		9
2	6月22日	大人としゃべり場 ～トークフォーク ダンスで語ろう～	九州国際 大学	6		21	366	393
3	6月22日	ファシリテーション道場	九州国際 大学	5		27	4	36
4	7月10日	会議ファシリテーション入門セミナー	松山大学	11		26		37
5	8月6日 ～7日	香川大学リーダーシップ養成研修	香川大学	4		9		13
6	8月7日 ～9日	FM 高松学生レポーターチャレンジ プログラム	香川大学	4		5		9
7	8月10日 ～2月22日	英語で学ぶ異文化リテラシー養成 講座 (全12回)	松山大学	12		129		141
8	8月19日 ～24日	リーダーシップ・チャレンジ in 台湾	愛媛大学	4		12		16
9	8月20日 ～22日	「小学生スポーツ体験ウィーク」で 学ぶコーチングと危機管理	京都外国語 大学	9		9		18

No.	実施日	プログラム名	担当大学	参加者数				
				教職員	学生 スタッフ	学生	その他	合計
10	9月9日 ～11日	学生リーダーズ・サマースクール	愛媛大学	17	15	57		89
11	9月15日 ～21日	リーダーシップ・チャレンジ in サイパン	愛媛大学	12	4	58	1	75
12	9月28日	瀬戸内国際芸術祭 香川大学プロジ ェクト「粟島国際交流プロジェクト」	香川大学	4		8		12
13	10月19日 ～1月18日	グローバル・リーダーシップ・ セミナー（全5回）	京都外国語 大学	36		206	1	243
14	12月7日 ～8日	学生FDのWA!!!!	京都文教大学 追手門学院 大学	29		65	1	95
15	12月7日 ～8日	一学一山運動フォーラム2013	広島経済 大学	9		31		40
16	2月8日 ～9日	ソーシャルアントレプレナー実践 学入門プログラム	山口大学	5		20		25
17	2月11日 ～12日	コミュニケーション力向上ワーク ショップ	香川大学	14		4		18
18	2月11日 ～13日	学生リーダーズ・ウィンタースクール	九州国際 大学	8	18	16	1	43
19	2月13日	異文化間リーダーシップ・ワーク ショップ	京都外国語 大学	4		28		32
20	2月18日 ～19日	佐賀大学プロジェクト・アドベンチ ャー・ワークショップ	佐賀大学	6		162		168
21	2月23日 ～3月1日	リーダーシップ・チャレンジ in サイパン	愛媛大学	13	7	125		145
22	3月2日 ～18日	ハワイ・サービスラーニング・プロ グラム	松山大学	2		14		16
23	3月11日 ～16日	リーダーシップ・チャレンジ in 韓国	愛媛大学	6		40		46
24	3月22日 ～23日	学生リーダーズ・スプリングスクール	京都外国語 大学	6	19	34		59
小計				228	63	1,113	374	1,778

## 【平成26年度】

No.	実施日	プログラム名	担当大学	参加者数				
				教職員	学生 スタッフ	学生	その他	合計
1	8月7日 ～10日	APSSA2014 日本大会	愛媛大学	31	50	21	52	154
2	8月20日 ～21日	ラジオ番組制作プログラム「あなたの『夢』を番組で語ってみませんか？」	香川大学	2		7		9
3	8月20日 ～22日	やりたい仕事創造学校	愛媛大学	5	12		15	32
4	9月9日 ～11日	学生リーダーズ・サマースクール	愛媛大学	17	25	81		123
5	9月21日 ～22日	イベントプランナー養成講座	山口大学	4		7		11
6	9月22日 ～23日	コミュニケーション力向上ワークショップ	香川大学	13		12		25
7	12月6日 ～7日	一学一山運動フォーラム2014	広島経済 大学	5		25	5	35
8	2月6日 ～8日	学生リーダーズ・ウィンタースクール	九州国際 大学	9	31	31	4	75
9	2月21日 ～28日	リーダーシップ・チャレンジ in サイパン	愛媛大学	16	12	80		108
10	3月2日 ～18日	ハワイ・サービスラーニング・プロ グラム	松山大学	1		14		15
11	3月10日 ～12日	学生リーダーズ・スプリングスクール	京都外国語 大学	5	21	38		64
12	3月17日 ～22日	リーダーシップ・チャレンジ in 韓国	九州国際 大学	7	1	45		53
小計				115	152	361	76	704



## 【平成 27 年度】

No.	実施日	プログラム名	担当大学	参加者数				
				教職員	学生 スタッフ	学生	その他	合計
1	5月9日 ～10日	リーダーシップ養成合同合宿 2015	追手門学院 大学	15	3	54	1	73
2	7月6日 ～11日	リーダーシップ・チャレンジ in 台湾	愛媛大学	1		7		8
3	8月3日 ～6日	APSSA リーダーズ・カンファレンス 2015	松山大学	4		13		17
4	8月19日 ～21日	夏休み子どもスポーツ体験ウィーク を通じたリーダーシップ研修	京都外国語 大学	5	15	41		61
5	8月23日	FM 高松番組制作プログラム	香川大学	2		7		9
6	8月26日 ～28日	やりたい仕事創造学校	愛媛大学	2	5	12		19
7	9月8日 ～10日	学生リーダーズ・サマースクール	愛媛大学	10	21	53		84
8	11月21日	プロジェクトつくりま SHOW!!	山口大学	2		7		9
9	12月5日 ～6日	一学一山運動フォーラム 2015	広島経済 大学	4		25		29
10	12月12日	学生FDのWA!!!!!!!	追手門学院 大学	4	10	25	1	40
11	12月12日 ～13日	自己アピール向上ワークショップ	香川大学	9		11		20
12	2月5日	OLS リーダーシップセミナー	追手門学院 大学	6		37	2	45
13	2月10日 ～12日	学生リーダーズ・ウィンタースクール	九州国際 大学	11	30	25		66
14	3月5日 ～12日	リーダーシップ・チャレンジ in サイパン	愛媛大学	12	3	41		56
15	3月15日 ～17日	学生リーダーズ・スプリングスクール	京都外国語 大学	5	28	38		71
16	3月27日 ～30日	リーダーシップ・チャレンジ in 韓国	愛媛大学	5		11		16
小計				97	115	407	4	623

【平成 28 年度】

No.	実施日	プログラム名	担当大学	参加者数				
				教職員	学生 スタッフ	学生	その他	合計
1	5月15日	リーダーシップ育成アドベンチャー プログラム	山口大学	3	2	6		11
2	6月27日 ～29日	APSSA2016 タイ大会	京都外国語 大学	5		17	1	23
3	7月11日 ～16日	リーダーシップ・チャレンジ in 台湾	愛媛大学	1		4		5
4	9月6日 ～8日	学生リーダーズ・サマースクール	愛媛大学	8	32	45		85
5	10月8日 ～11日	リーダーシップ・チャレンジ in 韓国	愛媛大学	6		34		40
6	12月24日 ～25日	学生リーダーズ・ウィンタースクール	九州国際 大学	11	17	16		44
7	1月21日	自己アピール力向上講座	香川大学	8		16		24
8	2月25日 ～3月4日	リーダーシップ・チャレンジ in サイパン	愛媛大学	14	12	54	1	81
9	3月10日 ～12日	学生リーダーズ・スプリングスクール	京都外国語 大学	12	40	44		96
10	3月24日 ～26日	やりたい仕事創造学校	愛媛大学	2	15		9	26
小計				70	118	236	11	435

【学生リーダーシップ・カンファレンス】

No.	実施日	プログラム名	担当大学	参加者数				
				教職員	学生 スタッフ	学生	その他	合計
1	H25年 2月20日	第1回学生リーダーシップ・カンファレンス in 松山大学	松山大学 愛媛大学	41		127	15	183
2	H25年 2月21日	第1回学生リーダーシップ・カンファレンス in 松山大学 アドベンチャー・リーダーシップ体感合宿	松山大学	22		90		112
3	H25年 12月14日	第2回学生リーダーシップ・カンファレンス in 京都外国語大学	京都外国語 大学	41		169	4	214
4	H25年 12月15日	第2回学生リーダーシップ・カンファレンス in 京都外国語大学 ワークショップ「五感で学びあう”グローバル”多様な文化を知ろう」	京都外国語 大学	18		119		137
5	H27年 12月19日 ～20日	第3回学生リーダーシップ・カンファレンス in 愛媛大学・松山大学	愛媛大学 松山大学	21	7	57	5	90
6	H28年 11月26日	第4回学生リーダーシップ・カンファレンス in 京都外国語大学	京都外国語 大学	6		68	14	88
7	H28年 11月27日	第4回学生リーダーシップ・カンファレンス in 京都外国語大学	京都外国語 大学	20		105	8	133
小計				169	7	735	46	957

## 平成 24 年度

### 学生リーダーズ・ウィンタースクール

報告者	九州国際大学連携コーディネーター 鈴木 理絵											
実施日	平成 25 年 2 月 14 日(木)～15 日(金)											
実施先	国立山口徳地青少年自然の家											
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>学生</th> <th>教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>九州国際大学</td> <td>22</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>22</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>			大学名	学生	教員	九州国際大学	22	2	合計	22	2
大学名	学生	教員										
九州国際大学	22	2										
合計	22	2										
講師	国立山口徳地青少年自然の家 職員											
完了報告	<p>プロジェクトアドベンチャーをチームで体験し、「信頼関係」を深め、チームビルディングを行う。野外や室内で行われる課題解決のプログラムを通じて、チーム内における「リーダーシップ」のあり方について学ぶとともに、人が人間として成長するための「気づき」を効果的に体験する。また、プロジェクトアドベンチャーにおける体験学習サイクルを学び、「気づき」を成長に導く研修であった。</p>											
<p>平成 24 年度学生リーダーズ・ウィンタースクールは、国立山口徳地青少年自然の家で実施された、プロジェクトアドベンチャーを体験するプログラムである。コミュニケーション能力の向上、他社や自分自身に対する信頼感、問題解決能力を養いたい学生を対象に実施された。</p> <p><b>【プログラム内容】</b></p> <p><b>アドベンチャーズ・スクールについて</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>プロジェクトアドベンチャーをチームで体験し、「信頼関係」を深める活動を行った。</li> <li>野外や室内で行われる課題解決のプログラムを通じて、チーム内における「リーダーシップ」のあり方について学び、プロジェクトアドベンチャーにおける体験学習サイクルから「気づき」を成長に導くことを目的であった。</li> <li>プロのファシリテーターのもと、チーム内の緊張を解きほぐす「アイスブレイク」と呼ばれるゲームを行い、チームで協力して問題を解決する「イニシアチブゲーム」を組み合わせた体験であった。</li> <li>最終日には、今後のチームの一員としての意識を高めるために「being」という個人個人のチームに対する意思を紙に書き出した。</li> </ol> <p><b>徳地アドベンチャーコースについて</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「徳地アドベンチャーコース」は丸太やワイヤーなどで構成されている障害物コースである。安全な状況下でアドベンチャー体験が可能である。「豊かな人間性を体験活動を通して育む」目的から平成 12 年 4 月から開設された。</li> <li>コースは、「ローエレメント」と「ハイエレメント」の 2 つのコースが設けられている。このコース後には、室内に戻りコースでの各自の行いやチームについての振り返りを行う。</li> </ol>												

### ローエレメントについて

(1) 「ローエレメント」とは、膝くらいの高さで設定されたコース。チームの他のメンバーによって助け合いながら課題解決に取り組む。今回のプログラムで使用したコースは以下の通りである。

◆ 「みんなのつかれ」

活動内容：小さな台の上に全員が乗る。

効果：全員が小さな台に乗るためには、お互いの信頼感と問題を解決するために、積極的な他者との関わり合いを意識的に高める。

◆ 「浮き台わたり」

活動内容：中央にぶら下がっているロープを使用し、地面につかないようにむこう岸に全員がわたる。

効果：チーム内の信頼感や、目標達成のための多様性を高める。

### ハイレメントについて

「ハイレメント」とは、高さ6～10メートルに設定されたコースである。ヘルメットとハーネス、ビレイロープをつけたチャレンジャーが、グループのメンバーに安全を確保してもらいながらチャレンジする。今回のプログラムで使用したコースは以下の通りである。

◆ 「丸太わたり（キャットウォーク）」

活動内容：地上から約6メートルの高さにある丸太までのぼり、丸太の上を移動する。

効果：チームでの信頼感を高め、自己との葛藤を乗り越える。



①[ローエレメント]



②[プロジェクトアドベンチャー]



③[being]

## 平成 24 年度

### 山口大学新明倫館リーダーズスクール

報告者	山口大学大学教育機構学生支援センター 松岡 陽子																		
実施日	平成 25 年 3 月 3 日 (日)																		
実施先	山口大学																		
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>学生</th> <th>教職員</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>山口大学</td> <td>12</td> <td>5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>社会人</td> <td></td> <td></td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>12</td> <td>5</td> <td>13</td> </tr> </tbody> </table>			大学名	学生	教職員	その他	山口大学	12	5		社会人			13	合計	12	5	13
大学名	学生	教職員	その他																
山口大学	12	5																	
社会人			13																
合計	12	5	13																
完了報告	<p>本企画は参加募集期間が短かったにもかかわらず、30 人が参加し、活発な意見交換が行われた。援助やボランティアに横たわる問題は多く、それらはこの企画のなかだけでは解決されない。しかし、考え続けなければならない重要な問題を、今回立ち止まって皆で話し合う機会があったことは参加者にも好評であり、終了後は多くの参加者からよい感想が聞かれた。</p>																		
<p><b>【プログラム概要】</b>  「わたし」からではなく、現地から考えるボランティア、援助をテーマに、二部構成のワークショップを行った。  第一部はゲスト・スピーカーの発表と全体でのディスカッション、第二部では理念と現実のギャップを感じる一つの手法として、アフリカン・ダンスの公演と参加者の実践を行った。</p> <p><b>【プログラム】</b>  14:00～14:10 開会  14:10～15:50 <b>【第 1 部】</b> ワークショップ  発表者  1) 菅田奈緒美氏 (山口大学経済学部 4 年) (2013 年 3 月開催当時)  2) イガ・アラン氏 (ウガンダ出身、京都在住、エンジニア)  3) 西川真里生氏 (JICA 山形デスク国際協力推進員)  15:50～16:10 休憩  16:10～16:45 <b>【第 2 部】</b> アフリカン・ダンス  サブニュマ・ナゴヤによるアフリカン・ダンス公演と参加者の実践  16:45～16:40 閉会</p> <p><b>【内容】</b>  <b>第 1 部ワークショップ</b>  ワークショップでは菅田氏からはフィリピンで日本語教師のボランティア活動に携わった経験について、ウガンダ出身のイガ氏は援助、ボランティア活動の課題等について、JICA 職員である西川氏はガーナにおける青年海外協力隊での経験をもとに、ボランティア活動の現実について発表があった。発表者、聴衆を含めて、援助問題にかんして、識者や、援助者側と被援助者側というさまざまな立場の人々が集っており、多様な意見が提出された。  例えば、援助、ボランティア活動にかんする問題について、活動家の現地に対する学習不足、相手文化、現地社会に対する敬意のなさ、などの指摘がなされた。これらは活動家が活動自体を自己満足で終わらせており、相手の立場を考慮しない一方向的な活動となっていることが原因である。</p>																			

ワークショップでは、このような偽善的態度で臨む活動家に対する多くの批判が寄せられた。また、援助団体で運営される金銭については外からは見えにくく、寄付されたカネがそれを本来必要とする者たちに適切に届いているのか、不正疑惑にも言及された。

一方、ネガティブな問題を指摘するだけでなく、活動をとおして学ぶことの大切さ、喜びも多く発言された。援助をとおして、相手の幸せが自分の幸せとなって還ってくることが、援助、ボランティア活動の楽しさにつながることも多くが共感していた。

## **第2部実践アフリカン・ダンス**

第2部ではサブニューマ・ナゴヤによって、西アフリカに伝わる伝統的かつモダンな演奏・ダンスが披露された。同時に、各曲踊りに付与される意味についても説明があり、ダンスをとおしてアフリカの人々の風俗や文化を感じることができた。後半は参加者も踊りに加わり、アフリカン・ダンスの複雑な動きをマスターしたあと、全員で踊った。体感は「共感」となりやすく、ワークショップで取り上げられたような理屈では一見越えられない問題が、実際は単純な問題であるということに気付くことがある。知性は感性とあわせることによって、新しい視点を獲得することができ、楽しみながら学ぶ機会を得ることができた。

## 平成 24 年度

### 東北支援プロジェクトえひめライン

報告者	愛媛大学教育学生支援部教育企画課 林 真輝																		
実施日	平成 25 年 3 月 7 日（木）～3 月 12 日（火）																		
実施先	岩手県大船渡市・陸前高田市・宮城県石巻市																		
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>教員</th> <th>職員</th> <th>学生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>愛媛大学</td> <td></td> <td>1</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>松山大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table>			大学名	教員	職員	学生	愛媛大学		1	14	松山大学	1		16	合計	1	1	30
大学名	教員	職員	学生																
愛媛大学		1	14																
松山大学	1		16																
合計	1	1	30																

平成 25 年 3 月 7 日（木）～3 月 12 日（火）大学間連携共同教育推進事業の Basic Programs の一つである「東北支援プロジェクト」が実施された。具体的な活動内容は以下の通りである。

#### 3月7日（木）

##### ●移動（バス）

時間：8：00～3/8 金 AM10：00

場所：松山大学～大船渡市フレアイランド尾崎岬（バス車中泊）

##### 【内容】

8：00 時に松山大学正門に集合し、研修開催式を行った。松山大学泉谷先生のレクチャーによって研修の目的が確認され、愛媛大学林が研修に関する諸注意と行程の確認を行った。大型バス 2 台に分かれ出発した。途中で重信キャンパスを経由して岩手県大船渡市へ向かった。

#### 3月8日（金）

##### ●グループ活動（写真①）

時間：10：00～17：00

場所：石巻市立釜小学校・大船渡市・甫嶺地区

##### 【内容】

7：00 に石巻市立釜小学校に到着。釜小学校の側溝の清掃作業を行った。学生が自主的に行動する様子が伺えた。また、大船渡夢商店街、屋台村、蛸ノ浦漁港、甫嶺応急仮設住宅等を訪問し、東北の現状と今後の復興支援活動方法を考える機会となった。



写真① 泥かきの様子

#### 3月9日（土）

##### ●桜の植樹活動（写真②）

時間：9：00～16：00

場所：大船渡市内

##### 【内容】

桜ライン 311 とは、大船渡市を中心として津波の最高到達地点に桜の苗木を植樹する活動である。活動の目的は、時が経過し東北復興が進んでも津波という出来事を風化させないことである。植樹活動では、学生がリーダーシップを発揮し、目標達成のために協力し合う姿勢がみられた。



写真② 桜の植樹



### 3月10日(日)

#### ・グループ活動

時間：11：00～18：00

場所：石巻市内

7：00 大船渡市宿舎を出発。11：00 石巻市に到着。3月8日と同様に終日グループ活動を行った。石巻市役所、石巻商店街、石巻赤十字病院、女川地区を訪問した。現地の被災された方々の震災当時の話や被災地の現状を認識することにより涙を浮かべる学生もいた。

#### ・未来型対話（フューチャーセンター）準備（写真③）

時間：20：00～23：00

場所：石巻市宿舎

翌日の未来型対話（フューチャーセンター）の準備のため、講師を依頼した岩井氏（フューチャーセンター講師）と準備作業を行った。

未来型対話とは、課題に対する解決策を対話によって見出そうとする、スウェーデン発祥の方法論である。また、感情を一言で表現することであり、否定的な言葉を使わないなど、アイデアが出やすい環境作りをする。

初めて経験する学生も多く、ワーク形式の対話であったため話し合いの中で協調性が養われた。また、終了後も自発的に集まり作業を行うグループも数多くみられた。



写真③ 未来型対話の準備

### 3月11日(月)

#### ・未来型対話（フューチャーセンター）（写真④）

時間：9：00～17：00

場所：ピースポートセンターいしのまき

石巻市内にある復興支援活動のサポートを目的とした「ピースポートセンターいしのまき」にて、岩井氏（フューチャーセンター講師）による未来型対話（フューチャーセンター）を行った。学生がグループ活動によって得た情報や体験を発表し、今後の東北復興支援活動方法を考える機会となった。話し合いの結果、「東北が復興のためにがんばっていることを忘れない」「津波で被災したことを風化させない」「被災者の話し相手になる」といった意見が出た。

最終アンケートでは、「とても勉強になった」等の満足度の高い内容であった。



写真④ 未来型対話の様子

### 3月12日(火)

#### ・移動（バス）（写真⑤）

時間：昨日 18：00～16：00

場所：ピースポートセンターいしのまき～愛媛大学  
重信キャンパス～松山大学

24時間以上のバス移動の中、一人の体調不良者も出なかった。バスの中では、学生が自発的に振り返りを始め、他者との交流が積極的に行われた。

終了時には、リーダーを務めた学生に対し、周囲の学生が感謝の意を表す場面もあり涙も見られた。

東北研修の6日間を通して学生に一体感が感じられた。



写真⑤ 終了時の様子

## 報告会

### ●桜ライン報告会（写真⑥）

日付：2013年3月22日（金）

時間：13：30～16：30

場所：松山大学

#### 【内容】

東北研修参加者の東北研修に参加することができなかった学生への報告会が学生の発案で行われた。参加者は約100名で、社会人や留学生の参加もあった。

未来型対話（フューチャーセンター）の手法を用いて、「東北の話をする」ことで、震災を風化させないための取組を行うことが確認された。



写真⑥ 報告会の様子

## 平成 24 年度

### リーダーシップ・チャレンジ in 韓国

報告者	愛媛大学教育学生支援部教育企画課 林 真輝			
実施日	平成 25 年 3 月 26 日 (火) ～3 月 31 日 (日)			
実施先	南ソウル大学			
参加者	大学名	教職員	学生スタッフ	学生
	愛媛大学	6		3
	広島経済大学	1		
	松山大学	2		15
	九州国際大学	4		9
	山口大学	1		
	合計	14		27

その他 1 人

3 月 26 日 (火)

●移動 (写真①)

時間：6:00～12:45

場所：松山大学正門～九州国際大学正門 (バス)

【内容】

5:40 に松山大学正門に集合し、研修開催式を行った。研修中のリーダーおよびセミナーグループの中から代表者 (サブリーダー) を選び、研修目的の最終確認後、バスで九州国際大学正門まで移動した。



写真①移動の様子

●研修参加者顔合わせ

時間：13:00～14:00

場所：九州国際大学 UNGL 推進室

【内容】

愛媛大学、松山大学、九州国際大学の研修参加学生および教職員による顔合わせが行われた。また研修のしおりが配布され、研修目的の共有および意識の統一が図られた。

●移動 (写真②)

時間：14:00～22:30

場所：九州国際大学正門～福岡国際空港 (バス)、福岡国際空港～仁川空港 (飛行機)、仁川空港～夕食会場 (バス)、夕食会場～南ソウル大学ゲストハウス (バス)

【内容】

バスと飛行機を乗り継いで移動した。途中体調不良者が一人出たため、教員一名が付き添いのため、仁川空港から南ソウル大学ゲストハウスへ直接移動した。

全体参加者は、安秉杰先生 (南ソウル大学) と夕食会場で合流した。本研修を円滑に進めるために研修行程の確認を行った。

夕食終了後、南ソウル大学ゲストハウスへバスで移動した。



写真②夕食の様子

3月27日(水)

●学生セミナー実施(写真③、④)

時間 : 10:00~12:50、14:00~16:30

場所 : 南ソウル大学キャンパス内教室

【内容】

愛媛大学および松山大学の学生によるセミナー6つが実施された。午前は「語学」「お祝い事」、「サブカルチャー」をテーマとしたセミナー3つ、午後は「今と昔」「教育」「平和」をテーマとしたセミナー3つが、それぞれ発表された。



写真③セミナーの様子(お祝い事)



写真④セミナーの様子(今と昔)

●セミナーの振り返り(写真⑤)

時間 : 16:30~17:50

場所 : 南ソウル大学キャンパス内教室

【内容】

発表された6つのセミナーの振り返りが行われた。各セミナーについて、発表者および聴衆側(学生、教職員)のコメントも出された。その後、各セミナー班に分かれ、事前研修の様子も含めた振り返りが行われた。最後に、個人の研修中の目標の達成度やセミナー班への貢献度も学生自身に評価させた。



写真⑤振り返りの様子

●交流会(写真⑥)

時間 : 18:00~19:50

場所 : 南ソウル大学付近

【内容】

李聖哲先生(南ソウル大学副学長)、安秉杰先生(南ソウル大学)、Kwon Seong氏(Hanbat National University)を交え、多数の韓国人学生との交流会が行われた。交流会開催時および閉会時には、南ソウル大学副学長より「韓国と日本の架け橋になるために、色んな分野の勉強をして視野を広げてほしい」というメッセージが送られた。



写真⑥交流会の様子

3月28日(木)

●学生セミナー実施(写真⑦、⑧)

時間 : 10:00~12:00、16:00~17:30

場所 : 群山大学キャンパス内教室

【内容】

セミナー開催会場を南ソウル大学から群山大学に移動してセミナー3つが実施された。午前は、九州国際大学の学生による「合コン」「告白」をテーマとしたセミナー2つ、午後は松山大学の学生による「平和」をテーマとした最終セミナーが発表された。



写真⑦セミナーの様子(合コン)



写真⑧群山大学での最終セミナー

●錦江河口干拓地の展望台見学(写真⑨)

時間 : 14:00~15:20

場所 : 錦江河口の干拓地・展望台

【内容】

都市開発のために埋め立てられた干拓地の堤防から建設計画が遅れている(政治的背景と経済状況により)区域の状況を見学した。並びに展望台も見学した。韓国が抱える現状問題について考える場となった。



写真⑨干拓地の展望台

3月29日(金)

●地域社会見学(写真⑩)

時間 : 10:00~16:00

場所 : 独立記念館、華城、韓国民俗村

【内容】

韓国の歴史や、韓国と日本の両国の過去と現在の関係性理解を深めるため、韓国の施設見学(独立記念館、華城、韓国民俗村)を行った。学生にはそれぞれの施設でガイドの方が付き添い、施設の説明はもちろん、韓国の文化や歴史の背景に関わる詳細な説明が行われた。



写真⑩地域社会見学(華城)

●ホームステイ先関係者との顔合わせ

時間 : 16:00~17:00

場所 : ソウル駅前

【内容】

学生をホームステイ先関係者に引き渡すため、集合場所であるソウル駅前に移動した。1~2人で一つの家庭に滞在することになった。

3月30日(土)

●教職員による振り返り(写真⑪)

時間:10:00~14:00

場所:安秉杰先生の研究室(南ソウル大学キャンパス内)

【内容】

研修全体を振り返る教職員ミーティングが行われた。セミナーに対する感想、学生個人に着目した振り返り、教職員自身の言動や行動に対する振り返りがなされ、教職員同士の意見交換が行われた。



写真⑪教職員振り返りの様子

3月31日(日)

●移動

時間:6:00~13:30

場所:南ソウル大学ゲストハウス~仁川空港(バス)、仁川空港~福岡国際空港(飛行機)、福岡国際空港~九州国際大学(バス)

【内容】

教職員バスで南ソウル大学ゲストハウスから仁川空港へ向かった。学生はホームステイ先から各自仁川空港へ移動し、教職員と学生が仁川空港で集合する形となった。その後、福岡国際空港まで飛行機で移動した。飛行機の中では学生が振り返りシートを活用しながら、研修の振り返りを行った。福岡国際空港到着後、九州国際大学までのバス移動中は、セミナー班内の学生同士で振り返りの客観的評価が行われた。

●研修全体の振り返り(写真⑫)

時間:14:00~15:00

場所:九州国際大学 UNGL 推進室

【内容】

5泊6日の研修全体の振り返りが教職員監督のもと、学生中心に行われた。途中、教職員による厳しい指摘も飛び交い学生が涙する場面もあったが、学生自身の経験に基づく学びが促進された。また、学生自身による新たな気づきが発表され、学生間で刺激を受ける場面も見られた。



写真⑫研修の振り返りの様子

●移動(写真⑬)

時間:15:00~20:00

場所:九州国際大学正門~松山大学正門

【内容】

バスで九州国際大学から松山大学まで移動した。バスの中では、愛媛大学および松山大学の学生による自発的な振り返りが行われ、事後学習や新たな気づきが促進された。



写真⑬移動中の様子

## 平成 25 年度

### まつやま「キズナ」プロジェクト

報告者	愛媛大学教育学生支援部教育企画課 林 真輝																		
実施日	平成 25 年 6 月 22 日～8 月 3 日（毎週土曜日）																		
実施先	松山土曜夜市																		
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>教員</th> <th>職員</th> <th>学生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>愛媛大学</td> <td></td> <td>2</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>松山大学</td> <td></td> <td></td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>2</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table>			大学名	教員	職員	学生	愛媛大学		2	4	松山大学			3	合計		2	7
大学名	教員	職員	学生																
愛媛大学		2	4																
松山大学			3																
合計		2	7																
講師	愛媛大学教育企画課能力開発室 職員 (社) 松山青年会議所																		
完了報告	愛媛大学、松山大学、(社) 松山青年会議所との共同事業で、学生・地域の人たちのコミュニケーション能力を高め、ひいては、地縁的なつながりを深め、地域の活力となる人と人との強い「キズナ」づくりを進めるためのショートムービーを制作し、「まつやま市民シンポジウム」において上映した。																		
<p>愛媛大学、松山大学、(社) 松山青年会議所との共同事業 まつやま「キズナ」プロジェクト ～大切な人へ～</p> <p><b>【プログラム概要】</b>  (社) 松山青年会議所ホームページにおいて、家族、仲間、地域の人に対する「感謝の言葉」、  「メッセージ」、笑顔で写っている写真・動画等を一般公募、街頭での取材・撮影等を行うための「まつやま夜市」特設ブースの企画・運営を行う。  そして取材・撮影等、応募があった「感謝の言葉」、「メッセージ」、「写真」、「動画」を利用して、ショートムービーを制作し、「まつやま市民シンポジウム」メインフォーラム第 2 部にて上映する。  参加学生は、大学のサークル、ゼミ、アルバイト、市民活動などでリーダー的役割を担っており、そのスキルを磨きたいと思っている大学生や、これからリーダー的役割を担う意欲がある大学生が参加した。</p> <p><b>【プログラム内容】</b>  <u>活動の流れ</u>  6 月 4 日 全体ミーティング  1 0 日 青年会議所のみなさんとの打ち合わせ  2 2 日 第 1 回 土曜夜市での活動  2 9 日 第 2 回 土曜夜市での活動  7 月 1 3 日 第 3 回 土曜夜市での活動  2 0 日 第 4 回 土曜夜市での活動  2 7 日 第 5 回 土曜夜市での活動  8 月 3 日 第 6 回 土曜夜市での活動  1 9 日 振り返り</p>																			

#### 6月4日

愛媛大学で参加希望者のための説明会とキックオフミーティングが行われた。参加学生はELS12期生4名と13期生3名であった。過去に(社)松山青年会議所との共同事業を行っていたが、「キズナ」プロジェクトを行うのは、初めてであった。

学生の参加動機は、市民ボランティアに興味があったからや、普段関わることのない社会人の方々の仕事に携わってみたい等の意見が挙げられた。

#### 6月10日

(社)松山青年会議所の方々との打合せを行い、学生との初顔合わせが行われた。青年会議所の方から学生への要望としては、「まつやま土曜夜市」特設ブースの企画・運営を学生の斬新なアイデアを活かして行ってもらいたいとのことであった。打合せの中では、学生は、社会人の方にも臆することなく自分の意見を発言していた。

#### 6月22日～8月3日「まつやま土曜夜市」特設ブース運営

初日は5名の学生が参加して「まつやま土曜夜市」特設ブースにて17:00から20:30までショートムービー制作のため写真やメッセージを募集した。特設ブースを通行者の注目を引くつくりするために段ボールでメッセージボードを作り、活動内容を記載したウェルカムボードも作成した。

全7回の活動中で参加学生は2名ずつの当番制とした。当番以外の学生はスケジュールが合う限り参加することとした。その結果、毎回4～5名の学生が特設ブースを運営している状況となった。前半は、必要物品が不足することや、通行者にどのように言葉をかければよいのか戸惑う行動が多くみられた。しかし、後半は積極的に大きな声を出しながら、勧誘活動を行っていた。

そのため、他のブースから過度な勧誘行為を行っているとクレームが入り、「特設ブース」活動を1回自粛した。

この件での学生の意欲低下が懸念されたが、自粛中も打合せを重ねて、改善方法を模索して個人的にメッセージを集めるなど活動を続けていた。

最終写真合計枚数は381枚。目標は1日100枚に設定して700枚としていた。

#### 8月19日

愛媛大学にて参加学生と教職員スタッフによる振り返りが行われた。学生からあげられた意見は以下のとおりである。

##### 〈成長した点・気づき〉

- ・プロジェクトの本質・目的を理解した上で活動するべきだと思った。
- ・伝えることの難しさを学んだ。呼び込みのフレーズを考えるのに苦労した。短い言葉で正確に伝えることをメンバーで話し合ったのが、新しい視点をみつけるために良い機会となった。
- ・初対面の方に臆することなく呼び込みや丁寧な対応をすることが出来た。
- ・メンバーと思いを共有することにより、自分のモチベーションを整え直すことができた。

##### 〈改善点〉

- ・社会人の方との情報共有をしっかりと行う。
- ・事前の準備が不十分で見切り発車であった。
- ・自分と年齢が近い年齢層に話かけていた。いろいろな年齢層の方に話しかけるべき。
- ・写真ばかり集めることに集中して、メッセージを集めることが出来なかった。



【スタッフ所感】

夏休みに入り、プロジェクトメンバーの日程が合わず、打合せを全員で十分にできない状況のまま第1回の特設ブース活動に入っていた。その中で、学生にとってプロジェクトに対する個人的な気持ちの温度差が表れていたように感じた。

特設ブース活動を行うことにより、人に話しかける難しさや短い時間で一番伝えたいことを伝えるには、どのようにすればよいのか等を問題点に掲げ、学生同士で改善策を話し合っていた。本プロジェクトを通して、学生は通行者に声をかけることで度胸がついたと感じることができた。また、自分の想いや気持ちを短時間で相手に伝える大切さに気付いていた。



## 平成 25 年度

### 大人としゃべり場、ファシリテーション道場

報告者	九州国際大学経済学部特任助教 鈴木 理絵																						
実施日	平成 25 年 6 月 22 日 (土)																						
実施先	直方第一中学校・遠賀川館																						
参加者	<p>午前「大人としゃべり場」</p> <p>中学生 197 名            大学生 21 名 (佐賀大学、九州国際大学)            教職員 6 名 (佐賀大学、九州国際大学)            一般参加 169 名            合計 393 名</p> <p>午後「ファシリテーション道場」</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>学生</th> <th>教職員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>佐賀大学</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>九州国際大学</td> <td>17</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>福岡県立大学</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>近畿大学</td> <td>6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>一般参加</td> <td></td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>27</td> <td>9</td> </tr> </tbody> </table>		大学名	学生	教職員	佐賀大学	2	2	九州国際大学	17	3	福岡県立大学	2		近畿大学	6		一般参加		4	合計	27	9
大学名	学生	教職員																					
佐賀大学	2	2																					
九州国際大学	17	3																					
福岡県立大学	2																						
近畿大学	6																						
一般参加		4																					
合計	27	9																					
講師	<p>午前・Activity①担当</p> <p>梅原 達巳氏 (直方市役所 都市計画科)            平成 7 年に、自動車メーカーから直方市役所に転職。生活保護担当、企画・情報担当を経て、現在は、都市計画 (JR 直方駅周辺整備) 担当。生活保護の仕事は、幅広い知識が必要となるため、市の職員だけではなく、病院や福祉関係者に声を掛け勉強会を積極的に企画。会議の設定や進め方に苦慮する中で「ファシリテーション」に出会い、現在は、「NPO 法人日本ファシリテーション協会」の会員の一人。「大崎市協働のまちづくりフォーラム (第 1 回)」、「直方市子育て市民会議」、「北九州市八幡西区母の会リーダー研修」を含め、他 6 つの講師を担当。</p> <p>Activity②担当</p> <p>檜原 英樹 (九州国際大学 大学総務室)            鈴木 理絵 (九州国際大学 経済学部特任助教)</p>																						
内容	<p>「相手の話を聴く」、「自分の考えを伝える」ことの重要性に焦点をあてた研修プログラムを、平成 25 年 6 月 22 日 (土) に開催した。この研修では、2 つのチーム・アクティビティを実施した。それぞれ、チームでの協働を必要とする内容で、その活動とプロセスの振り返りを通して「対話のコツ」を考え、それがファシリテーションの一端であることを学んだ。具体的な内容は以下の通りである。</p>																						

### 【プログラム到達目標】

「ファシリテーション」について、具体的にどのような役割やスキルのことを指すのか、実践とそれに対する振り返りを通して自分なりの考えを述べることができる。

### 【プログラム内容】

午前の部 9:00-11:30

「大人としゃべり場～トークフォークダンス～」



#### ○ 大学生によるアイスブレイク

中学生や一般参加者の緊張をほぐすため「トークフォークダンス」の前に、大学生による簡単なゲームが各グループで30分間行われた。

#### ○ トークフォークダンス

トークフォークダンスでは、進行役のファシリテーションから出される問いに対して、1問1分間で、大人と中学生が交互に話をする。問いの数は、大人10問・中学生10問合計20問用意されていた。具体的な質問については、質問リスト参照。

#### ○ 大学生による各チームの振り返り

「アイスブレイク」と同様、大学生による各グループの振り返りが行われた。

#### ○ 全体振り返り

各グループの中で振り返りの際に出てきた、コメントの発表が行われた。

直方第一中学校の生徒にとって今回の機会は、地域の大人と「1対1」の対話を行うことで、「大人」というものを身近に感じてもらうものになったようである。一方、UNGL 連携校の学生にとっては、事前に準備したアイスブレイクや各グループの振り返りをまとめることで、「ファシリテーター」を体験する良い機会となった。



#### 質問リスト

- ・昨日何をしていましたか？・好きなお菓子はなんですか？・好きな異性のタイプは？
- ・お勧めしたい本は？（漫画可）・行ってみたい場所、又は行ってよかった場所は？
- ・キャベツは切られているとき痛いのか？・なぜ今の場所に住んでいるのか？
- ・将来、直方に住み生活をしていきますか？・宿題はなぜあるのか？
- ・なぜ仕事をすると思うか？・今まで一番つらい思いをしたときはどんな時か？
- ・あなたにとって「大人」はどんな人ですか？・10年後は何をしていますか？
- ・幸せになるためには何が必要ですか？

午後の部 13:00-17:00 「ファシリテーション道場」

○午前の部振り返り 13:00-13:20

○ アイスブレイク 13:20-13:30

まずアクティビティに入る前に、血液型によるチーム分けを行った。さらに、「カタルカ」を使用した自己紹介が各チームで行われた。



○Activity①13:30-14:50「マシュマロチャレンジ」 担当：梅原

バスタ 20 本、テープ 90 センチ、ひも 90 センチ、マシュマロ 1 個の 4 つのアイテムを使用し、決められた時間の中でできるだけ高いタワーを作るマシュマロチャレンジというアクティビティを行った。このアクティビティでは、決められた時間と脆弱な素材を使いタワーを作り上げなければならないことから、どのような戦略でタワーを作成するのかなどチーム内の意思疎通や一人ひとりの役割が不可欠になる。タワーの作成を合計 2 回行う中で、①どんなプロセスでタワーを作りあげたか?②上手くいった点③改善点の 3 点を振り返ることで、チームでの協働における一人ひとりの役割や合意形成の方法などについて考えた。



○Activity② 「麺類商店街」 15:00-16:15 担当：檜原・鈴木

受講者にとって身近な「食事」を題材に、「夕飯にどの麺類を食べに行くか」話し合いを通して合意形成するアクティビティを実施した。チームの中で話がまとまらない際に、第 2 希望を出し合って、上手く合意形成できた班もあれば、自己主張が強すぎて、全く話がまとまらない班もあり、振り返りでなぜ話し合いが上手く進んだのか・なぜ上手くいかなかったのか、合意形成のプロセスに焦点を当て、各チームで「対話のコツ」を考えた。

○午後の部の振り返り 16:20-16:50

2 つのアクティビティを通して、学んだ「対話のコツ」を各チームでまとめ、発表した。



【受講者の感想】

- ・話し合いを上手く進めるためには、「目的」、「役割」、「進行」、「約束」が大切で、縮めて、「もやしの約束」と講師が説明してくれた。とても覚えやすかった。
- ・午前の部で、中学 1 年生の輪を担当したが、生徒同士が恥ずかしがって、なかなか指示通りに動いてくれないことで苦戦した。大学生とはまた違う環境で、アイスブレイクの方法や、指示の出し方が必要だと学んだ。



平成 25 年度

## 会議ファシリテーション入門セミナー

報告者	松山大学学生支援室 泉谷道子																				
実施日	平成 25 年 7 月 10 日 (水) 18 時～21 時																				
実施先	松山大学学生支援室																				
参加者	<table border="1"><thead><tr><th>大学名</th><th>教員</th><th>職員</th><th>学生</th></tr></thead><tbody><tr><td>愛媛大学</td><td>2</td><td>1</td><td>13</td></tr><tr><td>九州国際大学</td><td>1</td><td></td><td></td></tr><tr><td>松山大学</td><td>5</td><td>2</td><td>13</td></tr><tr><td>合計</td><td>8</td><td>3</td><td>26</td></tr></tbody></table>	大学名	教員	職員	学生	愛媛大学	2	1	13	九州国際大学	1			松山大学	5	2	13	合計	8	3	26
大学名	教員	職員	学生																		
愛媛大学	2	1	13																		
九州国際大学	1																				
松山大学	5	2	13																		
合計	8	3	26																		
講師	青木将幸 (青木将幸ファシリテーター事務所代表) プロフィール：1976 年生まれ。環境 NGO・A SEED JAPAN に関わる傍ら「それぞれの持ち味が発揮される組織づくり」に関心をよせる。95 年より NPO 向けの団体運営トレーニング開発に関わる。企画会社ワークショップ・ミューに 5 年間参画した後、2003 年に青木将幸ファシリテーター事務所を設立。以来、毎年 100 回程のペースで会議・ワークショップ等の進行役をつとめている。著書に「市民の会議術/ミーティング・ファシリテーション入門」がある。																				
完了報告	良い会議と悪い会議についてグループと全体で話し合うプロセスを実践することを通して、効果的な会議について学んだ。具体的には、公平な意見の求め方、合意形成の仕方、板書の仕方など、すぐに実践できる様々な手法が紹介された。最後に参加者の話し合いたいテーマでいくつもの「会議」が同時進行で行われたが、立場も大学も異なる中でも、楽しさと公平さと創造性を大事にした「会議」を行う様子が多く見られた。																				
<p><b>【プログラム到達目標】</b> 目的：会議や打合せをより良くするコツについてレクチャーとグループワークを通して学ぶ。 目標：普段行っている会議や打合せをより効果的にするコツを知る。</p> <p><b>【プログラム概要】</b> 良い会議と悪い会議についてグループと全体で話し合うプロセスを実践することを通して、効果的な会議について学んだ。具体的には、公平な意見の求め方、合意形成の仕方、板書の仕方など、すぐに実践できる様々な手法が紹介された。</p> <p><b>【プログラム内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 「私が思う良い会議、良くない会議」を個々人が考え 3 人グループで共有</li><li>・ 3 人で合意した「良い会議のあり方」を確認。講師より所属組織で壁に貼る提案</li><li>・ コミュニケーションが起きる休憩とそうでない休憩を会場のお茶菓子コーナーを参照しながら解説</li><li>・ 話し合いと会議の違い (何が決まったかが明らかになるのが会議)</li><li>・ 会議に必要な良い問いについて</li><li>・ 会議ファシリテーターの役割は「みんなが自分の頭で考え、発言し、意見交換し、意思決定するのをしやすくすること」</li><li>・ 大企業の会議例 (トヨタ、日産) を示しながら「会議が変われば文化が変わる」を解説</li></ul> <p style="text-align: right;">など</p>																					

## 【アンケート結果】

回答者 33 名

### ① セミナーに満足できたか

満足である 21 名 やや満足である 12 名

### ② 気づいたこと、感じたこと、学んだことがあれば教えてください（抜粋）

- ・紙に書いて意見を引き出すのは画期的だと思った。いつも自己主張が強く話を前に進めてしまうので、気を付けようと思った。
- ・ファシリテーターはよい意見を出す必要はなく良い意見を出せる環境を作ってあげることが重要。そのためのスキルである。
- ・自分はリーダーをして、実際に会議を進めているが、非常に自分を見直すいい機会になった。こういう機械で、振り返ることができると思う。自分自身で振り返れるようになりたい。講義とセミナーの仕方、どちらからも得るものがあった。
- ・進行役が方向性を操作しない。進行役自身はその集団にどうかかわりたいのか選び決める。メンバーを信頼し、投げかけることの大切さを強く感じました。まず自分が信頼することが大事なのですが、共有されているものがまだない状態で信頼するのは怖い！でも信頼してみたいし、努力はしているつもりだが・・・

### ③ 明日からでも実践してみたいこと（抜粋）

- ・人の意見を尊重すること
- ・ファシリテーショングラフィック、相手が一番言いたいことを書く。
- ・メンバーと良い会議のイメージを話し合うこと。
- ・大人数で議論する前に少人数で議論するというのはすぐに実践したいと思いました。
- ・板書の方法。
- ・3cm投票やシール投票を使ってみたいと思いました。

### ④ 本プログラムの改善点要望（抜粋）

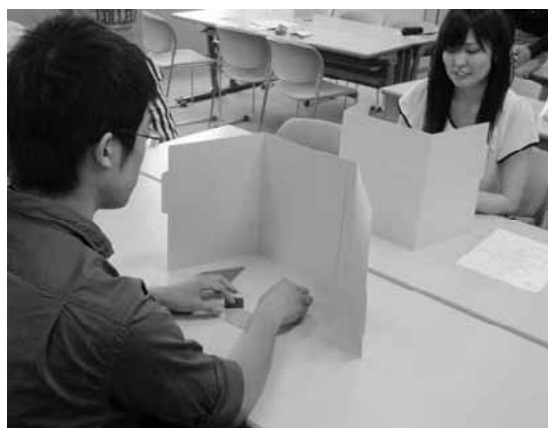
- ・回数を増やしてほしい、土日2日間などにやってほしい。
- ・時間が長そうと思いましたが、実際は非常に短く感じました。
- ・途中の質疑応答は有意義だったが、もう少し使えるスキル知識も知りたかった。
- ・体験的に学べたのでもう少しファシリテーションに関する手法を学んでみたい。



平成 25 年度

## 香川大学リーダーシップ養成研修

報告者	香川大学大学教育開発センター准教授 葛城 浩一																
実施日	平成 25 年 8 月 6 日 (火) ~7 日 (水)																
実施先	香川大学 幸町キャンパス 研究交流棟 5 階 研究者交流スペース																
参加者	<table border="1"><thead><tr><th>大学名</th><th>教員</th><th>職員</th><th>学生</th></tr></thead><tbody><tr><td>香川大学</td><td>1</td><td>2</td><td>5</td></tr><tr><td>松山大学</td><td>1</td><td></td><td>4</td></tr><tr><td>合計</td><td>2</td><td>2</td><td>9</td></tr></tbody></table>	大学名	教員	職員	学生	香川大学	1	2	5	松山大学	1		4	合計	2	2	9
大学名	教員	職員	学生														
香川大学	1	2	5														
松山大学	1		4														
合計	2	2	9														
講師	磯野隆二 ((株) グロップ人材開発部部長) 島村朱美 ((株) グロップ人材開発部人材開発課リーダー)																
完了報告	本プログラムは、民間企業での新卒採用や研修、コンサルティングを経験してきたプロが講師を務め、これからの生活・社会に出てから必要となるリーダーシップを学び自ら気づきを得るために、様々なグループワーク、個人ワークに取り組むものであった。参加者の評価は極めて高く、有意義なプログラムだっただけに、参加者数の少なさが悔やまれる。																
<p><b>【プログラム到達目標】</b> 多様な社会の構造と現実を認識しながら、変化の激しい現代社会において必要となる力を学習することで、あらゆる場面において必要となるリーダーシップの基礎を身につける。</p> <p><b>【プログラム概要】</b> 民間企業での新卒採用や研修、コンサルティングを経験してきたプロが講師を務め、これからの生活・社会に出てから必要となるリーダーシップを学び気づきを得るために、様々なグループワーク、個人ワークに取り組んだ。</p> <p><b>【プログラム内容】</b> プログラムはグループワーク中心に進められた。以下、主だったものをいくつか紹介する。</p> <p>① パズル ペアワーク。1 人はあらかじめ指定された形に組まれた複数のピースからなるパズルの形状を、口頭でもう 1 人に伝え、もう 1 人はそれを受けて同じ形状に組み立てるという内容。一見簡単なように見えるこのワークだが実は非常に難しく、参加者はかなり手こずっていた。コミュニケーションの難しさを痛感させられるワーク。</p>																	



## 黒熊の森

5～6 人のグループワーク。ハイキング中に緊急事態が発生したという想定のもと、与えられた選択肢の中から最善策を考えるとともに、そのためのアイテムの優先順位も考えるという内容。まずは「個人の選択」を行った後、グループで話し合っ「チームの選択」を導き出す。参加者は限られた情報をもとに、「正解」を導き出すべく議論を行っていた。



## ② 生還大作戦

5～6 人のグループワーク。自分を含む 10 人が大海原の孤島に漂着し、いかだで脱出を試みるが自分以外に連れて行けるのは 4 人だけという想定のもと、誰を連れて行くかを考えるという内容。まずは「個人の選択」を行った後、グループで話し合っ「チームの選択」を導き出す。「黒熊の森」と異なるのは、「生還大作戦」には「正解」がないという点。「誰を生かすか」は逆に言えば「誰を殺すか」ということ。参加者は難しい問題に頭を悩ませていた。



## 【アンケート結果】

参加者の評価は極めて高かった。「研修は全体的に満足できるものであった」という問いに対しては、回答者 11 名中実に 10 名が「そう思う」と回答している。本プログラムの主たる目的のひとつは、「リーダーシップ」には、集団の先頭に立って引っ張っていくような「旧来型のリーダーシップ」だけでなく、多様なスタイルがあるということを理解することであった。自由記述をみる限りそれは十分に達成されているようである。ただ、リーダーシップには多様なスタイルがあるということを理解していないであろう学生に対して、「リーダーシップ」と冠したプログラムで募集をかけてしまったため、有意義なプログラムであったにもかかわらず、参加者数は少なかったことが悔やまれる。以下は、アンケートの自由記述からの抜粋。

### (良かった点)

- ・誰もが想像以上の研修内容であったと思うし、リーダーシップについての偏見を解消するには十分過ぎる内容であった。
- ・これまでのリーダーシップのイメージを変えることができ、自身の持っているリーダーシップのタイプを伸ばしていけばよいと確認できた点。
- ・今までの自分の概念を変えることができた。

### (課題)

- ・やはり「リーダーシップ」という言葉がネックなのではないでしょうか…講師の方の生き方や経験が魅力的なので、それを全面に出して PR しては？
- ・「リーダー意外（原文ママ）の人に参加してほしい」メッセージがわかるような発信。
- ・告知を学務メールで行ってほしい。詳細な情報と共に、簡潔に内容を伝える文章があれば興味を引けるかもしれない。



## 平成 25 年度

### FM 高松学生レポーターチャレンジプログラム

報告者	香川大学生涯学習教育研究センター准教授 山本 珠美			
実施日	平成 25 年 8 月 7 日～9 日			
実施先	香川大学、FM815、及び瀬戸内国際芸術祭開催地			
参加者	大学名	教員	職員	学生
	香川大学	2	1	3
	山口大学	1		2
	合計	3	1	5
講師	山本珠美（香川大学生涯学習教育研究センター准教授）			
完了報告	香川大学の正課外活動の一環である「瀬戸内国際芸術祭香川大学プロジェクト」中の「コミュニティ放送局と連携した「瀬戸内国際芸術祭 2013」特集番組の制作」に山口大学生が参加した。瀬戸内国際芸術祭 2013 を取材し、FM 高松コミュニティ放送（FM815）にて放送中の番組“香大生 presents : Art Time Junction” に出演、自らの取材成果を報告した。初日に基礎的な学習、2 日目に各自で選択した島を取材、3 日目に番組企画案の審査を経て、合格した参加者が番組を収録した。3 日間という短期間ではあったが、その中では満足できる成果を挙げる事ができたと思われる。			
<p><b>【プログラム到達目標】</b>          瀬戸内国際芸術祭 2013 を取材し、FM 高松コミュニティ放送（FM815）にて放送中の番組“香大生 presents : Art Time Junction” に出演、自らの取材成果を報告する。ただし、出演に際しては、審査会にて合格することが求められる。なお、“香大生 presents : Art Time Junction” とは、2013 年度の瀬戸内国際芸術祭香川大学プロジェクトの一環であり、芸術祭期間中、香川大学生が主体となって制作しているラジオ番組のことである。</p> <p><b>【プログラム概要】</b>          リーダーシップ発揮のためには、自らの考えを人前でプレゼンする力量は必要不可欠である。本プログラムでは自らが見てきたものをラジオというメディアを通して伝える体験をする。          1 日目（8 月 7 日）：香川大学にてラジオ番組制作の基礎について講義、その後番組収録体験。          2 日目（8 月 8 日）：各自で選択した瀬戸内国際芸術祭の会場となっている島を訪問・取材。          3 日目（8 月 9 日）：午前、自らの番組企画案をプレゼン、審査。合格した参加者が、午後、それぞれの企画案に沿って番組を収録。番組進行役は香大生の加藤昇・廣瀬渉が行う。          3 日間のスケジュールは以下の通り。</p>				
1 日目	香川大学	13 : 00～14 : 00	プログラムの趣旨説明	
		14 : 00～15 : 00	自己紹介&ラジオ収録体験	
		15 : 00～15 : 15	休憩	
		15 : 15～16 : 45	取材先の選定・番組企画案の作成①	
		16 : 45～18 : 45	瀬戸内国際芸術祭（高松港エリア）見学	

1日目	香川大学	18:45~19:45	夕食
		19:45~20:45	取材先の選定・番組企画案の作成②
		20:45~21:00	取材にあたっての諸注意
2日目	芸術祭会場	終日	各自で取材（自分で選んだ島を訪問）
3日目	(会場移動)	9:30~10:00	香川大学集合、FM815へ
	FM815 スタジオ	10:00~12:00	審査会
		(随時)	昼食
		12:00~14:00	審査結果発表&番組収録

### 【プログラム内容】

初日は香川大学・山口大学の参加者の相互理解を深めることを目的とし、既に何本かの番組制作経験のある香大生がMCを務め、番組収録体験という形をとったトーク練習を行った。この方法は予想以上に双方の学生の距離を縮めるのに役立った。3日目午前の、各自の取材成果を持ち寄ってのプレゼンは、甲乙つけがたかったため、結果的に全員が審査をパスし、それぞれの企画に沿った番組収録を行った。3日間という短期間の限界はあったにせよ、その中では満足できる成果を挙げる事ができたと思われる。



[8月7日(水) 香川大学にてトーク練習]



[8月9日(金) FM815スタジオにて収録]

### 【アンケート結果】

アンケートは取っていないが、終了後に山口大学の参加者からは感想を寄せて頂いた。

- ・芸術祭といわれるとなんとなく敷居が高そうな気もしますが、そうとも限りません。スタッフさんの対応は形式的なものだけじゃないし、すごく親しみを持ちながら島を回ることができます。芸術祭の芸術だけじゃない魅力もありました。(山口大学人文学部1年・財津柊平)
- ・自分で見て触れて体験したものを、全く知らない人に、わかりやすく声だけで伝える難しさを改めて感じました。また、台本のないフリートークは独特の難しさですね。(中略)この3日間で学んだことをこれから存分に活かして頑張りたいと思います！香川はうどん県だけじゃなく、アートな県！他に様々な魅力が発見できました！(山口大学工学部1年・渡邊美希)
- ・瀬戸芸のすばらしさは予想以上で、多くのインスピレーションが舞い降りてきました。(山口大学助教・松岡陽子)

平成 25 年度

英語で学ぶ異文化リテラシー養成講座

報告者	松山大学学生支援室 泉谷 道子		
実施日	平成 25 年 8 月 10 日～平成 26 年 2 月 22 日 (全 12 回)		
実施先	松山大学学生支援室		
参加者	第 1 回 平成 25 年 8 月 10 日 (土) 10 時 30 分～12 時 30 分		
	大学名	教職員	学生
	松山大学	1	1
	愛媛大学		2
	合計	1	3
	第 2 回 9 月 7 日 (土) 10 時 30 分～12 時 30 分		
	大学名	教職員	学生
	松山大学	1	5
	愛媛大学		2
	合計	1	7
	第 3 回 9 月 28 日 (土) 10 時 30 分～12 時 30 分		
	大学名	教職員	学生
	松山大学	1	6
	愛媛大学		3
	合計	1	9
	第 4 回 10 月 26 日 (土) 10 時 30 分～12 時 30 分		
	大学名	教職員	学生
	松山大学	1	8
	愛媛大学		2
	京都外国語大学		1
	合計	1	11
	第 5 回 11 月 9 日 (土) 10 時 30 分～12 時 30 分		
	大学名	教職員	学生
	松山大学	1	9
愛媛大学		1	
合計	1	10	
第 6 回 11 月 30 日 (土) 10 時 30 分～12 時 30 分			
大学名	教職員	学生	
松山大学	1	7	
愛媛大学		2	
合計	1	9	

第7回 12月21日(土) 10時30分～12時30分

大学名	教職員	学生
松山大学	1	7
愛媛大学		2
合計	1	9

第8回 平成26年1月11日(土) 10時30分～12時30分

大学名	教職員	学生
松山大学	1	9
愛媛大学		2
合計	1	11

第9回 1月25日(土) 10時30分～12時30分

大学名	教職員	学生
松山大学	1	12
愛媛大学		3
南ソウル大学		15
合計	1	30

第10回 2月8日(土) 10時30分～12時30分

大学名	教職員	学生
松山大学	1	11
愛媛大学		1
合計	1	12

第11回 2月21日(土) 10時30分～12時30分

大学名	教職員	学生
松山大学	1	8
愛媛大学		2
合計	1	10

第12回 2月22日(土) 10時30分～12時30分

大学名	教職員	学生
松山大学	1	6
愛媛大学		2
合計	1	8

講師

Jane Susan Bloy (えひめグローバルネットワーク)  
泉谷 道子 (松山大学学生支援室)

完了報告

参加者が少ないという課題はあるが、参加者のほとんどがリピーターなので、回数を重回数を重ねるごとに、参加者の講座への積極性が高まっていることが伺える。具体的には、スタッフとして準備に携わる、英語環境を維持しようと、日本語を喋っている参加者に積極的に英語で関わる、テーマに関する資料を収集し他の受講生と共有するなどが見られる。英語で質の高い議論を行うことを求める参加者が増え始めている一方で、英会話初心者もあり、いずれは英語能力のレベルでクラス分けを行う必要があると考える。

### 【プログラム到達目標】

目的：年代、ジェンダー、国等、様々な違いを超え、共有する問題に、他者と協同しながら対処するための知識・技能・態度を養う

目標：地球規模の課題に対する基本的知識・構造・解決へのアプローチについて英語で説明できる異文化への寛容さが現状よりも増す  
異文化交流への意欲が現状よりも増す  
英語学習を習慣化させる

### 【プログラム概要】

環境、貧困、人権、平和、多文化理解などのテーマの基本的な事柄について、英語を用いた開発教育\*の参加型活動（ゲーム、シミュレーション、ロールプレイ、プレゼンテーション）を通して学ぶ。活動は、参加者が、能動的に問題の本質に気づき他の学習者との意見交換や協同作業の中で、考えを深めることができるようにデザインされる。

### 【プログラム内容】

#### 第1回：「レヌカの学び」

自分の中にできている「思い込み」「偏見」に気づく。また、ネパールという「国」ではなく、レヌカさんという「個」の視点に寄り添っていく「学び」のあり方を追究しながら、多文化共生のために私たち一人一人にできることを考える。

#### 第2回：「世界がもし100人の村だったら」

人口、保健、水、教育、食料事情、宗教、環境などの多国間の違いについて理解し、自己とそれぞれの課題のつながりについて考える。

#### 第3回：「対立の解決」

ロールプレイングなどを通して、対立の定義、傾聴スキル、怒りのマネジメント法について知る。また、他者間の対立における仲介のステップについて知る。

#### 第4回：「アフリカ」

絵本や音楽を通してアフリカ文化に触れる。コーヒー生産の盛んなルカニ村の暮らしの変容について知る。コーヒー危機とその対策としてのフェアトレードについて知る。

#### 第5回：「東日本大震災-世界からの支援-」

東日本大震災の被害の全貌について英語で確認する。東日本大震災のために、世界中から受けた援助の実際を知る。援助する側とされる側の気持ちを確認し、世界の人々の連帯の意識（solidarity）に触れる。

#### 第6回：「エネルギーと原発」

エネルギーには様々な種類のものがあることを理解する。原発やエネルギーに関してきになること、疑問点など共有し、課題発見につなげる。新聞記事などを読み他者の原発に対する意見や価値観に触れる。日本の原発（福島）の現状について把握する。

#### 第7回：「フードマイレージ」

フードマイレージの概念を解釈する。日本における一般的な料理のフードマイレージを計算する。フードマイレージとCO<sub>2</sub>排出量を関連づける。フードマイレージが高くなった原因の良い点と悪い点について整理する。

#### 第8回：「世界の食卓」

世界の家庭の食卓の写真について対話をしながら、ものごとの多様な捉え方に気づき他の国に住む人々、宗教、食生活を身近に感じる。

第9回：「韓国学生との対話」

日本人学生と韓国学生がお互いのポップカルチャーについて紹介する。マシュマロ・タワー活動を通して自己や他者のリーダーシップに気づく。

第10回：「チョコレートと児童労働」

ビデオ、ゲーム、ロールプレイングを通して、カカオ農家が抱える課題とフェアトレードカカオの利点を知る。フェアトレードと非フェアトレード商品がカカオ農家の生活に与える影響について知る。

第11回：「パームオイルと熱帯雨林」

紙芝居やロールプレイングを通して・油ヤシ生産と熱帯雨林破壊の関係について知る。油ヤシ生産に従事する家族の暮らしについて英語で表現する。また、環境や人権に配慮した消費者行動について、自分なりの考えを英語で伝える。

第12回：「真の自己を知る、分かち合う、信じる」

ワークを通して自己の価値と信念を知る。それらに基づいて自己の人生のビジョンを描き他者と共有する。

【アンケート結果】

第1回 アンケート実施無し

第2回 回答者 5名

① セミナーに満足できたか

とても満足である	3名	満足である	2名
あまり満足しなかった	0名	全く満足できなかった	0名

② 本講座であなたはどんなことに気づきましたか？また何を学びましたか？（抜粋）

- ・世界の諸問題を”その国の問題”としてではなく、”我々人間の問題”と気づかせる重要さが、国際的な活動への第一歩であることを改めて感じました。また、その諸問題に対し、先進国である日本の経済力、技術力をどう活かし、解決へと進めていくことが、日本の国際人育成の重要な要素であるとも感じました。
- ・自分のいる環境や周りのものがいかに恵まれているか、もっとそのことに対して感謝の気持ちや全力で取り組むべきだと痛感しました。また、世界には学ぶことのできない子どもたちがいるということに、「そうなんだ」で終わるのではなく、そのことに対して「自分に何ができるか」と問いかけることも大切だと感じました。

③ 本講座をより良いものにするために、何が求められますか？

- ・もっと私たち受講者が発言できるようになるともっと輪が広がると感じました。発言することは勇気がいりますが、次回は前回より自信を持って会話に参加できたと思います。
- ・人数がもっと増えてきたら話しですが、英語能力でレベル分けをし、そのレベルにあったスピード、内容で進めていくことが大事かと思いました。

第3回 回答者 3名

① セミナーに満足できたか

とても満足である	2名	満足である	1名
あまり満足しなかった	0名	全く満足できなかった	0名

- ② 本講座であなたはどんなことに気づきましたか？また何を学びましたか？（抜粋）
- ・ どんな大きさの対立でも話し合いがいかにか大切に再認識しました。個人間トラブルから外交トラブルまで、話し合いを通して相手のニーズを知り、お互い有益になるようにすることが大切だと思いました。
  - ・ 講義中にも話しましたが父との対立を振り返り、自分ができていないことを相手に要求しても何も始まらないと気づきました。私はいつも目先のことを置いて、大きなものにばかり目がいってしまうため、父を不安にさせているんだという、彼のニーズを改めて読み取れた気がします。あとは行動に移すのみです。
- ③ 本講座をより良いものにするために、何が求められますか？
- ・ 全体的に延長しすぎなのでは、と思いました。でも、みんなが考えるという、作業を重視しているなら、いいと思いました。逆にとりあえず計画通りにやりきるが重視しているなら少しだけでも延長をなくせば最後出来なかったところも出来るのかなと思いました。
  - ・ 前回より人数もほどよく増え、生産的なワークショップになったと思います。発言の少ない方もいらっしまったので、その方達に発言を促せるようサポートすることも大事かと思いました。

#### 第4回 回答者 12名

① セミナーに満足できたか

とても満足である	7名	満足である	5名
あまり満足しなかった	0名	全く満足できなかった	0名

- ② 本講座であなたはどんなことに気づきましたか？また何を学びましたか？（抜粋）
- ・ アフリカは貧困というイメージはあったが、今回のワークショップで改めてdevelopingとdevelopedの格差を認識した。
  - ・ 私はコーヒーが好きでよく飲んでいるが、実際に農家の人に還元されるお金は10分の1にも満たないと知り衝撃的だった。
  - ・ 知っているつもりだったフェアトレードの詳細や批判もあるなど、多くのことを知ることができた。
  - ・ 最近目先の就職のことばかりで「大学勉強なんて大して役に立たない」なんて言う人が学生にも講師にも多いが、しっかり勉強していかないと世界から取り残されると思う。
- ③ 本講座をより良いものにするために、何が求められますか？
- ・ 情報を多く得ることができるので、より発信する場面があっても良いのでは。
  - ・ 人数も増え、学生間のインタアクションも増え、それぞれが英語を発する機会が増えよかった。
  - ・ 今日は今迄が一番雰囲気明るく乏しい英語力でもコミュニケーションが取りやすかった。

#### 第5回 回答者 8名

① セミナーに満足できたか

とても満足である	4名	満足である	4名
あまり満足しなかった	0名	全く満足できなかった	0名

- ② 本講座であなたはどんなことに気づきましたか？また何を学びましたか？（抜粋）
- ・ 自分たちの生活だけで精一杯な人たちの支援に心が暖かくなった。
  - ・ ニュースなどで聞き流すような情報について意見交換をしたり、深く考えることができるので、自分の思考力を養える場としてとても良い。
  - ・ 英語だけでなく、幅広い知識を得ることができる。
- ③ 本講座をより良いものにするために、何が求められますか？
- ・ 留学生とディスカッションしてみたい。

第6回 回答者 9名

① セミナーに満足できたか

とても満足である 6名 満足である 3名

あまり満足しなかった 0名 全く満足できなかった 0名

② 本講座であなたはどんなことに気づきましたか？また何を学びましたか？（抜粋）

- ・ 私たちは今まで政府や東電を無責任に批判していた。しかし今日新聞記事を読んで、私たちを含め世界の人々にも責任があることにハッと気づいた。
- ・ もっと知る努力が必要、知った後理解を深める努力。
- ・ 海外のボランティアや貧しい子ども達に目がいきがちで、父親に「なんで東北でボランティアせんのか？」と言われました。ニュースを見ても専門用語ばかりで難しく避けていたのも事実・・・現に助けを必要としている人がいるのにそこに目を向けていない自分がいて、もっと考え直さなければいけないと思った。
- ・ 政府がいかに情報を公開していないかということも感じた。私たちは正しい情報を知るべきだし、それをもっと主張しなければならない。

③ 本講座をより良いものにするために、何が求められますか？

- ・ 第2言語（英語）で伝えることはとても大切だと思う。日本語と英語を2日に分けてディスカッションするのはどうだろう？

第7回 回答者 6名

① セミナーに満足できたか

とても満足である 4名 満足である 2名

あまり満足しなかった 0名 全く満足できなかった 0名

② 本講座であなたはどんなことに気づきましたか？また何を学びましたか？（抜粋）

- ・ 伝えようとする姿勢が一番大事だと感じました。
- ・ フードマイレージの問題点と利点を知れて考えの幅が広がった。
- ・ マイレージは必ずエネルギー消費量と一致しないことを知った。
- ・ 英語の使用量が増えたと思います。もっとみんながしゃべりやすいよう促す力をつけたいと思います。
- ・ 地産地消をこころがけたい。

③ 本講座をより良いものにするために、何が求められますか？

- ・ 英語で詰まる人も多いので、今日使った How do you say ……? の表現で、例文を追加して欲しい。

第8回 回答者 11名

① セミナーに満足できたか

とても満足である 6名 満足である 5名

あまり満足しなかった 0名 全く満足できなかった 0名

② 本講座であなたはどんなことに気づきましたか？また何を学びましたか？（抜粋）

- ・ 食事と宗教で家族の生活スタイル・価値観が異なること。
- ・ どの国も家族とあたたかい関係を持っている。一番つらいのは孤独だと思います。どんなに貧しくても豊かに見えても。
- ・ 写真一枚からでも情報を得て分析することができる。
- ・ 自分の意見を言う、表現することの大切さ。



③ 本講座をより良いものにするために、何が求められますか？

- ・ 留学生に英語版の案内を毎週アップする。
- ・ 日本語をどうしても使う人が出てくるので、その環境をなくす。

第9回 回答者 23名

① セミナーに満足できたか

とても満足である	16名	満足である	7名
あまり満足しなかった	0名	全く満足できなかった	0名

② 本講座であなたはどんなことに気づきましたか？また何を学びましたか？（抜粋）

- ・ 日本語を第2言語として学んでいる人たちと英語で授業したことが新鮮で楽しかった。
- ・ 韓国学生の挨拶やすぐに仲良くなろうとする姿勢が素晴らしいと思った。
- ・ 韓国の人は意見をしっかり言うのでコミュニケーションを取りやすかった。
- ・ 国が違っていても気持や意見を言うことができる。

③ 本講座をより良いものにするために、何が求められますか？

- ・ 一つのワークに時間を取り過ぎているように感じた。
- ・ 今日のように多くの文化背景を持つ人と交流できるといろいろな学びがある。

第10回 回答者 12名

① セミナーに満足できたか

とても満足である	10名	満足である	1名
あまり満足しなかった	0名	全く満足できなかった	0名

② 本講座であなたはどんなことに気づきましたか？また何を学びましたか？（抜粋）

- ・ 生産者の生気の無い目や雰囲気が相当強いインパクトがありました。
- ・ 甘い食べ物の裏に力国な状況があるのを知れて、商品ができるまでの背景を想像するようになります。
- ・ 生産者のインタビューで「僕の肉を食べていると感じて欲しい」という言葉が衝撃的でした。
- ・ フェアトレードにも問題があることを知って、自分にできないことは無いか考える良い機会になりました。

③ 本講座をより良いものにするために、何が求められますか？

- ・ 今回のように知っているようで知らない問題をどんどん取り上げて欲しい。

第11回 回答者 6名

① セミナーに満足できたか

とても満足である	5名	満足である	1名
あまり満足しなかった	0名	全く満足できなかった	0名

② 本講座であなたはどんなことに気づきましたか？また何を学びましたか？（抜粋）

- ・ 普段使っている製品に多くの人に関わっていて、多くの人苦勞していることを毎回考えるようになって、良い勉強になっています。
- ・ 途中で英語のプレゼンテーションをする時に英語に訳すのを苦勞したが、いざ発表したら楽しかった。
- ・ パーム油から熱帯雨林まで幅広く知ることができた。

③ 本講座をより良いものにするために、何が求められますか？

- ・ 特になし

第12回 回答者 4名

① セミナーに満足できたか

とても満足である	2名	満足である	2名
あまり満足しなかった	0名	全く満足できなかった	0名

② 本講座であなたはどんなことに気づきましたか？また何を学びましたか？（抜粋）

- ・ 自分の価値とビジョンが明確になりました。
- ・ 100人いれば100通りの価値観があることを感じた。そういう価値観をお互いが理解し合い、尊重していくような世の中になるよう少しでも力になりたいと感じた。
- ・ 人と価値について話すことが好きだと思った。そして価値を知ることは人を知る上で大切だと思った。また私はこの価値というものが今のところ変化していないからこそ、将来やりたいこともほとんど変化していないのだと思った。

③ 本講座をより良いものにするために、何が求められますか？

- ・ もう少し長い時間じっくり学びたい。



## 平成 25 年度

### リーダーシップ・チャレンジ in 台湾

報告者	愛媛大学教育学生支援部教育企画課 林 真輝																																	
実施日	平成 25 年 8 月 19 日（月）～24 日（土）																																	
実施先	国立高雄第一科技大学（台湾）																																	
参加者	大学名	教職員	学生スタッフ	学生																														
	山口大学			5																														
	香川大学	1		1																														
	愛媛大学	2		3																														
	京都外国語大学	1		2																														
	京都文教大学			1																														
	合計	4		12																														
<p>&lt;概要&gt;</p> <p>○ 目的 台湾・国立高雄第一科技大学において、実践的な英語でのコミュニケーションスキルや異文化理解力、国際社会で活躍するために求められるリーダーシップを養うことを目的とし、台湾・タイ・日本の3ヶ国の学生が集まり7泊8日の協働プログラムを行った。日本からは、UNGL 連携校関係教職員が推薦する学生で、UNGL 又は自大学のリーダーシップ・プログラムに関する研修に参加した経験を持つ学生又は今後国内外でリーダーシップを発揮したいと考える学生が参加した。</p> <p>○ 参加数 64 名 (内訳) 日本：【学生】5 大学 12 名（香川大、愛媛大、山口大、京都外国語大、京都文教大）、【教職員】3 大学 4 名 タイ：【学生】1 大学 14 名（King Mongkut's University of Technology Thonburi: KMUTT） 【教員】1 大学 1 名 台湾：【学生】1 大学 22 名（国立高雄第一科技大学：NKFUST）、【学生運営スタッフ】8 名 【教職員】学長他 4 名</p> <p>○ 全体プログラム</p> <table border="1"> <tr> <td>8/18（日）</td> <td>午後</td> <td>移動（日本→台湾・高雄）</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">8/19（月）</td> <td>10:10～11:00</td> <td>開会式</td> </tr> <tr> <td>11:10～12:00</td> <td>アイスブレイク・アクティビティ、キャンパスツアー</td> </tr> <tr> <td>13:30～15:20</td> <td>ワークショップ①「Lego Workshop for Creative Cross-Cultural Understanding」高島教員</td> </tr> <tr> <td>15:30～17:20</td> <td>ワークショップ②「Don't miss the bus」秦教員</td> </tr> <tr> <td>19:10～21:00</td> <td>ウェルカムナイト～各国文化紹介～</td> </tr> <tr> <td></td> <td>21:30～22:30</td> <td>振り返り</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">8/20（火）</td> <td>8:10～10:10</td> <td>ワークショップ③「Survival on the moon」（林職員・古島職員）</td> </tr> <tr> <td>10:30～12:00</td> <td>チームトレーニングワークショップ（Mr. David Huang（台湾外部講師））</td> </tr> <tr> <td>13:30～15:20</td> <td>ケーススタディ（Dr. Chi-Fen Chen, 国立高雄第一科技大学学生部部長）</td> </tr> <tr> <td>15:30～17:20</td> <td>ワークショップ④（Mr. Rom Kenneth B. Sales, KMUTT）</td> </tr> <tr> <td>19:10～21:00</td> <td>ELS/UNGL 説明（愛媛大学学生、林職員）</td> </tr> <tr> <td></td> <td>21:30～22:30</td> <td>タイ大学紹介（KMUTT 学生）／台湾大学紹介（NKFUST 学生） 振り返り</td> </tr> </table>				8/18（日）	午後	移動（日本→台湾・高雄）	8/19（月）	10:10～11:00	開会式	11:10～12:00	アイスブレイク・アクティビティ、キャンパスツアー	13:30～15:20	ワークショップ①「Lego Workshop for Creative Cross-Cultural Understanding」高島教員	15:30～17:20	ワークショップ②「Don't miss the bus」秦教員	19:10～21:00	ウェルカムナイト～各国文化紹介～		21:30～22:30	振り返り	8/20（火）	8:10～10:10	ワークショップ③「Survival on the moon」（林職員・古島職員）	10:30～12:00	チームトレーニングワークショップ（Mr. David Huang（台湾外部講師））	13:30～15:20	ケーススタディ（Dr. Chi-Fen Chen, 国立高雄第一科技大学学生部部長）	15:30～17:20	ワークショップ④（Mr. Rom Kenneth B. Sales, KMUTT）	19:10～21:00	ELS/UNGL 説明（愛媛大学学生、林職員）		21:30～22:30	タイ大学紹介（KMUTT 学生）／台湾大学紹介（NKFUST 学生） 振り返り
8/18（日）	午後	移動（日本→台湾・高雄）																																
8/19（月）	10:10～11:00	開会式																																
	11:10～12:00	アイスブレイク・アクティビティ、キャンパスツアー																																
	13:30～15:20	ワークショップ①「Lego Workshop for Creative Cross-Cultural Understanding」高島教員																																
	15:30～17:20	ワークショップ②「Don't miss the bus」秦教員																																
	19:10～21:00	ウェルカムナイト～各国文化紹介～																																
	21:30～22:30	振り返り																																
8/20（火）	8:10～10:10	ワークショップ③「Survival on the moon」（林職員・古島職員）																																
	10:30～12:00	チームトレーニングワークショップ（Mr. David Huang（台湾外部講師））																																
	13:30～15:20	ケーススタディ（Dr. Chi-Fen Chen, 国立高雄第一科技大学学生部部長）																																
	15:30～17:20	ワークショップ④（Mr. Rom Kenneth B. Sales, KMUTT）																																
	19:10～21:00	ELS/UNGL 説明（愛媛大学学生、林職員）																																
	21:30～22:30	タイ大学紹介（KMUTT 学生）／台湾大学紹介（NKFUST 学生） 振り返り																																

8/21 (水)	終日 08:10~21:00	フィールド研修 (※台風により GlobalTic Award 延期のためスケジュール変更) 美濃客家文物館 Meinung Hakka Cultural Museum (傘絵付け体験) 美濃客家民族村 Meinung Folk Village 国立台湾歴史博物館 National Museum of Taiwan History
8/22 (木)	終日 08:10~21:00	フィールド研修 烏山頭水庫 Wusanto Reservoir 国立科学工芸博物館 National Science and Technology Museum 愛河見学
8/23 (金)	8:10~12:00 13:30~17:20 19:00~21:30 21:45~22:30	ディベート サービスラーニング (トイレ掃除) 学生セミナー (書道体験) 振り返り
8/24 (土)	8:10~11:30 11:30~13:30	学習成果発表 (各グループ毎) クロージングセレモニー (修了書授与、集合写真) 終了
8/25 (日)	早朝	帰国

#### 8月18日 (1日目)

関空出発。一部学生は前日に台湾入り。高雄市左営駅にて当日 17 時頃全員が合流。

高雄空港では、国立高雄第一科技大学 (以下、NKFUST とする) の学生スタッフがウェルカムフラッグを持って出迎え、NKFUST の学生たちの笑顔に日本側参加学生の顔にも笑顔が浮かぶ。期間中は、NKFUST の学生寮に他の 2ヶ国の学生と共に生活。教職員は大学内宿泊施設に滞在。着後、夕食を取り、日本側参加者のみでミーティングを開き、自己紹介と共に本研修での各自の目標について共有した。



#### 8月19日 (2日目)

リーダーシップ・プログラム初日。開会式では、NKFUST 陳振遠 (Dr. Roger C. Y. Chen) 学長が挨拶。各国担当教職員も登壇し、一人ずつ挨拶の言葉を述べた。NKFUST 学生部部长 陳其芬 (Dr. Chi-Fen Emily Chen) から

は学生に対し、手の 5本指の 1本 1本を、本プログラムで身につけたいスキルに例え、5C (Can-Do (できると信じる), Communication (人との触れあいを大切にする), Creativity (創造力を発揮する), Caring (他人を気遣う), Collaboration (協働する)) で行動するよう期待すると伝えた。

アイスブレイク・アクティビティ (歌・ダンス) ののち、キャンパスツアーを行った。特に学生の勉強スペースは、e-learning のための OA 機器や個人用・グループ用の個室を設ける等、施設設備が充実していた。

午後は、京都外国語大学高島講師によるワークショップ「Lego Workshop for Creative Cross-Cultural Understanding」を開催。ケーススタディを用いてグループワークを行った。グループ構成員は、台湾・タイ・日本の学生が混在している。ケーススタディでは、上司との会議に参加するため何時に出勤するかといった課題が与えられ、グループ内で話し合った。国によって考えに違いがあり、学生達は話し合いを通じて異文化を学び、互いの価値観を共有する場を持てた。また、日本・台湾・タイ各国のイメージをレゴブロックで表現しあう等の作業を行った。



次に、愛媛大学秦教授によるワークショップ「Don't miss the bus」を開催。個人に与えられた情報を元に、チーム内で情報共有し、最終的な地図を描く作業を行うもの。チームワークの過程の中で、コミュニケーションや作業の現状把握、他のチームメンバーの観察等を通し、チームワークを楽しみつつ自分のリーダーシップの行動の特徴に気づくことを目的とし進められた。



夜はウェルカムナイトを開催。民族衣装を着てダンスを披露する等各国文化紹介を行った。日本からは、日本に関するクイズや京都の伝統文化についての紹介を行った。

夜は、日本側参加者が集まり振り返りを行った。秦教授からの講評のあと、学生一人一人が初日のプログラムを終えての感想や、自らの研修目標を踏まえての受講姿勢について、主体的・客観的に考える時間を持った。

#### 8月20日(3日目)

午前は、愛媛大学林職員と香川大学古島職員によるワークショップ「Survival on the moon」を行った。月で遭難し、手元に残った15のアイテムの重要度について個人の意見をチーム内でどのように説明しチーム全体のコンセンサスをとるかを考えることを目的としたもの。論理的にランク付けの理由を説明するための努力と、他の意見を受け入れ、チーム全体の意見をまとめる能力を必要とした。参加学生全員が自分の意見を持てる状況を作り、限られた時間で発揮できる個人の積極性や他人の意見を引き出す努力をチーム構成員が行えているかどうかで、チームによって成果にバラツキが見られた。次に、台湾の外部講師 Mr. David Huang によるチームビルディングのためのセッションが行われた。講演形式ではなく、血液型や星座、誕生月等の共通点を見つけ合うことで学生同士の一体感を高め、最後、グループに分かれ、各グループ代表1名が紙の立体模型を目で見た情報をグループメンバーに説明することで同じ立体模型を作成する作業を行いセッションを終えた。

午後は、国立高雄第一科技大学学生部部长 Dr. Chi-Fen Chen 准教授によるケーススタディによるワークショップ。「コミュニケーション」、「会議」、「金銭」、「タイムマネジメント」、「危機管理」、「課題解決」の6つの大項目に関し各2~7個の具体的ケース(小項目)を与え、その中からグループで2, 3個選択し、解決策をチームで考えるもの。例えば、コミュニケーション問題について教員や先輩と異なる意見になった時どうするかについては、その間に入って冷静な立場で仲介してくれる他の教員等を見つける等の意見が学生から出された。

次に、タイ側引率スタッフ Mr. Rom Kenneth B. Sales によるワークショップが行われた。リフレッシュの為のダンスの後、グループに分かれ、講師の出すテーマを体で表現するゲームを行った。グループの一体感を高めることを目的としたもので、教職員



が審査員となり、テーマに一番近い表現ができているグループにポイントを与えグループ間で競い合うものであった。その後、新聞紙を使い5分間で高く丈夫で綺麗なタワーを作る作業を行った。短い時間でより高くより丈夫なタワーを作成するため、学生は自分のアイデアを持ち寄り、英語でのコミュニケーションを図った。

引き続いて、各国の事業・大学紹介を行った。日本からは愛媛大学学生と林職員が、ELS と UNGL 事業の紹介を行った。タイと台湾は、それぞれ自大学の紹介を行った。

夜は、日本側参加者が集まり振り返りを行った。2日間のセッションを終え、前日の振り返りを踏まえ、自分がどうアクションを起こしたか報告しあった。

#### 8月21日(4日目)

台風のため、当初、日本側参加者が予定していた GlobalTic Award 2013 (国立台北科技大学) が開催延期となり、急遽スケジュール変更を行いフィールド研修となった。



・美濃客家文物館 Meinung Hakka Cultural Museum / 美濃客家民族村 Meinung Folk Village

高雄市美濃地区の90%以上を占める民族、客家(Hakka)の伝統的文化や歴史を紹介した施設。周辺地域とは隔離された地形や家族理念を重んじる文化であることから言語、衣食住、音楽等で伝統的な風習や生活スタイルが残されている。学生達は、施設見学後、伝統工芸の一つである油紙傘の絵付け体験を行った。

・国立台湾歴史博物館 National Museum of Taiwan History

先史時代からの民族移住から日本の統治、そして現代社会と台湾の歴史を時系列に展示。

台風の影響で風雨が激しく、終日、施設見学であったが、学生は台湾の歴史・文化について体験とともに、台湾やタイの学生と意見・感想を交換しながら知見を広めることができたようだ。

#### 8月22日(5日目)

フィールド研修2日目。

・鳥山頭水庫

1920年から1930年の10年の歳月を経て竣工されたダム。建設者は八田与一(はったよいち)という日本の水利技術者で、日本統治時代に台湾に移り住み台湾の農業水利事業に大きな貢献をしたと言われている人物。ダムの流域面積は約60平方キロメートル、湛水面積は13平方キロメートル。記念公園も併設しておりダム工事中の宿舍等関連施設が再現されている。展示館においては資料や写真が展示されており学生らは八田与一の生涯と貢献について学んだ。

他、国立科学工芸博物館 National Science and Technology Museum、愛河、Liouhe Tourist Night Market (六合国際観光夜市)を見学し台湾の文化に触れる機会を持った。2日間のフィールド研修は、台湾、タイ、日本の学生が共に参加することで、台湾文化について興味深く話し合う姿も見られ、参加学生にとっては大変有益な経験となった。



#### 8月23日(6日目)

午前の最初のセッションは、グループ対抗のディベートを行った。学生は3、4日前からその日のセッションを全て終えた後、グループで集まり深夜まで議論・準備をしてきたとのことだった。課題は Global/Social Issues に関するもので次の4つ。①「原発の新規建築について賛成か反対か」、②「大学の国際化のため学生受入れと送り出し、どちらに重点を置くか」③「スポーツ関連企業において獲得した5,000万円の利益を現職員に臨時手当として支給するか、施設設備費に投資するか」④「市長である貴方は町の空き地にショッピングモールを建てるか公園を造るか」。ディスカッションは、グループの代表3名が、討論者として出席し展開された。最初の各2名は3分でそれぞれの主張を発言、途中2分の休憩後、各グループ3人目の学生が前の互いの主張を論理的かつ冷静に否定した上で自グループの正論性を述べるものであった。発表後は、聴衆からの質問時間を設け、質問に対する的を得た回答をするのに、学生は苦勞しているようであった。しかし、ほとんどの日本側学生がグループ代表者として登壇し、大勢の前で意見を述べるのみならず、予期せぬ質問に対しグループ内で話し合い、機転を利かせ回答する経験を持てたことは今後の自信につながったと考えられる。学生によっては、思ったように意見を返せなかったことでフラストレーションが生じたケースもあったが、その代わりに、次の具体的な目標を見つけ自ら進む姿が見られた。また、学生同士、登壇者でなくとも聴講席からメッセージを送るなど互いに励まし合うことでチームの一体感を自ら高め合っていた。



午後からは、トイレ掃除を行った。掃除の前に全員でトイレ掃除のダンスを行った。素手でスポンジで洗うことに最初は戸惑いがあったようだが、一つ一つの汚れを丁寧に磨き、最後、綺麗になったトイレを見てトイレは汚さず綺麗に使いたい等の意見が出た。その後、台湾の学生司会による書道・ランタン作成体験のセッションを行った。

全てのセッション後、日本側参加者が集まり振り返りを行った。プログラム参加姿勢や意識の違いによって、学生間に成果や自己満足度、自己評価・他己評価に差が生じていたため、改めて当初の各自の目標を再認識し、その実現に向かってどうアクションを起こすか発表があった。



#### 8月24日(7日目:プログラム最終日)

大ホールにて、グループ毎に研修成果発表を行った。パワーポイントや模造紙を利用し、プログラムの全体の総括や各個人の感想を発表した。

その後、閉会式が行われた。各国教職員からのコメントののち、修了証の授与式が行われ、閉会した。

午後、高雄市内商業施設にて各自夕食をとった後、夜は日本側参加者が集まり振り返りを行った。始めに、リーダーシップ・チャレンジ in 台湾プログラム修了証の授与式を行った。その後、プログラム全体を通しての各人の感想と、得た経験を今後どのように活かしていくか学生・教職員間で共有した。

(日本側学生2名が夜帰国)。



#### 8月25日(8日目)

早朝、バスにて大学を出発。高雄空港からは学生・教職員7名が、台北・桃園空港からは学生6名がそれぞれ帰国。

#### まとめ

今回、高雄第一科技大学と共同で作成したプログラムは全般的に大変充実したものとなった。ワークショップ、議論・討論、文化・伝統芸能紹介、大学紹介、施設見学、台湾の歴史・科学等紹介施設訪問等多岐にわたるものを提供できたと思われる。それも高雄第一科技大学側のホスト校としての多大なる配慮によるものである。また、プログラム充実ももちろんのこと、高雄第一科技大学のプログラム学生スタッフ8名は素晴らしい運営・対応だった。日本側参加学生が感銘し、彼らのようになりたいと引率教職員に報告してきた。学生らは、プログラム参加に際し、あらゆる場面で成長したいと行動する姿勢で臨み短期間で成長する姿は引率者としても見習うべきものがあった。



## 平成 25 年度

### 「小学生スポーツ体験ウィーク」で学ぶコーチングと危機管理

報告者	京都外国語大学外国語学部 中嶋 大輔														
実施日	平成 25 年 8 月 20～22 日														
実施先	京都外国語大学第 2 分館及びスポーツ施設														
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>教員</th> <th>職員</th> <th>学生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>京都外国語大学</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>9</td> </tr> </tbody> </table>			大学名	教員	職員	学生	京都外国語大学	4	5	9	合計	4	5	9
大学名	教員	職員	学生												
京都外国語大学	4	5	9												
合計	4	5	9												
講師	<p>○辻 浅夫（京都外国語大学 教授） （公財）日本サッカー協会公認 A 級コーチ、現京都府サッカー協会会長</p> <p>○中嶋大輔（京都外国語大学 講師） （公財）日本体育協会公認バレーボール上級コーチ、現京都府バレーボール協会指導普及委員長</p>														
完了報告	<p>本学では、11 年前から体育会所属クラブ（サッカー部・バドミントン部・ソフトテニス部・バレーボール部）による所在地近隣の京都市立山ノ内小学校児童へのスポーツプログラム提供を行っている。</p> <p>そこで、UNGL 事業として、コーチングと危機管理を中心としたスポーツイベントにおけるマネジメントについて、理論習得と実践の場を提供した。</p> <p>本学から UNGL 連携大学への告知を行ったが、残念ながら参加希望者は無かった。</p>														
<p><b>【プログラム到達目標】</b> 小学生へのスポーツ指導体験と大会事務局運営体験を通して、リーダーとして必要な資質となる危機管理能力やコーチング力を実践的に学び、学生が様々なスポーツプログラムを安全面に配慮した企画立案ができるようになることを目標とする。</p> <p><b>【プログラム概要】</b> 京都外国語大学が地域連携として行っている小学生向けスポーツ体験講座に参加し、スポーツを通してリーダーとして必要な質となる危機管理能力、コーチング力を養成する。具体的には、危機管理とコーチングに関する講座を受講後、小学生へのスポーツ指導体験と大会事務局運営体験を通して実践的に学ぶ。</p>															
															

【プログラム内容】

	2013年8月20日	2013年8月21日	2013年8月22日
9:00	集合 (第2分館10号館入口)	集合 (第2分館10号館入口)	集合 (第2分館10号館入口)
9:15	ミーティング参加	ミーティング参加	ミーティング参加
9:30	現場研修(全員) スポーツ体験視察 (施設・実施内容の把握)	現場研修(グループA) コーチング (ソフトテニス)	現場研修(グループB) コーチング (バレーボール)
11:30		現場研修(グループB) マネジメント (危機管理)	現場研修(グループA) マネジメント (危機管理)
11:45	教室終了(各自昼食)	教室終了後、解散	教室終了(各自昼食)
13:30	スポーツ大会等における 危機管理(90分)		まとめ レポート課題の提示
15:10	コーチングの技法 (90分)		終了
16:40	終了		

※小学生へ提供する競技はソフトテニスとバレーボール(変更・調整不可)。

参加学生であった本学体育会所属学生に対して、危機管理を中心としたマネジメントを中嶋が担当し、コーチングについては辻教授が担当した。参加学生は、コーチングとマネジメントの実習を上記スケジュールにて実践した。

【使用施設について】

サッカー : バレーコート使用 40人(1~3年) グラウンド使用 40人(4~6年)  
 バドミントン : 武道体育館使用 40人(1~3年) 第一分館体育館使用 40人(4~6年)  
 ソフトテニス : 武道体育館使用 40人(1~3年) テニスコート使用 40人(4~6年)  
 バレーボール : 武道体育館使用 40人(1~3年) 第一分館体育館使用 40人(4~6年)

【アンケート結果】

- ・体育会本部にも多少参加や手伝いをしてもらえたので、助かった。
- ・ドリンクは十分だが冷却剤は2つほしい。
- ・誰も怪我をすることなく大きく体調を崩すこともなく安全にできたのが一番良かった。来年は練習メニューをもっと工夫し、バレーボールが上達するようなメニューを考えていきたい。
- ・支持が遅く小学生が遊んでしまう時があったので改善したい。
- ・小学生をまとめる力がかけていた。
- ・今回以上に人数が増えた場合、コートの面数が厳しい。

(研修参加学生の自由記述より抜粋)



## 平成 25 年度

### 学生リーダーズ・サマースクール

報告者	愛媛大学教育学生支援部教育企画課 林 真輝																																																												
実施日	平成 25 年 9 月 9 日 (月) ~ 11 日 (水)																																																												
実施先	愛媛県松山市中島 中島 B&G 海洋センター及び姫ヶ浜ビーチ																																																												
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>教職員</th> <th>学生スタッフ</th> <th>学生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>愛媛大学</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>島根大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>高知大学</td> <td></td> <td></td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>佐賀大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>山口大学</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>松山大学</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>京都外国語大学</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>京都文教大学</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>九州国際大学</td> <td>2</td> <td></td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>愛媛県立医療技術大学</td> <td>2</td> <td></td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>追手門学院大学</td> <td></td> <td></td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>広島経済大学</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>目白大学</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>17</td> <td>15</td> <td>57</td> </tr> </tbody> </table>	大学名	教職員	学生スタッフ	学生	愛媛大学	6	7	3	島根大学	1		1	高知大学			5	佐賀大学	1		2	山口大学	1	3	4	松山大学	1	1	3	京都外国語大学	2	2	12	京都文教大学	1	2	13	九州国際大学	2		4	愛媛県立医療技術大学	2		4	追手門学院大学			4	広島経済大学			1	目白大学			1	合計	17	15	57
大学名	教職員	学生スタッフ	学生																																																										
愛媛大学	6	7	3																																																										
島根大学	1		1																																																										
高知大学			5																																																										
佐賀大学	1		2																																																										
山口大学	1	3	4																																																										
松山大学	1	1	3																																																										
京都外国語大学	2	2	12																																																										
京都文教大学	1	2	13																																																										
九州国際大学	2		4																																																										
愛媛県立医療技術大学	2		4																																																										
追手門学院大学			4																																																										
広島経済大学			1																																																										
目白大学			1																																																										
合計	17	15	57																																																										
講師	カヌー講師 松山市中島 B&G 海洋センター B&G 海洋性レクリエーション指導員 (AD) 村上 周平																																																												
完了報告	参加者は、ビーチにテントを張り宿泊することやプログラム活動の結果によって食料が支給されるなど、非日常体験を行った。本研修では、チームビルディングや組織への関わり方を通じてリーダーシップを養うことができた。																																																												
																																																													
<p><b>【プログラム目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の役割を認識しながら、変化する状況に対応できる実践的なリーダーシップを身に付ける</li> <li>・追い込まれた状況の中で課題や問題を乗り越える力を養う</li> </ul>																																																													

### 【プログラム到達目標】

野外での活動などを通して以下のことを身に付ける。

- 1) 良好な人間関係に配慮しながら目標達成のためにメンバーを啓発できる。
- 2) 自己の経験や他社からの評価を通して、自己を客観的に振り返ることができる。
- 3) チーム活動を通して、新しい自分を発見することができる。
- 4) チーム内の役割を理解して、状況にふさわしいリーダーシップを発揮することができる。
- 5) 仲間の成長を促す働きかけをすることができる。

### 【プログラム概要】

5～6名のチームに分かれ、物資や情報が限られた状況において、仲間と協力しながら、予期せぬ様々なミッションに取り組み、最終目標に向かって活動する。その後、それぞれの言動について、指導者からフィードバックを受けるほか、メンバー間で批評的に振り返る。その過程を経て、リーダーシップを養う。

### 【プログラム内容】

全体プログラムスケジュール

9/9 (月)	8:00	参加者受付開始/教職員スタッフミーティング
	8:30～9:00	あいさつ・説明会
	9:30～11:30	移動(愛媛大学→大浦港)
	12:30～13:00	オープニングセレモニー
	13:00～17:00	アクティビティ1(テント張りや食料収集)
	17:00～20:00	夕食
	20:00～21:00	振り返り
9/10 (火)	8:30～10:00	カヌー練習
	10:00～12:00	アクティビティ2(旗・Tシャツプレゼン/カヌーリレー)
	12:00～16:00	アクティビティ3(宝探し)
	17:00～18:00	振り返り
	18:00～20:30	夕食(BBQ)
	20:30～21:30	キャンプファイヤー
9/11 (水)	8:00～9:00	片付け/清掃
	9:00～10:00	フリータイム
	10:30～11:00	クロージングセレモニー
	11:45～13:10	移動(大浦港→愛媛大学)
	13:40～16:00	振り返り
	17:00～20:00	懇親会

本プログラムでは、課題や問題をグループ内で解決することを促すために以下の禁止事項を設定した。

- ・班員以外と話さないこと。(スタッフを含む)
- ・他の班から食料や道具をもらわないこと。
- ・地元の中島住民の方とは話さないこと。
- ・自分の班のテントで寝ること。Etc…

### 9月9日(月)

8:30、参加学生は愛媛大学共通講義棟11に集合し、アイスブレイクを行い、本プログラムの説明とグループのメンバー発表と自己紹介等が学生スタッフ運営のもと行われた。時を同じくして、愛媛大学秦教授から教職員スタッフへ本プログラムの主旨と取り組み方が共有された。

その後、愛媛大学から大型バス2台で高浜港へ行き、中島の大浦港までフェリーで向かった。フェリーの中では、各グループのグループ名を決めるワークが行われた。

中島に到着後、中島 B&G 海洋センターで開校式が行われた。その後、昼食をとりアクティビティを行った。

1日目のアクティビティの狙いは、参加者に数多くの課題を与えることにより、体力的・精神的に負荷を与え、その中で優先順位を決め、スケジュールを立てるといった時間管理能力や、グループ活動を通して課題に対する対応力や、グループ内での自分の役割を理解し主体的に行動することである。

活動内容は以下の3つである。

- ① 地図を基に衣食住のための道具を集め、姫が浜ビーチで環境作りを行う。
- ② コンセンサスゲームを行う。
- ③ カヌーレースの準備を行う。(ビーチフラッグ・グループTシャツの作成)

参加学生はととても日差しが強い中、グループ内で話し合い、役割を決め活動していた。しかし、メンバーが初対面で他のグループやスタッフとも話してはいけないという禁止事項のせいか、グループ内での会話も少なく、笑顔で取り組む参加学生は少なかった。



アクティビティの結果、食料が確保できなかったことや火を起こせないグループが多くあった。振り返りでは、なぜこのような状態になったのか、自分の行動と気持ちに問いかけ、そして改善策をグループ内で共有し、2日目のアクティビティに備えた。



### 9月10日(火)

ビーチの明け方は気温が低く、日中との寒暖の差が大きく感じられた。参加学生は、11:00からのカヌー大会に出場するためにTシャツ・旗のプレゼン発表の準備を早朝から自主的に行っていた。

8:30からは中島 B&G 海洋センターの村上周平指導員によるカヌー講習が行われた。海に出る危機感を伝えるために、厳しい口調と張りつめた雰囲気の中、講習が行われた。

11:00からカヌーレースが行われた。会場設営の都合上、学生スタッフが準備していたカヌーレース内容が開始直前で変更となった。そのため、レース内容を参加学生に伝えるためには、どのように行えば伝わるかを考えるなど学生スタッフにとっては、変更に対応する能力を発揮する場となった。



カヌーレースは、初めにビーチでカヌーやオールを運ぶレースを行い、その後、カヌーで 30m ほど沖のパイロンを回るといった行程で行われた。カヌーの操作を誤り、転覆した者をビーチから同じグループメンバーが大きな声で励ましていた。



昼食後は、姫が浜ビーチと周辺で各グループに分かれ、宝探しアクティビティを行った。概要は、宝の手がかりをつなぎ合わせることで1つの暗号が完成する。その暗号を解読し、宝を発見することである。

目的は、目標達成の過程で課題解決や役割分担を行うことにより、グループ内の団結力や協調性を養うことである。

グループの中で自転車で中島を半周する者、カヌーで離島まで行く者、暗号を解読する者など、個人の得意分野でグループに貢献する姿が伺えた。また、グループ内での会話も増え、協力している様子が多く見られた。その結果、宝探しアクティビティは、全てのグループが最後まで達成した。

その後振り返りを行い、グループ活動を通しての気づき・改善点・共有・フィードバックが行われた。

夕食はBBQを行い、キャンプファイヤーが実施された。参加学生は、他のグループ・学生スタッフ・教職員スタッフと盛んに交流を図り、意見交換を行っていた。

#### 9月11日(水)

8:00 から清掃・片付けが行われた。

10:30 から姫が浜ビーチで本プログラムの閉会式が行われた。参加学生の代表者が、小立周平氏（姫が浜ビーチ支配人）と村上周平氏（中島B&G海洋センターレクリエーション指導員）に感謝の意を述べた。その後、お二人から本プログラムに対する感想をいただいた。



愛媛大学の到着後、2時間の振り返りを行った。初めに愛媛大学秦教授からリーダーシップの視点を通して、本プログラムでの参加学生の様子と変化について発表された。次に各グループに分かれ自分自身の気づき、メンバー同士での共有・フィードバックが行われた。振り返りを受け、教職員、学生スタッフ、参加学生全ての成長に有益なプログラムとなった。



## 【アンケート結果】

〈参加学生〉

良かった点

- ・学生スタッフが本気で向き合ってくれたことがうれしかった。
- ・挫折しそうな場面があるからこそ、あきらめない気持ちや切り替えることの大切さを改めて気付くことができた。
- ・自分たちの悪かった点を重く受け止めて、次に活かしやすかった。

改善点

- ・課題が簡単すぎる。
- ・火をつけるリベンジをしたかった。
- ・スタッフ間での連絡ミスがあったようなので、連絡の取りあいを実際にするのが大事だと思います。

〈学生スタッフ〉

良かった点

- ・学生スタッフと職員が振り返りを行ったこと。それぞれに学びがあったと思う。
- ・本人たちの気づいていない点を厳しくても言うことで新たな気づきがあり、向上心へと繋がった。やはり失敗することが大切であると思う。

改善点

- ・学生スタッフの力不足で適切なファシリテーションが行えず、うまく落とし込めなかったのが気になった。学生スタッフは進め方のアドバイスをもっと自主的に聞くべきだと思う。
- ・スタッフの仕事量が一部の人に集中して、観察時間に差が出ているように感じた。

以上のコメントは、学生スタッフが作成した「学生リーダーズ・サマースクール報告書」の一部を抜粋しております。

## 平成 25 年度

### リーダーシップ・チャレンジ in サイパン

報告者	愛媛大学教育学生支援部教育企画課 林 真輝																																																				
実施日	平成 25 年 9 月 15 日 (日) ~ 21 日 (土)																																																				
実施先	北マリアナ諸島連邦・Public School System (Northern Marianas High School, Gregorio T. Camacho Elementary School, Tanapag Elementary School, Kagman Elementary School, Garapan Elementary School, San Vicente Elementary School, Dandan Elementary School, Oleai Elementary School, William S. Reyes Elementary School, San Antonio Elementary School, Koblerville Elementary School)																																																				
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>教職員</th> <th>学生スタッフ</th> <th>学生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>愛媛大学</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>松山大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>山口大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>香川大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>京都外国語大学</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>広島経済大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>九州国際大学</td> <td>2</td> <td></td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>追手門学院大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>京都文教大学</td> <td></td> <td>1 (OG)</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>松山短期大学</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>京都光華女子大学</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>12</td> <td>5</td> <td>58</td> </tr> </tbody> </table>	大学名	教職員	学生スタッフ	学生	愛媛大学	3	2	17	松山大学	1		4	山口大学	1		8	香川大学	1		5	京都外国語大学	2	2	9	広島経済大学	1		3	九州国際大学	2		5	追手門学院大学	1		4	京都文教大学		1 (OG)	1	松山短期大学			1	京都光華女子大学			1	合計	12	5	58
大学名	教職員	学生スタッフ	学生																																																		
愛媛大学	3	2	17																																																		
松山大学	1		4																																																		
山口大学	1		8																																																		
香川大学	1		5																																																		
京都外国語大学	2	2	9																																																		
広島経済大学	1		3																																																		
九州国際大学	2		5																																																		
追手門学院大学	1		4																																																		
京都文教大学		1 (OG)	1																																																		
松山短期大学			1																																																		
京都光華女子大学			1																																																		
合計	12	5	58																																																		
完了報告	<p>本研修では、UNGL 事業 Global Programs の 1 つとして、英語を用い、価値観、立場、文化背景などが異なる組織での共同活動を通してリーダーシップを身に付ける事を目的とした。特にサイパン研修では、サイパン現地の小学校で自分の得意分野を活かして教育実習を実施することや、ホームステイを体験することで自律性や社会性を養った。</p>																																																				
<p><b>【プログラム内容】</b></p> <p><b>9月12日(木)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前準備等のためのスタッフがサイパン空港に到着した。</li> </ul> <p><b>9月13日(金)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サイパン教育省との打合せ (10:30-12:00)</li> </ul> <p>研修前の最終打合せがサイパン教育省 (Public School System) で行われた。出席者は教員 3 名の他、本研修の参加学生 (以下 Student Teacher* とする。) と受け入れ先の 10 の小学校の校長および副校長が出席していた。会議では、Garapan Elementary School の Ms. Paulette と、San Antonio Elementary School の Mr. James がファシリテートを行った。打ち合わせでは、まず、1 週間のスケジュールが確認された。(本研修の参加学生は、実習生として受け入れ先の小学校へ行くため Student Teacher と呼ばれていた。)</p>																																																					





9月14日(土)

- ・ 小学校の場所確認 (10:00~15:00)
- ・ Sun Palace Hotel とのミーティング (16:00~17:30)

教職員 4 名と、研修参加学生が宿泊する Sun Palace Hotel のオーナー (Ms. Sherlly) とコーディネーターの Kazu Nishida さんの 6 名で、打合せを行った。具体的には、研修参加学生の 15 日および 21 日 (その他該当学生は 13 日、14 日、22 日、23 日) の宿泊予定の確認および空港とホテル間の送迎手段と時間の確認を行った。16 日の朝は、各小学校からスクールバスで迎えにくることになっているため、学生全員がロビーに 6:45 に集合することになっていることを告げた。また、帰国の際のホテルから空港までの送迎については、航空機出発時間の 2 時間前にホテルロビーに学生が集合することになった。打合せ後は、最終振り返りの会場である Kanoa Resort の会場下見も行った。

- ・ 教職員ミーティング (19:30~20:30)

14 日までに到着した教職員スタッフのみで、15 日のスケジュール確認および役割分担を行った。15 日は、教員 1 名が学生到着確認のため、サイパン空港にて待機することを確認した。また、15 日到着予定の教職員スタッフについては、運転可能なスタッフで迎えに行くこと、その他スタッフについては時間を見つけて、担当の小学校の場所を確認することとした。緊急連絡先として携帯電話を 2 台レンタルしていたので、代表校の 2 名の教員がそれぞれ持っておくこととした。



9月15日(日)

教職員スタッフで現地小学校の場所確認をレンタカーで行った。実習先の小学校および担当教職員の割当は下記の通りであった。実習生の観察を多角的な視点で行うため、本研修では、複数の小学校を複数の教職員で、観察することとなった。各グループには、学生スタッフ 1 名もいる。

- (1) 奥村、津曲 : Gregorio T. Camacho E. S., Tanapag E. S.
- (2) 辻、中嶋、村田 : Garapan E. S., Oleai E. S.
- (3) 秦、村上 : William S. Reyes E. S. San Antonio E. S.
- (4) 山中、杉本 : Kagman E. S., San Vincente E. S.
- (5) 岸岡、泉谷、鈴木 : Dandan E. S., Koblerville E. S.

- ・ 結団式準備 (15:00~15:45)

Marianas High School のカフェテリアにて、UNGL メンバー全員で行う結団式の準備を行った。

- ・ 結団式 (16:00~17:00)

Marianas High School のカフェテリアにて、UNGL メンバー全員の結団式を行った。はじめに、結団式の開会あいさつを秦が行った。次に、本研修が始まった背景および研修意義 (心構え) について山中より説明が行われた。その後、研修の全体スケジュールについて津曲より説明を行い、各小学校の担当教職員紹介が行われた。次に、各小学校の実習生顔合わせのため、自己紹介と本研修への参加動機を各小学校グループで行った。最後に、本研修への意気込みとして、A4 用紙に「1 週間後になりたい自分」を書いてもらい、グループ内で共有してもらい、研修中はチャレンジすることを意識して行動することを全員で確認した。結団式終了後、学生スタッフから Japan Festival についての情報提供が行われた。



・ Welcome party (17:00~19:00)

サイパン教育省主催のもと、Welcome party が行われた。会場には、サイパン知事の他、Rita Sablan (Commissioner, CNMI Public School System)、Herman T. Guerrero (Chairman, State Board of Education)、日野耕治氏 (在サイパン駐在官事務所長、領事) が来られ、それぞれ歓迎の挨拶をいただいた。パーティーには地元の新聞記者も訪れ、UNGL スタッフへインタビューが行われた (翌日、パーティーの様子やインタビューの内容が新聞記事として掲載された)。その後、各小学校の実習グループと実習先小学校の校長およびホストファミリーの対面式が行われた。実習先小学校の校長やホストファミリーと固い握手が交わされたり、歓迎の意味を込めた首飾り等が贈呈されたりした。会場でふるまわれたディナーを各グループで、楽しみながら、地元の高校生による歓迎のダンスを鑑賞した。

最後に、秦教授より、サイパン教育省および小学校校長、ホストファミリーに向けた御礼の挨拶が述べられた。



・ 教職員ミーティング (21:00~22:00)

教職員スタッフ全員によるミーティングが行われた。秦教授の指導のもと、1 週間の実習生観察のポイントおよび振り返りポイント等が共有された。観察のポイントとして、実習生 (student teacher) が積極的に子どもたちに関わっているかどうか、振り返りポイントとして、積極性を欠いた箇所について言及するよう伝えられた。また、本研修では教職員が多角的な観点に基づいて実習生を観察できるよう複数の人数で 2 つの小学校の実習観察を担当することになった。5 日間の実習をより多角的に観察できるようスケジュール等を各自で調整するよう求められた。



9月16日(月)

・ 実習生ホテル前集合 (6:45)

サンパレスホテルに宿泊していた研修参加実習生が、各小学校のスクールバスによる迎えを待つため、ホテルロビー前に集合した。担当教職員スタッフも集合し、担当グループの学生の様子を観察した。学生スタッフは、担当グループに Japan Festival についての追加の情報提供を行った。



・スクールバスによるピックアップ (7:00~8:15)

各小学校から実習生を迎えるためにスクールバスがホテルロビーに到着した。7:00 から順次、迎えにきた。

・授業アシスタント・授業実習 (8:00~14:30)

ここでは、筆者が担当した小学校 (Gregorio T. Camacho Elementary School) の事例を記述する。Gregorio T. Camacho Elementary School では、8:00 から授業が始まり、14:30 に終わるスケジュールであった。実習生たちは、授業アシスタントをしながら、サイパンの小学校の文化を学んだり、実際に授業を行うことで文化の違いや言葉の壁を乗り越えたりしながらサイパンの小学生たちと交流を深めた。実習生たちは、日本の文化 (折り紙、漢字) を教える授業や、自身の得意な分野 (サッカー、ダンスなど) を教える授業を行った。英語能力が高くない実習生の授業でも、言葉以外の領域で工夫をこらし、小学生を楽しませていた。ただし、初日ということもあり、実習生の戸惑いは非常に大きかった。事前の情報では、実習生 2 人 1 組で 1 つのクラスに入るようになっていたが、実際は 1 人 1 つのクラスの担任制となっていた。授業も 2 人 1 組で行う予定であったので、授業をするよう担任教員に求められた際に「2 人で準備してきたので対応できない」とパニックになり、教室を飛び出した実習生もいた。どんな環境にも適応できる力を身につけさせることの重要性を認識した瞬間であった。

・Japan Festival 準備 (14:30~15:30)

教育実習最終日の 20 日 (金) に各小学校で開催する Japan Festival の準備を行った。Japan Festival は同じ小学校で実習している 6 名の実習生全員で企画・運営する 1 つのプログラムである。実習期間中に、授業後の午後の時間を使って、計画を練った。Gregorio T. Camacho Elementary School の Japan Festival では、ヨーヨー釣り、手裏剣体験、二人三脚、盆踊りをするようになった。

・振り返り (15:30~16:30)

小学校の図書室を使って、実習生全員による振り返りが行われた。まず初日の感想を言ってもらった。言葉が分からず、戸惑いや不安ばかりだったが、自分ができることを一生懸命少しずつ重ねて行きたいという感想が殆どであった。また、言葉が分からないことで、小学生にからかわれ、八方ふさがりになっている実習生もいた。これらの感想に対し、担当スタッフが①英語の問題として処理せず、自分にできることを少しでも多く見つけ、リーダーシップを発揮して、環境に適応してほしいこと、②たとえからわれたとしても、1 週間という時間が限られていることを意識し、時間を大切に使うしてほしいこと、③実習生が不安であることと同様に、現地小学校関係者 (担任教員、ホストファミリーなど) も大きな不安を抱えて実習生を受け入れていることを伝え、1 週間で自分自身の貴重な経験として消化してほしいとフィードバックした。現地小学校のスタッフは校長も含め、16 時前後には帰宅する習慣があるとのことで、実習生を受け入れる 1 週間は、ホストファミリーとなっているスタッフは全員 16 時半に帰宅するようにするとのお申し合わせが交わされているということであった。そのため、この申し合わせに合わせ、Gregorio T. Camacho Elementary School の実習生は 16 時半までにすべての用事を済ませるようにした。

・教職員ミーティング (18:00~19:30)

10 の小学校に派遣された教職員スタッフが宿泊施設へ戻り、各小学校の実習生の様子を報告した。実習生の様子とそれに対する教職員スタッフの対応を共有し、スタッフの対応のあり方とそれに対する実習生の成長への影響について議論した。

9月17日 (火)

・授業アシスタント・授業実習 (8:00~ 14:30)

2 日目の授業アシスタントが行われた実習生たちは、自分たちのできることを見つけながら、小学生に積極的に関わっていた。

・Rotery Club 参加 (12:00~13:00)

サイパンの Rotery Club が Hyatt Regency で行われた。サイパン教育省の Rita Sablan に UNGL 代表者 3 名が招待された。この日は、Rita Sablan が①中学校・高校の教育システム改革と②日本からの教育実習生受け入れプログラム (UNGL 事業) についての講演を行った。このうち、②については、UNGL 事業の説明を秦教授が記者会見の 1 つとして行った。その後、地元の新聞記者によって教育実習初日の感想や Japan Festival の予告が秦教授に求められた。

・振り返り (14:30~15:00)

図書室で振り返りが行われた。前日と比較したときの自身の成長点と翌日の目標を決め、実習生間で共有させた。

・小学校の教職員会議参加 (15:00~16:00)

毎週火曜日は、Gregorio T. Camacho Elementary School の教職員会議が行われている。実習生受け入れの週も行われ、この日は実習生もオブザーバーとして参加するよう求められた。まず、実習生を受け入れているクラスの担任教師より、実習生の実習の様子が報告された。実習生は全員、とても頑張っていて、小学生も非常に喜んでいることが報告された。英語の力に関わらず、文化の違いを乗り越えて楽しませることが可能であることを、実習生を通して学んだと何名かの教員が語っていた。

次に、Japan Festival の詳細について情報提供が求められた。この日はまだ、Japan Festival の開催についての情報提供ができなかった (詳細が練られていなかった) ため、小学校関係者に報告することができなかった。校長より、Japan Festival は、金曜午後の 14 時半までに終わらせてほしいとの希望が出された。最後に、Gregorio T. Camacho Elementary School のその他の情報共有が教職員間でなされた

・Japan Festival 準備 (16:00~16:30)

Japan Festival 準備が行われた。この日は、2 人 3 脚で用いる水風船づくりに励んでいた。

・教職員ミーティング (18:00~19:30)

各小学校の実習生の様子の報告がなされた。

9 月 18 日 (水)

・地元のラジオ生放送出演 (7:00~8:00)

KKMP ラジオステーションにて、PSS talk show に出演した。出演時間は 15 分程度であった。「リーダーシップ・チャレンジ in サイパン」の研修概要や、なぜ研修を始めるにいったか、などを秦教授が語った。インタビュアーはラジオ局の Mr. Gary 他、Garapan Elementary School の Paulette 校長であった。

・授業アシスタント・授業実習 (8:00~14:30)

授業アシスタントと授業実習が行われた。3 日目となり、実習生もサイパンの小学校文化に大方慣れてきたようであった。英語も積極的に使えるようになり、少しずつ自信をつけているように感じられた。

・Japan Festival 準備 (14:30~15:30)

Japan Festival 準備が行われた。

・振り返り (15:30~16:30)

成長点と改善点 (翌日の目標) が共有された。

・サッカークリニック（18:00～19:20）

CNMI サッカー協会主催のサッカークリニックが行われ、UNGL スタッフおよび参加を希望した実習生が参加した。得意なスポーツを武器にして実習生はサイパンの小学生や中学生との交流を図っていた。



・CNMI ナショナルチームとのサッカー試合  
（19:30～21:30）

サッカークリニックに続いて、ナショナルチームとUNGL チーム（参加希望実習生 15 名程度）とのサッカーの試合が行われた。試合には、UNGL 関係者はもちろん、ホストファミリーや小学校の関係者なども多く観戦に集まっていた。試合は 2 - 6 で、惨敗ではあったものの、非常に興味深いプレーが続出した。試合序盤や中盤には、愛媛大学のダンス AZ チーム（全員本研修の参加実習生）がダンスを披露した。この様子は、翌日の地元新聞に大きく取り上げられた。



9月19日（木）

・スクールバスで教育省前に集合（8:45～9:00）

各小学校の実習生がスクールバスに乗って、教育省前に集合した。この日は、教育省および小学校主催のスクールバスツアーが開催されることになった。

・スクールバスツアー（9:00～11:30）

Suicide Cliff や Banzai Cliff など、サイパン島内のツアーが行われた。日本とサイパンの文化や歴史などに触れ、実習生は本研修の意義を改めて再確認したようであった。また、過去の歴史に触れることで、現在自分たちが生きていることそのものや、将来自分たちが日本人として何をすべきかについて再確認したとの報告も後にあがっていた。

・ランチ（11:30～12:00）

教育省が準備したランチを Minachom Atdao でとった。

・各小学校へ移動（12:00～12:15）

実習生はスクールバスで、各小学校へ移動した。

・Japan Festival 準備（12:15～16:30）

Japan Festival 準備が行われた。ヨーヨーづくりなどが行われたが、時間内に準備が終わらず、ホストファミリー宅へ持って帰り、ホストファミリーの助けを借りながら準備を進めていたようだ。



9月20日（金）

・Japan Festival 準備（8:00～13:00）

Japan Festival の準備がカフェテリアにて行われていた。途中、授業実習に出る者もいた。授業実習では、実習最終日としてクラスの生徒たちからのサプライズもあったようだ。感動して涙する実習生も多かった。

・Japan Festival 開催 (13:10~14:20)

Japan Festival が運動場で開催された。全校生徒および全教職員が参加した。まず、オープニングでは、実習生がハッピーを着用して、教育実習を受け入れてもらったことへの感謝と Japan Festival を楽しんでほしいとの挨拶があり、日本の言葉「わっしょい」をかけ声として皆で共有した。

全校生徒はヨーヨー釣りや手裏剣、二人三脚などを楽しんでいた。BGMとして日本の音楽（三味線の音楽や和太鼓の音楽、盆踊りの歌など）が流れており、サイパンの子どもたちも楽しんでいた。また、ヨーヨーや手裏剣などは、全校生徒に1人1個ずつ渡され、非常に嬉しそうであった。Festival 終了後は、全校生徒全員で記念撮影をした。

1週間の準備の成果が見事に実った Japan Festival であった。なお、この模様は別の小学校で、新聞記者によって大きく取り上げられ、翌週の新聞に掲載された。



・校長をまじえた振り返り (14:30~ 15:30)

教育実習最終日の振り返りは、校長をまじえて行われた。校長はまず、小学校に来てくれてありがとうという一言と実習生が来てくれたおかげで小学生たちが非常に楽しそうであったし、文化交流の重要性を再認識できたとの報告が実習生に伝えられた。実習生たちの感想も求められ、実習生たちは次々に「英語ができなくて戸惑いばかりだったけれど小学校の皆さんが温かく受け入れてくれてとても助かった。この1週間は自分たちにとってかけがえのない時間だった」と語った。

9月21日(土)

・会場下見 (10:00~12:00)

午後開催の最終振り返りの会場である Kanoa Resort の Seaside Hall の下見を行い、ホテルロビーのスタッフの方と最終打合せを行った。振り返りに必要なもののうち、足りないものをホテルロビーのスタッフに交渉し、揃えてもらった。

・会場設営 (13:00~14:30)

振り返り会場である Seaside Hall の設営を行った。PC とスクリーン、椅子の設置、音響整備等も行った。

・最終振り返り・修了式 (14:30~17:00)

振り返りが秦教授の指揮のもと行われた。まず、実習グループごとに1週間の振り返りが行われた。1週間で自分自身が変わった点、今後目指して行きたい目標(理想像)についての共有が行われた。次に、全体で集まり、本研修の意義が改めて再確認された。秦教授による研修のポイントと今後の成長に活用していくためのポイント等も共有された。

振り返り後、学生スタッフによって編集された動画および写真のスライドショーが行われ、修了証書が授与された。



・懇親会・修了パーティー（18:00～22:00）

CNMI サッカー協会会長の Jerry Tang 氏主催による懇親会および修了パーティーが行われた。このパーティーには、実習生および UNGL スタッフの他、各小学校の校長も招待された。懇親会中盤には、サイパン教育省より実習生と教職員スタッフ向けにプレゼントが贈呈された。プレゼントはサイパン教育省 T シャツや北マリアナ諸島連邦の歴史などが記された本、マグカップなどがあった。

9月22日（日）

・最終打合せ（10:00～11:30）

学生への個別インタビューを行うため、インタビュー項目の調整を行った。特に研修を通して感じたスタッフの所見等を活用しながらインタビュー項目の生成につとめた。

・学生への個別インタビュー（14:00～17:00）

ホテルに滞在中の学生へ、研修参加の感想をインタビューで聞いた。研修で興味深かったこと、今後の成長につながりそうなポイント、今後の改善点などを詳細に聞いた。

9月23日（月）

・教育省訪問（10:00～11:00）

教育省を訪問し、1週間の実習の受け入れの御礼と今後の受け入れについてのお願いを行った。

9月24日（火）

・教育省訪問（10:00～11:00）

教育省 T シャツの受け取りのため、教育省を訪問した。

平成 25 年度

## 栗島国際交流プロジェクト

報告者	香川大学国際グループ 池田 紗和子														
実施日	平成 25 年 9 月 28 日 (土)														
実施先	香川県三豊市詫間町栗島														
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>教員</th> <th>職員</th> <th>学生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>香川大学</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table>			大学名	教員	職員	学生	香川大学	1	3	8	合計	1	3	8
大学名	教員	職員	学生												
香川大学	1	3	8												
合計	1	3	8												
講師	詫間町栗島の地元の方々														
完了報告	<p>瀬戸内国際芸術祭香川大学プロジェクト・インターナショナルオフィス主催の「栗島国際交流プロジェクト」であるが、公益財団法人香川県国際交流協会と連携を図り、県内の高校生(4名)も参加したプログラムであった。留学生は早朝から集合し、午前中は、登山道の清掃、午後は伝統文化体験と日程が詰まっていたが、天候にも恵まれ予定を無事に消化できた。</p> <p>地域の方や参加高校生との交流を通じ親睦を深め、伝統文化への理解を増しながら、説明する力を高めることの到達目標は達成できたように思える。</p> <p>実施場所が島であることから移動に時間がかかるため、今後の地域交流を継続する場合の負担の軽減は課題である。</p>														
<p><b>【プログラム到達目標】</b>            芸術祭直前の栗島において、観光客が通る登山道の草抜きや清掃などのボランティア活動を地元の方の指導のもと、高校生と共に行うことで地域貢献に参加し、栗島太鼓・獅子舞などの伝統文化を体験する。また留学生は、高校生に母国の文化を紹介することで説明する力を身につける。</p> <p><b>【プログラム概要】</b>            瀬戸内国際芸術祭 2013 「栗島国際交流プロジェクト」の一環で、芸術祭直前の栗島において、地元の方々の要望に基づき、地域貢献活動及び文化体験を通じて地域との交流を深める。</p> <p><b>【プログラム内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動                瀬戸内国際芸術祭秋会期目前の時期、地元の方の指導のもと、観光客が通る城の山登山道の草刈りや清掃を、高校生と協力して行い、景観の整備及び安全の確保を図った。</li> <li>・高校生との交流                留学生が、出身国の文化などについてクイズ形式で説明し、興味関心を高めつつ交流を図った。</li> <li>・昼食交流会                教職員の指導のもと、高校生と協力して食事の準備を行い、食文化の違いや高校生の日常の様子などについて作業・会話を通じ親睦を深めた。</li> <li>・栗島太鼓・獅子舞体験                地元の方の厚意で、栗島太鼓と獅子舞の見学と体験をした。その際、獅子舞の由来等中国との関係を説明を受けることで、伝統文化と歴史について見識を深めた。また、太鼓の演奏や獅子舞を実際に操演することで、日本文化の理解と親しみを深めた。</li> </ul>															



・その他

参加留学生は、当日の様子を FaceBook で公開することとしており、日本語の表現力を高めることができた。



アンケートはとっていないが、本プログラムを体験することで、自発的に瀬戸内国際芸術祭ボランティアに応募する学生が出てきており、学生にとって有意義なものであったと思われる。

平成 25 年度

グローバル・リーダーシップ・セミナー（第 1 回）

報告者	京都外国語大学外国語学部 岸岡 洋介																		
実施日	平成 25 年 10 月 19 日（土）																		
実施先	京都外国語大学・短期大学																		
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>学生</th> <th>教職員/一般</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>京都外国語大学</td> <td>19</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>京都文教大学</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>京都光華女子大学</td> <td>4</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>香川大学</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>26</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>	大学名	学生	教職員/一般	京都外国語大学	19	1	京都文教大学	2		京都光華女子大学	4	1	香川大学	1		合計	26	2
大学名	学生	教職員/一般																	
京都外国語大学	19	1																	
京都文教大学	2																		
京都光華女子大学	4	1																	
香川大学	1																		
合計	26	2																	
講師	NPO 法人 アントレプレナーシップ開発センター 理事長 原田 紀久子 氏																		
内容	<p>「アントレプレナーシップ」とは、よりよい社会の創造にむけて革新（イノベーション）をもたらすために必要な行動能力であり、産業社会だけでなく公的な事業においても要求されるもの（アントレプレナーシップ開発センターHP より抜粋）」という視点のもと、アントレプレナーシップ教育の理解と、その実践（ワークショップ）によって、社会に対して問題意識を持って、新しいことに挑戦する力を養うことを目的として実施しました。</p> <p>（スケジュール）          13 時～13 時 30 分 導入講義          13 時 30 分～17 時 チームを組んで課題解決にチャレンジ          （発想力と行動力の実践トレーニング）          17 時～18 時 30 分 発表＋振り返り</p> <p>限られた経営資源から新しいものを生み出す力を養うため、4～5 名ずつのチームで、あらかじめたくさん用意していた「風船」（経営資源）に「<u>付加価値をつけて売ってください！</u>」という何とも難しい課題が出されました。当然、実際に売ることにはできないので、近くの大型スーパー前で道行く人々に「いくらで買ってもらえますか？」と実地調査まで行うという徹底ぶり！</p> <p>出会って間もない参加者たちは、いきなり突きつけられた難題に頭を悩ませながらも、「何とかより良い価値を生み出そう」と意識を統一させ、アイデアを振り絞っていました。</p> <p>このワークは、膨らませて何かをする「風船」の使用用途に対する固定概念を捨て、新しい使い方を発想することを狙いとしていましたが、なかなか固定概念、普段の思考から抜け出せませんでした。また、新しいアイデアに対する個々人の意見が異なり、チームのコンセンサスが得られず揉めたり、長時間の思考に疲れ果て苛立ったりする学生もいました。</p> <p>ワークの最後には、チームごとにアイデアと売上を報告し、風船ひとつでサバイバルできるか、その結果を発表しました。売上ゼロでサバイバルできないチームもありました。“アントレプレナーシップ”の精神の奥深さを痛感しつつも、それぞれのチームが力を合わせて課題を達成しようとする姿には頼もしさも感じられました。</p>																		

(参加学生からのコメント)

- ・頭がパンクしそうでした。なかなか固定した考えから抜け出せずに苦労しましたが、アントレプレナーシップの精神を意識することの大切さを学びました。



講師によるレクチャー



チームでのアイデア出し



街頭での聞き取り調査



学内での聞き取り調査



発表シーン①



発表シーン②

## 平成 25 年度

### グローバル・リーダーシップ・セミナー（第 2 回）

報告者	京都外国語大学外国語学部 岸岡 洋介												
実施日	平成 25 年 10 月 28 日（月）												
実施先	京都外国語大学・短期大学												
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>学生</th> <th>教職員/一般</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>京都外国語大学</td> <td>97</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>同志社大学</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>98</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table>	大学名	学生	教職員/一般	京都外国語大学	97	5	同志社大学	1		合計	98	5
大学名	学生	教職員/一般											
京都外国語大学	97	5											
同志社大学	1												
合計	98	5											
講師	三菱自動車工業(株)管理本部人事労政部 藤谷 和弘 氏												
内容	<p>海外で働く、グローバル社会で活躍するという場合に、最も学生の今後のキャリアにおいて視野に入るであろう「海外駐在」を焦点に当てたグローバル・リーダーシップ・セミナー。“海外で働く”とはいっても、具体的な仕事の内容や実際の現地での生活などについて詳細に聞く機会は少ない。そこで、実際に海外駐在員として 4 年間オランダで生活した経験から、グローバル社会で活躍するための秘訣・心構えのレクチャーを受けた。</p> <p>冒頭の話の中で、講師の藤谷氏からの「案外、海外駐在できる可能性は高いんだ」という言葉が印象的であった。特に、自動車を取り扱う企業であることも影響しているのではあろうが、市場が海外、特にアジアへ移行していることもあって、常に海外を視野に入れた思考を持つことが求められているようだ。</p> <p>セミナーでは、“自文化と異文化の価値観の違いに対する理解”について、国の文化や価値観の違いを知るためのモデルとして、国民文化・組織文化研究の第一人者であるヘールト・ホフステード氏の四次元分析モデル（1. 権力格差, 2. 個人-集団主義, 3. 男-女らしさ, 4. 不確実性の回避）を使って丁寧に説明いただいた。当然、ステレオタイプに国を理解することに重きを置いているわけではないが、各国の文化・価値観を理解することは、実際にその国の個人とコミュニケーションをする上で非常に役立つという。また、“実際に海外駐在する上で必要な能力”について、1. 重要人物を見分ける、2. 自分を売り込む、3. 合理的に話す、4. プライベートを大切にす、5. 誠心誠意で話すの 5 点を挙げ、丁寧かつユーモアいっぱい説明いただいた。</p> <p>また、海外で仕事をこなす際の必要能力として、専門知識や英語力などの能力（勉強すれば伸ばせる部分）の重要性は言うまでもないが、最も重要なことは、その地に合わせるためのオープン・マインド（性格・行動）、異文化/歴史を理解すること（意識）という点は、UNGL が目指すグローバル人材とも重なる点が多いのではないかと感じた。</p> <p>（参加学生からのコメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な視点で物事を見ることが大切だと思った。コミュニケーション能力の大切さを知った。</li> </ul>												

- 海外の方々と仕事をする上では、各国の価値観を理解するのが重要だと分かった。外国人からしたら、日本人は変わっている。客観的な見方が必要なんだと思った。駐在員という立場の大変さ、それに伴う成長の大きさも見て取れました。向こうの人の立場に立って話すことの大切さや難しさを知った。日本人の考え方はグローバルスタンダードではない。それを常に頭に入れておくことが海外駐在において重要だと思った。
- 海外で仕事をしたいときはまず英語力を身につけ、人とのコミュニケーション能力を身につけることが大切だと思いました。今まで何も考えていなく、どのように考えるかも分からなかったので、今日を通して自分が知らないことをたくさん知って勉強になりました。これから海外で仕事をするため自分をしっかり磨いて、勉強をして頑張りたいと強く思うようになりました。
- 高校の私と大学の私は全く違って、大学に入ってもりがちになっています。もっと留学生と話したいし、友達も作りたいけどなかなか堅くなってしまって、この半年間なかなか成長した感じはなかったです。でも、家に帰って、何で自分はこの学校に来たのか、目標は何か、どんな人になりたいかを紙に書いて、そのために何が足りないかを思いついたら部屋の目に付くところに貼ります。講座の後のプリントは奥にしまってしまうけど、今日のメモは部屋に貼ります！何かが変わると信じて！
- 恥ずかしがらずに自分の意見を言うことが大切だと思った。
- 海外で駐在することは夢ではありましたが、まだまだ漠然としていたので、今回のセミナーで輪郭は見え始めてきたかなと思います。
- 海外赴任するために必要なスキルを理解できた。私は他大学生だが外部参加もあって嬉しい。
- 話は少し難しかったが、とても興味深い話が聴けて良かったです。特に、国による価値観の違いを分析したものはとても興味を持ちました。また、自分が思っている以上に日本人は変わった文化や常識、価値観を持っており、外国へ旅行するのも、働くのも、しっかり国による違いを勉強しなければ！と強く思いました。海外経験をすることは、ものすごく大変で勇気がいるが、たくさんのメリットがあるんだということが分かったので、以前より海外で働きたい気持ちが強まりました。
- 現地の人とコミュニケーションを図るのに自分の国のことをもっと知っておかないと日本のことを話してきてくれない返せなかったら困るので、もっと自分の国のことを知ろうと思いました。

平成 25 年度

グローバル・リーダーシップ・セミナー（第 3 回）

報告者	京都外国語大学外国語学部 岸岡 洋介																														
実施日	平成 25 年 11 月 8 日（金）16:40～18:10																														
実施先	京都外国語大学・短期大学																														
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>学生</th> <th>教職員/一般</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>京都外国語大学</td> <td>33</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>京都文教大学</td> <td>4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>京都光華女子大学</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>追手門学院大学</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>同志社大学</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>立命館大学</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>大学コンソーシアム京都</td> <td></td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>一般</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>38</td> <td>22</td> </tr> </tbody> </table>	大学名	学生	教職員/一般	京都外国語大学	33	15	京都文教大学	4		京都光華女子大学		1	追手門学院大学		1	同志社大学	1		立命館大学		1	大学コンソーシアム京都		3	一般		1	合計	38	22
大学名	学生	教職員/一般																													
京都外国語大学	33	15																													
京都文教大学	4																														
京都光華女子大学		1																													
追手門学院大学		1																													
同志社大学	1																														
立命館大学		1																													
大学コンソーシアム京都		3																													
一般		1																													
合計	38	22																													
講師	東京大学大学総合教育研究センター 准教授 中原 淳 氏																														
内容	<p>講師の中原氏（専門：経営学習論）は「大人の学びを科学する」をテーマに、企業・組織における人々の学習・コミュニケーション・リーダーシップについて先進的な研究をされており、これまでに数多くの企業・社会人向けの研修等も企画・実践されている。今回はその経験も踏まえて、「企業経営で今まさに起こっていること」、「これから就職する学生に参考になること」に焦点を当てたセミナーをお願いした。本セミナーは、セミナーの内容もさることながら、セミナー（学生の能動的な授業参加）を活性化させる手法についても多くの示唆を得られるということで、多くの大学関係者の参加もあった。</p> <p>（内容）</p> <p>まず、企業経営の現在の課題を簡単なミニワークで学ぶ。数名のグループを作り、講師から出される課題を解いていくという至極簡単なゲームであった。①最初は個人で行い、②その後グループの中にリーダーを決め、リーダーの戦略に従う形で実施、次に③メンバーからの意見もうまく取り入れながら最適な解を求める（課題も徐々に複雑化する）といった具合に、段階をおった。じつは、その段階に現在の企業が直面する課題が垣間見れるというわけである。つまり、ひと昔前の安定社会（①～②の段階）から、現在の不確実で多様化する社会（③の段階）が課題の中にもうまく取り入れられており、これからの社会では、さまざまな人がさまざまな立場で市場環境を受け入れる→対話する→プロダクトアウトするという社会であり、リーダーは多種多様なものをまとめていかなければならないという結論に落ち着く。</p> <p>そして、これから企業で生きる人は、①主体的に学び続ける人（自ら探索し続け、考え続けられる人）、②異質なものと対話し、納得解をつることができる人（異質なものとつきあうこと、特に異文化の人々、英語はそのひとつの手段）③将来的には「異質な人々」をリードできる人（リーダーシップとは「振り向けば、後にひとがついてくる状態」）というまとめには多くの場面で共感することができた。</p>																														

また、異質なネットワークを大学時代に持っていた人のほうが、組織適応しやすいという結果も出ているそうだが、UNGLの異文化ネットワークはまさにこれに当てはまるものであると感じることができた。



セミナー風景



教職員も真剣に議論



ワークの風景

(参加学生からのコメント)

- ・今の日本の企業の実態を違った視点で考えることにより、今の自分の現状にも照らし合わせることができ、さまざまなプラスな発見や気づきがありました。
- ・stableな外部環境から不安定な外部環境になっているというのが印象的でした。市場が何を求めているか知らなければ！
- ・自分の専門以外でも知識を広げた方がいいし、人脈も広げた方がいいこと。異文化や異質な人と付き合う！
- ・どれだけ自分の中で知識があっても、他の人と関われなければ役に立たないこと。他の人の意見に対して、まず一旦受け入れる姿勢の必要性。自分の力がどれだけ“集団”の中で生きるのかは、“頭の良さ”ではなく、客観的に物事を判断して、より他の人に分かりやすく伝えられるかどうかにかかっていること → コミュニケーション力は大切。
- ・身近に考えられるもので、分かりやすい説明ですごくためになりました。
- ・weak tieほど私が知らない情報を知っている。かつてイノベーションをした企業はなかなか次のイノベーションに踏み出せない、組織慣性が高い。
- ・今回のセミナーは、今まで自分が経験したことをまとめたもののような感じがしました。気づいてないふりとか、面倒で振り返ってなかったこととか、そういうものを直視させられたみたいな。理解しようとする努力が足りないのかなと思いました。もっと本を読もうと思います。地図を広げます。
- ・普段やらないことにも積極的に取り組んでいこうと思いました。常に工夫し、自分が成長できる場所を見つけようと思います。
- ・自分がいかに小さいコミュニティにしか属していなかったかを痛感しました。社会に出ればいやでも知らない人と話さなければいけないから、今はいいやと思っていましたが、今しかできない、今から始めなければ！と思いました。
- ・現状に満足せず、地に足のついた社会人になるためにもっと勉強して、知的地図を広げていきたいと思った。
- ・「異質な人」との繋がりはありますが、深く関わることに抵抗があるので、今後は人脈を広げていきたいです。

(参加教職員からのコメント)

- ・内容はもちろん、ワークショップを入れながらの時間管理が素晴らしかったです。
- ・聞くだけでなく、まず体験をしたことで、後の講義が深く学べた気がします。
- ・大学生がlearningの重要性に気づくような教育とは何か、ということ考えた。
- ・学び続けないとじきに自分の商品価値がなくなっていくのだろうなと思いました。
- ・異質なものとのつながりを増やすという方針が間違っていなかったと確認できました。人生のアップダウンを冷静に受け入れるべきということを学びました。
- ・主体的、対話・リードというキーワードが出てきましたが、そういったことを考えられる授業づくりをどうするのか、これからの課題だと思いました。
- ・異質を改めて考えることができた。同質の中にいるなあと思いました。
- ・過去の成功体験が組織慣性を生み、それが新たなイノベーション創出を阻害する話に、組織人として身につまされる思いでした。
- ・グループワークを通して初めて気づくことがあると今更ながら感じました。

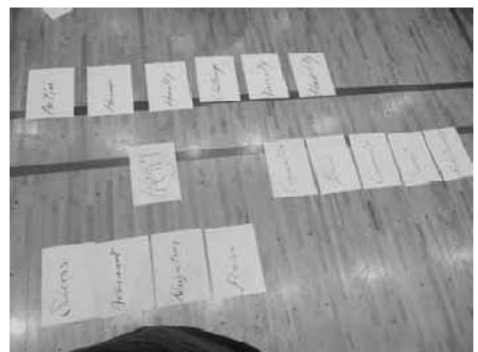
平成 25 年度

グローバル・リーダーシップ・セミナー（第 4 回）

報告者	京都外国語大学外国語学部 岸岡 洋介															
実施日	平成 25 年 12 月 21 日（土）13:00～18:00															
実施先	京都外国語大学・短期大学															
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>学生</th> <th>教職員/一般</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>京都外国語大学</td> <td>17</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>京都文教大学</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>追手門学院大学</td> <td>8</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>27</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>	大学名	学生	教職員/一般	京都外国語大学	17	3	京都文教大学	2		追手門学院大学	8		合計	27	3
大学名	学生	教職員/一般														
京都外国語大学	17	3														
京都文教大学	2															
追手門学院大学	8															
合計	27	3														
講師	玉川大学学術研究所心の教育実践センター主任代理 准教授 難波 克己 氏															
内容	<p>UNGLではお馴染みの難波氏（玉川大学）をお招きして、プロジェクト・アドベンチャーの手法を使い、体験を通して自己と他者の理解を深め、人が繋がっていくプロセスを学び、気づき、体感を伸ばすコミュニケーション・リーダーシップのワークショップを行った。</p> <p>UNGL ではすでに数回難波氏をお呼びしたワークショップを実施しているが、そのほとんどに参加し、今回が 3 回目となる参加者もいる中、相変わらずの巧みなコーディネートによって、あっという間に皆に笑顔が広がっていく。参加者はワークショップの内容はもちろんであるが、講師である難波氏自身が心から楽しみながら指導を行う姿に多くの学びを得ているようである。</p> <p>実際の内容も、二人組で呼吸を合わせて行うストレッチや、風船を使ったワークなどグループでのゲームを通して、対人コミュニケーション、チームビルディング、リーダーシップ等の要素を体感的に学ぶことができた。参加学生は、自らが所属する組織や団体における、リーダーとして、あるいはチームメンバーとしての自分の立ち位置や、これまでの振る舞いについて改めて考えるきっかけになった。また、他者とのふれ合いを通して、自らが所属する組織や団体での「仲間」の存在を改めて振り返ることができたのではないだろうか。</p> <p>さらに、今まで自分が人と関わる上で大切にしてきたことや、自分自身のモチベーションや他者のモチベーションを上げるために必要な要素を自ら洗い出し、他者に伝えることによって改めて自分自身に向き合うことができるなど、有意義な時間を過ごすことができた。</p> <p><u>（参加学生からのコメント）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が大切にしていることは意外にたくさんあることに気づいた。でも、その大切にしていることを自分の行動にうまく生かしていないことがこれからの課題だなと思った。「楽しむことは理屈じゃない」という言葉がすごく印象に残って、これからも大切にしていきたいなと思いました。</li> <li>・自分の意見を思いのほか口にできていない。周りの“考えてくれる人”の主張に同調して、そのまま自分の考えにしている。</li> <li>・短時間の参加でしたが、チームでの役割、自分の将来過去を見つめ直せました。</li> <li>・チームの活動にとって、目標を統一することは大切だと思った。</li> <li>・普段意識しないで人と接しているけど、自分なりに大切にしていることはたくさんあるんだと思った。日々の行動にも意識は大事だと思った。考えの柔軟性が必要、身につけたいと思った。</li> </ul>															



- ・自分のことの新たな発見もできたし、楽しかったです。新たな出会いもあって人とのつながりもできた。自分は自身がなくてめちゃ引っ込み思案な性格です。でも、新たな人とパートナーシップを育むことで、本当に充実した時間が過ごせた。今日は来ていい話がたくさん聞けた。自分のリーダーのあり方や、モチベーションの上がり方も見いだせることができたから来てよかったと思います。
- ・自分をどうやって見つけるのかを、体を動かして知れた気がします。
- ・今までの自分を振り返れた。これから自分が伸ばす力が何なのか、周りとの関わり方を考えることができた。
- ・3回目の参加だったので、また違った角度で学ぶことができた。「やってみよう」を意識して言えたので良かった。学んだことは、今まで型にはまっていたということ。



平成 25 年度

グローバル・リーダーシップ・セミナー（第 5 回）

報告者	京都外国語大学外国語学部 岸岡 洋介															
実施日	平成 26 年 1 月 18 日（土）13:00～17:00															
実施先	京都外国語大学・短期大学															
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>学生</th> <th>教職員/一般</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>京都外国語大学</td> <td>16</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>京都文教大学</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>大学コンソーシアム京都</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>17</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table>	大学名	学生	教職員/一般	京都外国語大学	16	4	京都文教大学	1		大学コンソーシアム京都		1	合計	17	5
大学名	学生	教職員/一般														
京都外国語大学	16	4														
京都文教大学	1															
大学コンソーシアム京都		1														
合計	17	5														
講師	東京大学大学院 情報学環 特任助教 森 玲奈 氏 英国国立レスター大学 修士 真木 まどか 氏 写真家 猫田 耳子 氏															
内容	<p>第5回グローバル・リーダーシップ・セミナーでは、リーダーシップの概念の中でも外すことはできない、「フォロワーシップ」を習得するために、絵や写真の「対話型鑑賞」という手法を用いたワークショップを開催した。講師の一人である森氏（専門：教育工学、生涯学習、学習環境デザイン）は、ワークショップやカフェイベントの企画・運営・評価に関する実践的な研究を行っており、今回のセミナーでは、ワークショップを作り上げる際の準備や配慮におけるコツなども、併せて教授いただくことができた。</p> <p>（内容）            講師の先生方が醸し出す穏やかな雰囲気とその場を包み、セミナーの初めからゆったりと居心地の良い空気が流れる中で始まった。最初は、真木氏による留学経験トークから始まり、留学を通して「越えられない壁はない」「国々によって、パーソナルスペースが変わる」などを実感するに至った具体的なお話に対して、参加学生たちからも次々と質問が投げかけられ活発な議論が行われた。その後、参加者の一人が選んだ絵をじっくり鑑賞し、思い思いの感想を共有しあう「対話型鑑賞」ワークショップが行われた。対話型鑑賞には4つのスキル（観る、考える、話す、聴く）を存分に使うことが求められるのだが、まさにこのスキルは「フォロワーシップ」を発揮する際に重要な要素であり、対話型鑑賞という普段我々が馴染みの少ない視点からこれらの要素をトレーニングする新たな経験であった。参加者にも、普段美術館で絵を観るよりもじっくりと鑑賞することによって、非常に多くの気づきや見え方が生まれ、時間があつという間に過ぎていく感覚は不思議なものだった。</p> <p>我々が行う研修の多くは、参加者の経験に照らし合わせて言葉を紡ぐような内容が多く、今回のようなその場にあるもの（事象）がどのように見えているかを共有する手法はすごく斬新で、学びも多かった。</p> <p>（参加学生からのコメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が大切にしていることは意外にたくさんあることに気づいた。でも、その大切にしていることを自分の行動にうまく生かせていないことがこれからの課題だなと思った。「楽しむことは理屈じゃない」という言葉がすごく印象に残って、これからも大切にしていきたいなと思いました。</li> </ul>															

- ・自分の意見を思いのほか口にできていない。周りの“考えてくれる人”の主張に同調して、そのまま自分の考えにしている。
- ・短時間の参加でしたが、チームでの役割、自分の将来過去を見つめ直せました。
- ・チームの活動にとって、目標を統一することは大切だと思った。
- ・普段意識しないで人と接しているけど、自分なりに大切にしていることはたくさんあるんだと思った。日々の行動にも意識は大事だと思った。考えの柔軟性が必要、身につけたいと思った。
- ・自分のことの新たな発見もできたし、楽しかったです。新たな出会いもあって人とのつながりもできた。自分は自身がなくてめちゃ引っ込み思案な性格です。でも、新たな人とパートナーシップを育むことで、本当に充実した時間が過ごせた。今日は来ていい話がたくさん聞けた。自分のリーダーのあり方や、モチベーションの上がり方も見いだせることができたから来てよかったと思います。
- ・自分をどうやって見つけるのかを、体を動かして知れた気がします。
- ・今までの自分を振り返れた。これから自分が伸ばす力が何なのか、周りとの関わり方を考えることができた。
- ・3回目の参加だったので、また違った角度で学ぶことができた。「やってみよう」を意識して言えたので良かった。学んだことは、今まで型にはまっていたということ。



平成 25 年度

学生 FD の WA!!!!

報告者	追手門学院大学 梅村 修 京都文教大学 村山 孝道																																																																																				
実施日	平成 25 年 12 月 7 日 (土) 12:00~18:00 12 月 8 日 (日) 10:00~16:00																																																																																				
実施先	追手門学院小学校 スカイホール																																																																																				
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>学生</th> <th>教員</th> <th>職員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>追手門学院大学</td><td>18</td><td>4</td><td>5</td></tr> <tr><td>岡山大学</td><td>3</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>北翔大学</td><td>3</td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr><td>九州国際大学</td><td>4</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>京都外国語大学</td><td>5</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>京都文教大学</td><td>15</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>佐賀大学</td><td>7</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>徳島大学</td><td>7</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>立命館大学</td><td>1</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>愛媛大学</td><td></td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr><td>金沢星稜大学</td><td></td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>三重中京大学</td><td>(1)</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>芝浦工業大学</td><td></td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>神戸国際大学</td><td>1</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>大阪電気通信大学</td><td></td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>奈良文化女子短期大学</td><td></td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>白百合女子大学</td><td></td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>名城大学</td><td></td><td></td><td>3</td></tr> <tr><td>京都産業大学</td><td>1</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>合計</td> <td>65 (1)</td> <td>13</td> <td>16</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ ( ) は卒業生</p>	大学名	学生	教員	職員	追手門学院大学	18	4	5	岡山大学	3	1		北翔大学	3	1	1	九州国際大学	4	1		京都外国語大学	5	2		京都文教大学	15		1	佐賀大学	7		1	徳島大学	7	1		立命館大学	1	1		愛媛大学		1	1	金沢星稜大学			1	三重中京大学	(1)			芝浦工業大学		1		神戸国際大学	1			大阪電気通信大学			1	奈良文化女子短期大学			1	白百合女子大学			1	名城大学			3	京都産業大学	1			合計	65 (1)	13	16
大学名	学生	教員	職員																																																																																		
追手門学院大学	18	4	5																																																																																		
岡山大学	3	1																																																																																			
北翔大学	3	1	1																																																																																		
九州国際大学	4	1																																																																																			
京都外国語大学	5	2																																																																																			
京都文教大学	15		1																																																																																		
佐賀大学	7		1																																																																																		
徳島大学	7	1																																																																																			
立命館大学	1	1																																																																																			
愛媛大学		1	1																																																																																		
金沢星稜大学			1																																																																																		
三重中京大学	(1)																																																																																				
芝浦工業大学		1																																																																																			
神戸国際大学	1																																																																																				
大阪電気通信大学			1																																																																																		
奈良文化女子短期大学			1																																																																																		
白百合女子大学			1																																																																																		
名城大学			3																																																																																		
京都産業大学	1																																																																																				
合計	65 (1)	13	16																																																																																		
講師	<p>玉川大学学術研究所心の教育実践センター 准教授 難波克己氏</p> <p>プロジェクトアドベンチャー (以下 P.A.) の日本における第一人者。心理学、社会心理、脳科学などの領域から、アドベンチャー教育の実践手法と組織心理、行動変容などを研究。アドベンチャーアプローチを使ってのチームビルディングの実践を行い、オリンピック代表チーム、サッカーワールドカップなどのチームビルディングに携わっている。AEE=体験教育学会所属、日本臨床心理学会学会員、子ども虐待防止学会会員。</p>																																																																																				
完了報告	<p>北は北海道から南は九州まで、19 大学延べ 95 名の教職員・学生の参加者を得た。参加者のバックグラウンドとしては、UNGL 連携校からはリーダーシップやピアサポート関係者、学生 FD ネットワークからは各大学の学生 FD 活動や自治会のメンバーなどであった。</p> <p>学生 FD の WA は、所属する組織の課題を「既存のノウハウやスキル」を学ぶことに寄って乗り越えることを目的として実施する研修プログラムであり、過去 4 回の実績を持っている。</p>																																																																																				

今回は体験学習のノウハウとスキルである P.A. を、その第一人者である難波克己氏に直接、二日間にわたってみっちりと指導いただくことができた貴重な機会であった。また、参加者が各大学で何らかの組織活動をしている学生達、即ち「活用現場を持っている学生たち」であったことから、学んだ知識がインプットだけで終わることなく、今後の活動に活用されることが十分期待できる結果となった。

テーマ：強いチーム作りのために、土台から見直したらドウダイ??

#### 【プログラム到達目標】

- ・ P.A. アプローチを体験し、この手法の概要を各自が所属する組織のメンバーに説明できる。
- ・ P.A. アプローチを使ったアイスブレイクやチームビルディングのスキルの一部を修得し、各自が所属する組織の活動に活用できる。

#### 【プログラム概要】

##### ■1日目

11:30~12:00 受付  
12:00~12:30 開会式  
12:45~17:50 P.A. (実習)  
18:30~20:30 懇親会

##### ■2日目

9:30~10:00 受付  
10:00~12:30 P.A. (実習)  
12:30~13:15 昼食  
13:15~15:50 P.A. (実習)  
15:50~16:00 閉会式

#### 【プログラム内容】

プログラムは講師のリードにより、終始「体験学習のサイクル」即ち、①やってみる②振り返る③理解する、一般化する④再試行する、というプロセスを経ながら行われた。言い換えると実習とミニレクチャーの巧みな組み合わせによるプログラムであり、参加者は飽きることなく、もちろん、居眠りする者も一切なく、実践し、理論で説明を受け、腑に落ち、眼から鱗が落ちる体験を次々に積み重ねるうちに、あっという間に時間が過ぎ去っていった。

体験したスキルの数は膨大な数にのぼるため詳細は割愛するが、名称のみ、一部抜粋して記載する。

「アンケート調査」「握手」「コズミック理論」「孔子の言葉」「富の共有」「People to People」「チャレンジ」「フルバリュー」「間違い探し」「ミラーのストレッチ」「フェンシング」「鬼ごっこ」「GRABBSS」「トラスト」「トラストウェイブ」 その他多数

#### 【アンケート結果】

「研修を受けたことで、今後に活かせるものを得ることができた」という問と、「学生 FD の WA!!!!!!は、全体的に満足できるものだった」という問に対し、それぞれ 96.6%、96.7%が「どちらかと言えばそう思う」「そう思う」と回答し、参加者が今後活かせる知見を得ることができたことを通して、高い満足を得たことが伺えた。

<アンケート集計結果>

①そう思わない、②どちらかと言えばそう思わない、③どちらかと言えばそう思う、④そう思う

質問項目	①	②	③	④
PAについてある程度知った上で参加した	48.3%	23.3%	13.3%	15.0%
PAをもっと体験したいと思った	0.0%	1.7%	43.3%	55.0%
研修は適切な時間配分で進められた	1.7%	15.0%	38.3%	45.0%
企画全体の日程・時間設定は適切であった	1.7%	11.7%	38.3%	48.3%
研修を受けたことで、今後活かせるものを得ることができた	0.0%	3.4%	27.1%	69.5%
企画に関する事前の情報は十分知ることができた	11.7%	38.3%	31.7%	18.3%
スタッフの対応は丁寧だった	0.0%	3.3%	20.0%	76.7%
学生FDのWA!!!!!!は、全体的に満足できるものだった	1.7%	1.7%	35.0%	61.7%

(N=60)

また、自由記述においては、「日常の活動に活用する既存のスキル・ノウハウを学ぼう」という主催者の狙いがある程度達成されたことが伺えるコメントが多数あった。(以下一部抜粋)

- ・「日常にどう生かすか、難しいですがしっかり考え実践したいと思います。」
- ・「とても充実した2日間を過ごし、たくさんの人と新たに出会うことができました。今回の活動を通して、積極的になることの大切さを改めて実感しました。これからも、このような機会をいただけたときには、積極的に参加していきたいと思います。」
- ・「自分が大学祭の実行委員でこれから役立つことや、将来教員を志す上で必要なスキルを学ばせていただき、今日学んだことがいつか「これか!」と気付くことができるのがとても楽しみです。」
- ・「実践できる何か」を「研修(トレーニング)」するスタイルが大変すばらしいと思います。スキルを集めるだけのスキル家さんになることなく、「使える」「役立つ」「必要な」スキルを探求し、形にしていれば幸いです。」

一方、課題としては、「研修は適切な時間配分で進められた」「企画全体の日程・時間設定は適切であった」「企画に関する事前の情報は十分知ることができた」という問いに対してそれぞれ、16.7%、13.4%、50%が、「どちらかと言えばそう思わない」「そう思わない」と回答しており、企画者側学生スタッフの事前の企画力やマネジメント力に課題を残したと言える。ただし、「スタッフの対応は丁寧だった」という問いに対して、96.7%が好印象を持っており、当日の運営については、学生スタッフの真摯な態度、ホスピタリティーマインドは十分に参加者に伝わったといえるだろう。



学生スタッフ作成の看板



会場の窓のすぐ外には大阪城が眼前に迫る



模造紙を使った実習



実習の後には必ずミニレクチャーがある



レクチャーだけでなく振り返りが行われる



スリッパを使った珍しい実習



全員が参加して様々なワークが行われる



2日間の研修の最後は黄金の大阪城が見送ってくれた

平成 25 年度

一学一山運動フォーラム

報告者	広島経済大学 興動館 中山 紘之																																												
実施日	平成 25 年 12 月 7 日 (土) ~8 日 (日)																																												
実施先	広島経済大学 興動館																																												
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>教員</th> <th>職員</th> <th>学生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>愛媛大学</td> <td></td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>岡山大学</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>三重大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>吉備国際大学</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>広島経済大学</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>広島修道大学</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>広島女学院大学</td> <td></td> <td>1</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>新見公立大学</td> <td></td> <td></td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>早稲田大学</td> <td></td> <td>1</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>2</td> <td>7</td> <td>31</td> </tr> </tbody> </table>	大学名	教員	職員	学生	愛媛大学		2		岡山大学			2	三重大学	1		3	吉備国際大学			2	広島経済大学	1	3	12	広島修道大学			2	広島女学院大学		1	4	新見公立大学			3	早稲田大学		1	3	合計	2	7	31
大学名	教員	職員	学生																																										
愛媛大学		2																																											
岡山大学			2																																										
三重大学	1		3																																										
吉備国際大学			2																																										
広島経済大学	1	3	12																																										
広島修道大学			2																																										
広島女学院大学		1	4																																										
新見公立大学			3																																										
早稲田大学		1	3																																										
合計	2	7	31																																										
講師	<p>【講師】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター ボランティアコーディネーター 仲村 正彦氏</li> <li>■ 三重大学 大学院生物資源学研究所 緑環境計画学 教授 松村 直人氏</li> </ul> <p>【ファシリテーター】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 広島経済大学 興動館 中山 紘之</li> </ul>																																												
完了報告	<p>12月7日(土)・8日(日)の両日、興動館において「一学一山運動フォーラム 2013～つながりが森を守る力になる～」を開催した。当日は9大学40名が一堂に会し、普段、広島経済大学武田山まちづくりプロジェクトがまちづくりの施策として開発する「武田の里」において、保全活動を実施し、そのノウハウや森林の作り方を互いに分かち合った。</p> <p>また、2日目には、保全をした「武田の里」の未来を考えるワークショップを開催し、5グループの学生たちが様々な視点やアイデアで、それぞれの森の未来について発表しました。</p> <p>発表では、星を見る展望台やハンモックを活用した癒しのスペースなどが提案され、それらの提案内容を実現できるよう検討することを「武田山まちづくりプロジェクト」のリーダーの柴田祐吾さんが宣言し、盛大のうち閉会した。</p>																																												



## 【プログラム到達目標】

つながる：参加者同士がつながり、仲間になる

学び合う：保全活動におけるノウハウや知の共有をはかる

創造する：参加者同士が創造性を発揮し、一学一山運動への新たな取り組みについて考える

## 【プログラム概要】

### 1. 内 容

(1) 目 的：参加者の参画意識を高め、一学一山運動の振興をはかる

(2) 日 時：平成25年12月7日（土）～ 8日（日）

(3) 共 催：早稲田大学 平山郁夫記念ボランティアセンター、広島経済大学興動館  
文部科学省大学間連携共同教育推進事業「西日本リーダーズスクール (UNGL)」

(4) 宿 舎：広島経済大学 興動館 〒731-0138 広島市安佐南区祇園5丁目1番27号

(5) フィールド：広島経済大学 第三校地西側山林「武田の里(仮称)」

(6) 参 加 費：3,000円（懇親会費、ふとん代、茶菓子代ほか）

## 【プログラム内容】

### ～つながりのセッション～

#### 1日目 10:00 オリエンテーション・アイスブレイク

初対面の参加者同士が、共に学び合い創造性を発揮できるような規範作りをすることに努めた。参加動機やそれぞれの活動についてなど、じっくり時間をかけて分かち合い、語り合った。



### ～学び合いのセッション～

#### 1日目 13:00 フィールドワーク 「武田の里」の間伐作業

森林保全のノウハウについて、フィールドに出て学び合った。広島経済大学「武田山まちづくりプロジェクト」が普段から活動の拠点としている「武田の里」において、原生植生の森にするための間伐のノウハウを学び実践した。



～創造のセッション～

1日目 18:00 私たちの山のゾーニング

山を整備し調査したことを基にゾーニング作業を行った。5グループ6人に分かれそれぞれの山の有り様について創造性を発揮し合った。



2日目 9:00 発表会

それぞれ話し合ったゾーニング案について発表会を行った。発表の中には、大学生が集えるキャンプ場の整備や、地域の方々が利用できる憩いの場の整備などが発表されました。



2日目 10:00 松村教授の講演「森とつながりを考える」

森と人との共生について、また、森林を通じた人とひととのつながりについてご講演をいただいた。専門的な視点は、ゾーニング案をさらに磨きをかける大きな学びになった。



2日目 11:00 ふりかえり・クロージング

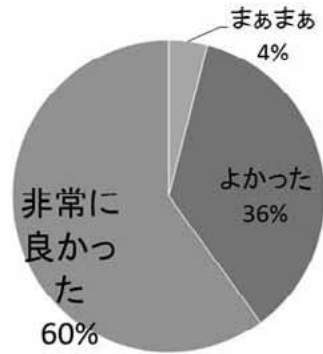
1泊2日のふりかえりを行った。気づきや学び、自らの行動や態度についてなど、皆が思い思いのテーマで語った。



【アンケート結果】一部抜粋

■ フォーラム全体を通して満足度はどうですか？

項目	人数	%
非常に良かった	15	60%
よかった	9	36%
まあまあ	1	4%
よくなかった	0	0%
非常に良くなかった	0	0%



■ このフォーラムで、あなたの中で「一番のお土産」になったことはなんですか？

・人とのつながり・考えるきっかけ・新しいつながり・今後も関わり続けようと思える仲間との出会い・自分と違った視点、明日からやろうとする気持ち・達成感・仲間との再会・今後もつながっていききたいという強い思い・新しい選択肢・みんなの思い・自分がすべきこと・感動・自分に対する“不足”の発見・協調性・自然の大切さ・自信・意見交換できたこと・改善点や問題点、みんなとの出会い・絆・友情・行動を起こすという気持ち

## 平成 25 年度

### ソーシャルアントプレナー実践学・入門プログラム

報告者	山口大学大学教育機構学生支援センター 松岡 陽子																		
実施日	平成 26 年 2 月 8 日（土）～9 日（日）																		
実施先	西の雅常盤・湯のまち倶楽部																		
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>学生</th> <th>教職員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>山口大学</td> <td>12</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>九州国際大学</td> <td>4</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>山口学芸大学</td> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>関西大学</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>20</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table>	大学名	学生	教職員	山口大学	12	3	九州国際大学	4	2	山口学芸大学	3		関西大学	1		合計	20	5
大学名	学生	教職員																	
山口大学	12	3																	
九州国際大学	4	2																	
山口学芸大学	3																		
関西大学	1																		
合計	20	5																	
講師	<p>                     瀧上智信氏                      （株）ガイアシステム代表取締役会長                      NPO 法人 神戸国際ハーモニーアイズ協会 理事長                      社会貢献共同体 ユナイテッド・アース代表世話人                 </p>																		
完了報告	<p>                     本プログラムは、山口大学主催・UNGL 共催、社会貢献共同体ユナイテッド・アース企画のもと、湯田温泉・旅館にて、2 日間集中的に研修が実施された。参加者には、現在の社会問題を解決し、新しい社会をつくりあげる個人となるための自分づくりが上記講師指導のもと促された。レクチャー、グループワークの際は真剣な取り組みが見られ、シェアリング（対話）では、くだけた会話のなかで、他者とのつながりを見出し、夜遅くまで話し込む参加学生もいた。参加者は 4 大学 20 人が集い、下記アンケート結果にあるとおり、研修に対する学生の評価は非常に高かった。                 </p>																		
<p> <b>【プログラム到達目標】</b>                      社会問題を解決するソーシャルビジネスの重要性について考えながら、社会のなかの自己を再考し、「人間力」を高める。                 </p> <p> <b>【プログラム概要】</b>                      〈1 日目〉                      13：40 講師自己紹介・講義の目的                      14：20 ワークショップ① 自己紹介                      15：00 レクチャー「日本の社会問題」                      16：00 映像学習                      17：40 ワークショップ② グループディスカッション                      18：45 夕食                      20：50 シェアリング（対話）                      21：50 感想コメント                      22：30 終了                 </p> <p>                     〈2 日目〉                      9：30 1 日目の学びの振り返り                      10：30 内観                 </p>																			

- 11:30 コミットメントの共有
- 12:00 各グループ代表からの発表
- 12:20 まとめ
- 13:30 終了

#### 【プログラム内容】

本プログラムは主に(1)レクチャー、(2)映像学習、(3)グループワーク、(4)シェアリング、(5)内観で構成されている。

- (1)まず、洲上講師から日本社会の問題についてレクチャーがあった。経済不況、就職率の低下、少子高齢化、生きる気力の低下など社会問題について説明があり、その社会のなかで生きる自己の認識が促された。
- (2)次に、そのレクチャーに沿って、映像学習が実施され、東日本大震災、失意の人生からの転換をテーマとした映像が多数取り扱われた。
- (3)グループワークでは自己紹介、各社会問題のテーマ別ディスカッションがKJ法を用いながら行われた。グループワーク後は各チーム、代表者が意見をまとめ、内容を発表した。
- (4)シェアリングでは、自分自身について、生き立ち、将来の夢、今の大学生活などをグループ内で語り合い、他者とのつながることを実践させた。
- (5)内観では、そのうえでもう一度自分自身に立ち返って、自らをみつめなおし、新たに社会と自己のつながりの再認識が促された。

#### 【アンケート結果】

- ・「自分があたりまえだと思っていたものが、あたりまえじゃないという再認識をさせられました。……また、最初から苦手だからとあきらめるのではなく、何事にもやりたいと思ったことは挑戦したいと感じました。……このセミナーに参加することができたことにより、人とコミュニケーションをとるのがすごく好きになり、また、自分のことを深くふりかえり、成長することができたと思っています。私の中では、言葉にあらわせないほど、自分の変化に驚いています。本当にありがとうございます。」(山口大学1年・男性)
- ・「もしこのセミナーに参加していなかったら、昔の何もしない私のままだったと思います。このセミナーが私の第一歩だと思います。劇的に変化したわけではないけれど、このセミナーに参加して、何かしないと！私もあんな人になりたい！あんなことしたい！と自分の本当に気持ちに気付いたことが、参加していた今と変化したことかなと思います。」(山口学芸大学1年・女性)
- ・「この2日間では物足りない。もっと学びたかった。……もっと人の目を気にしないで、失敗を恐れず、チャレンジ、アクションを起こしていくべきだと思った。それをぜひかたちにする。そこまで自分を突き詰めてやっていきたい。研修に参加してよかったです。」(九州国際大学1年・男性)
- ・「自分のこれまで考えていた価値観が揺らぐ体験をしました。今回は1泊2日だけだったので、もっと学びたいと思いました。」(山口大学1年・男性)
- ・「セミナーの中で、自分の過去を見つめ直すことができ、考え方・とらえ方が改まった。今までは、自分の人生に対し、「ひけめ」を感じていたが、……(自分自身を他者に語るということは)今回のセミナーの中でした最大の挑戦だった。これからは自己を表現していく態度を少しずつでも身につけていきたい。心が洗われたと思います。大変よい研修になりました。」(山口大学2年・女性)
- ・「本セミナーを通して、良心の人への影響力の大きさを知り、信念を持つことで何かをなしとげられることを知りました。また、日頃、目をそらしがちなこと、しっかりと向き合うことができ、何か自分の中で使命感をもつことができたと思います。……これからは今の日本の現状、世界の現状にしっかりと目を向けて、自分にできることを探し、共感する仲間と何か一歩でも踏み出せたらなと思います。まずは、このセミナーで感じたことを参加できなかった仲間に還元していきます。」(山口大学2年・女性)

- ・「今までは日本のことも、ましてや自分のこともちゃんと分かっていないし、ちゃんと自分でできないのに、世界各地で問題が起こっていることを支援して良いのだろうか、逆に足をひっぱってしまうのではないかなと考えていた。しかし、今回のセミナーを通して、自分よりも能力や才能や頭が良い人なんて世界ではその方が多いのに、私自身が日本という恵まれた国に生まれてしまったために大学まで通わせてもらっているということが、今の自分の生活を振り返ってみて、申し訳なく感じるし、はずかしいと感じた。今までは何もできない自分に甘えていたように感じた。今からできる行動として、ネットなどで世界状況を知ること、友人と世界状況について語って、これからについて考えていって、具体的な案がでたらつめるということをしていきたい。」（山口大学2年・女性）



写真① 瀬上講師によるレクチャー



写真② グループワークの様子



写真③ グループワークの様子



写真④グループ発表の様子



写真⑤ シェアリング（対話）の様子



写真⑥ 内観後の個人発表

## 平成 25 年度

### コミュニケーション力向上ワークショップ

報告者	香川大学教育・学生支援機構大学教育開発センター 佐藤 慶太																		
実施日	平成 26 年 2 月 11 日（火）～2 月 12 日																		
実施先	小豆島ふるさと村																		
参加者	大学名	学生	教員																
	香川大学	4	7																
	合計	4	7																
講師	山崎裕正（香川大学アドミッションセンター） 杉岡正典（香川大学保健管理センター） 山本珠美（香川大学生涯学習教育研究センター）																		
完了報告	<p>今回の研修は、次年度、他大学に開放する学生対象ワークショップの模擬研修という位置づけで、学内教職員・学生を対象に行われ、18名の参加があった（うち学生は4名）。</p> <p>プログラム初日は、話す、聴く、質問する、をテーマとしたレクチャーを中心として進められるが、二日目はワークのみで構成される。このワークは、別室に控えている4名にインタビューを行い、香川大学の課題を洗い出し、その解決策をまとめ、プレゼンすることが課題となる。初日に学んだ内容（聴く、質問する、話す）を、二日目に実践できるような仕組みになっている。</p> <p>学生・教職員の反応もおおむね良好で、「コミュニケーションにテーマが絞られていたのがよかった」等の声が聞かれた。</p> <p>また二日目には、研修の方法についても振り返りが行われ、次年度に向けての改善点が洗い出された。特に二日目のワークの方法については、具体的な提案がいくつも出されたので、次年度はより充実した内容の研修が実施できると思われる。</p>																		
<p><b>【プログラム到達目標】</b> レクチャー、グループワークを通じて「聴く、質問する、話し合う、人前で話す」といったコミュニケーション能力全般を向上させる。</p> <p><b>【プログラム概要】</b> 1 日目（2 月 11 日）</p> <table border="1"> <tr> <td>13：00～13：10</td> <td>開会式</td> </tr> <tr> <td>13：10～14：00</td> <td>ワーク 1：自分のコミュニケーションの特徴を知ろう</td> </tr> <tr> <td>14：00～15：00</td> <td>ワーク 2：コミュニケーションの促進／阻害因子を探る</td> </tr> <tr> <td>15：20～16：20</td> <td>レクチャー 1：上手に話すために（担当：山崎先生）</td> </tr> <tr> <td>16：20～17：20</td> <td>レクチャー 2：上手に聴くために①（担当：杉岡先生）</td> </tr> <tr> <td>17：30～18：30</td> <td>レクチャー 3：上手に聴くために②（担当：山本先生）</td> </tr> <tr> <td>18：30～20：00</td> <td>食事</td> </tr> <tr> <td>20：00～21：00</td> <td>ワーク 3：コンセンサスゲーム</td> </tr> </table>				13：00～13：10	開会式	13：10～14：00	ワーク 1：自分のコミュニケーションの特徴を知ろう	14：00～15：00	ワーク 2：コミュニケーションの促進／阻害因子を探る	15：20～16：20	レクチャー 1：上手に話すために（担当：山崎先生）	16：20～17：20	レクチャー 2：上手に聴くために①（担当：杉岡先生）	17：30～18：30	レクチャー 3：上手に聴くために②（担当：山本先生）	18：30～20：00	食事	20：00～21：00	ワーク 3：コンセンサスゲーム
13：00～13：10	開会式																		
13：10～14：00	ワーク 1：自分のコミュニケーションの特徴を知ろう																		
14：00～15：00	ワーク 2：コミュニケーションの促進／阻害因子を探る																		
15：20～16：20	レクチャー 1：上手に話すために（担当：山崎先生）																		
16：20～17：20	レクチャー 2：上手に聴くために①（担当：杉岡先生）																		
17：30～18：30	レクチャー 3：上手に聴くために②（担当：山本先生）																		
18：30～20：00	食事																		
20：00～21：00	ワーク 3：コンセンサスゲーム																		

2日目 (2月12日)

07:30~8:00	朝食
08:00~11:00	ワーク4:大学の課題を探し、解決策を提示する
11:00~12:00	成果発表
12:00~12:10	閉会式

### 【プログラム内容】

初日:プログラムは、まずコミュニケーションパズルを使ったワークからはじまった。これを通じて、コミュニケーションにおいて重要な点、自分のコミュニケーションの特徴を把握することができた。その後、KJ法をつかったワーク、話す、傾聴する、質問する、をテーマとしたレクチャーが続いた。「質問する」をテーマとしたレクチャーは、グループ対応のゲームが取り入れられており、大いに盛り上がった。さらに夕食後は、コンセンサスゲームが行われ、多様な意見を受け入れることの難しさ、大切さを学ぶことができた。



二日目:二日目のワークは、インタビューに基づいて香川大学の課題を探し出し、それについて解決策をまとめ、プレゼンすることが課題である。留学生の参加が多かったこともあり、提案は異文化交流、留学生増加の方策といったことをテーマとするものであった。



### 【アンケート結果】

- ・コミュニケーションにテーマが絞られていたのがよかった。
- ・コンセンサスワークのテーマがよかった。ここでチームを入れ替えてもよい。
- ・レクチャーひとつひとつをみると充実した内容だが、相互の関連がわかりにくい。
- ・二日目のワークは、学生だけでやるとなるとむずかしいかもしれない。事前に予習をさせるなどのやり方がよいかもしれない。
- ・スケジュールがタイトなので、時間配分を見直す必要がある。



## 平成 25 年度

### 学生リーダーズ・ウィンタースクール

北九州エマージェンシードリル (Kitakyushu Emergency Drill: KED)

震災サバイバルから学ぶリーダーシップ

報告者	九州国際大学経済学部 小江 茂徳																																
実施日	平成 26 年 2 月 11 日 (火) ~13 日 (木)																																
実施先	九州国際大学・北九州ふれあいの家																																
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>教職員</th> <th>学生スタッフ</th> <th>学生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>九州国際大学</td> <td>4</td> <td>14</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>佐賀大学</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>山口大学</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>愛媛大学</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>京都外国語大学・短期大学</td> <td></td> <td>2</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>京都文教大学 (OG)</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>8</td> <td>19</td> <td>16</td> </tr> </tbody> </table>	大学名	教職員	学生スタッフ	学生	九州国際大学	4	14	8	佐賀大学	1			山口大学	1	1	1	愛媛大学	2	1	2	京都外国語大学・短期大学		2	5	京都文教大学 (OG)		1		合計	8	19	16
大学名	教職員	学生スタッフ	学生																														
九州国際大学	4	14	8																														
佐賀大学	1																																
山口大学	1	1	1																														
愛媛大学	2	1	2																														
京都外国語大学・短期大学		2	5																														
京都文教大学 (OG)		1																															
合計	8	19	16																														
講師	<p>■村岡治道氏 (愛媛大学・防災情報研究センター・准教授)</p> <p>■塔迫弘章氏 (北九州市消防局・八幡東消防署・予防課)</p>																																
完了報告	<p>2 月 11 日 (火) ~13 日 (木) にかけて、北九州エマージェンシードリル (KED) を実施した。九州国際大学のリーダーシップ研修は、昨年度に続き 2 回目の実施となった。本年度は、リーダーシップ能力の育成という目的の他に、東日本大震災によって地震が身近な問題となっていることから、震災時に役に立つ知識の修得も目的として加え、新たなコンセプトの下で実施した。他大学の学生スタッフ・教員のみならず、防災の専門家や地元消防局の協力もあり、内容としては非常に充実した研修となったと考えている。</p>																																
<p><b>【プログラム到達目標】</b></p> <p>①災害時に有用な知識な知識を修得すること          ②災害時においても状況に適した判断・行動をとり、かつチームを適切な方向に導くこと          ③災害時においても他者を理解した上での行動をとること</p> <p><b>【プログラム概要】</b></p> <p>震災サバイバルと講義を通じて、災害時に有用な知識の習得とリーダーシップ能力の育成を行う。</p> <p><b>【プログラム内容】</b>          〈スケジュール〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2 月 11 日 (火) : 防災や震災時対応に関する講義とサバイバルミッション</li> <li>・2 月 12 日 (水) : サバイバルミッション</li> <li>・2 月 13 日 (火) : 防災や震災時対応に関する講義と全体振り返り</li> </ul>																																	

### ■1日目 (2月11日 (火))

開会式後、村岡氏 (愛媛大学) による防災ガイダンスが行われた。その後、実際に地震の揺れが体験できる起震車を用いて参加者全員が地震体験を行った。その後、サバイバルミッションが行われるふれあいの家北九州に場所を移し、ミッションを開始した。



### ■2日目 (2月12日 (水))

2日目は、「避難所ルール作り」、「避難所内のスペース作り」のミッションを実施し、その後、八幡東消防署の消防士の皆様の協力の下、急患搬送ミッションを実施した。



### ■3日目 (2月13日 (木))

3日目は、大学に戻り、村岡氏によるワークショップ (災害ジレンマゲーム) を実施する。午後より、グループ・全体の振り返りを実施した。

#### 【受講者の感想】

##### 良かった点

- ・ 災害時のことを考えるきっかけになった。
- ・ 自分達の作る研修の参考になった。
- ・ 自分の知識が増え、課題をみつけられた。
- ・ サマーキャンプよりしんどく、本当に家に帰りたくなった。
- ・ スタッフが真剣でその熱意をもらえた。



##### 改善点

- ・ “被災者” という設定にすぐ入り込むことができなかった。
- ・ 参加者の気持ちを統一する必要性があったと思う。
- ・ スタッフは設定や状況理解を常に意識しておくべきだった。
- ・ ミッションをするきっかけが分からなかった。



平成 25 年度

## 異文化間リーダーシップ・ワークショップ

報告者	松山大学学生支援室 泉谷 道子		
実施日	平成 26 年 2 月 13 日 (木) 13:00~16:00		
実施先	京都外国語大学		
参加者	大学名	教職員	学生
	京都外国語大学	2	12
	京都文教大学		9
	追手門学院大学		4
	山口大学		1
	京都光華女子大学		2
	松山大学	1	
	横浜国立大学	1	
	合計	4	28
講師	Dr. Ah Hiok Sia (Ph.D) インティ大学 (マレーシア) アメリカ教育センター、センター長 経営管理課 / 学生課 ディレクター		
完了報告	<p>参加者はグループに別れ、チーム名とモットーを決め、複数の活動に取り組んだ。フラフープやボールなどを使ったシンプルなゲームが中心だったが、活動の後に長い振り返りの時間を取り、チーム内で何が起こっていたか、誰のどんな働きかけで活動の流れが変わったかなどを確認することで、参加者間での気づきや学びを共有することができた。参加学生からは、「普段の集団活動の中でなんとなく気づいていた自分の課題が明確になった」、「何かに気づいたら、どんな小さいことでも伝えたり、修正を加えることでチームの効率が著しくよくなることが分かった」などの感想が聞かれた。</p> <p>情報交換会では、マレーシアと日本における学生支援やリーダーシップ養成の活動について情報や意見を交換した。</p>		
研修目的:	年代、ジェンダー、国等、様々な違いを超え、共有する問題に、他者と協同しながら対処するための知識・技能・態度を養う。		
研修目標:	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語でアイスブレイクができる。</li> <li>・英語を用いたファシリテーションの基本的技能を実践することができる。</li> </ul>		
研修概要:	英語を用いた講師によるワークショップに参加しながら、英語を用いたアイスブレイク手法やファシリテーション技能について実践的に学ぶ。		
成果・所感:	<p>すべて英語でのファシリテーションだったが、身体を動かす活動が中心だったため、参加者は抵抗なく参加できていたようだ。ただ、講師は学生の言動を観察して、それに応じて振り返りを促す問いかけをすることを心がけており、この部分においては、通訳が必要であった。アンケートは実施しなかったが、最後の全体振り返りでは、英語の理解に関するコメントはほとんどなく、活動の内容と自己の日常におけるリーダーシップを結びつけての学びについて触れられており、自分の所属団体でもフラフープなどの活動をやってみたいという声が聞かれた。</p>		



## 平成 25 年度

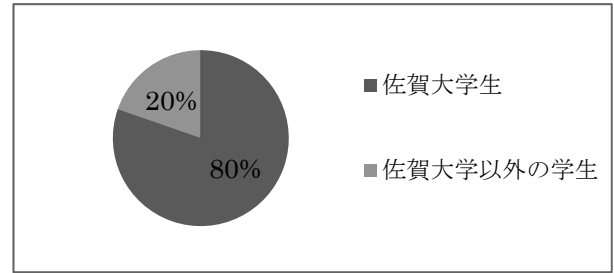
### 佐賀大学プロジェクト・アドベンチャー・ワークショップ

報告者	佐賀大学学務部学生生活課副課長 江口 達也																		
実施日	平成 26 年 2 月 18 日（火）13：00～17：00 2 月 19 日（水）10：00～15：00																		
実施先	佐賀大学本庄キャンパス 体育館																		
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>学生</th> <th>教職員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>京都文教大学</td> <td>5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>香川大学</td> <td>4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>九州国際大学</td> <td>20</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>佐賀大学</td> <td>133</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>162</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table>	大学名	学生	教職員	京都文教大学	5		香川大学	4		九州国際大学	20	2	佐賀大学	133	4	合計	162	6
大学名	学生	教職員																	
京都文教大学	5																		
香川大学	4																		
九州国際大学	20	2																	
佐賀大学	133	4																	
合計	162	6																	
講師	玉川大学学術研究所 准教授 心の教育実践センター主任代理 難波 克己 氏																		
完了報告	<p>佐賀大学は中核となってリーダーシップを学ぶ学生団体が存在していない。そのため、学内での広がりや進まない状況にある。また、近年公認サークルの部員数が減少し学内の活力や規律が失われつつある。</p> <p>そこで、各サークルの主将を中心とした学生たちが様々なアクティビティを通して、部活・サークルなど組織のメンバーへの働きかけ方や、活性化の手法を学んだ。</p> <p>具体的にはアイスブレイクから始まり、関係作り、自分の殻を脱ぐ、協力して課題解決へと実践と説明を繰り返しながら学びを深めていった。</p> <p>佐賀大学生にとっては初体験ということもあり、他大学生と比べると、意欲や熱意で劣っていたように感じた。それでも、アンケート結果によると参加者の 98%が「ワークショップは全体的に満足できるもの」97%が「ワークショップは今後役に立つもの」83%が「今後もリーダーシップ養成の研修に参加したい」と回答し、種まきには成功したものと思っている。これからは花を咲かせ実を付けさせるために継続した取組が重要であると考えている。</p>																		
内容	<p>テーマ：「アドベンチャーに飛び出そう！」</p> <p>【プログラム目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 組織メンバーのモチベーションを向上させることができる。</li> <li>② 良好な人間関係に配慮しながら、メンバーと協働し目標達成することができる。</li> <li>③ チームにおける自分自身の特性を説明できる。</li> </ol> <p>【プログラム内容】</p> <p>二人組、10 名位のグループ、参加者全員で行う様々なアクティビティを通して体験学習を行う。体験学習は「実体験」「ふりかえりと観察」「概念化・一般化」「試験・適用」のサイクルを繰り返すことでサークルの活性化など学びを獲得する。</p>																		

【アンケート結果】

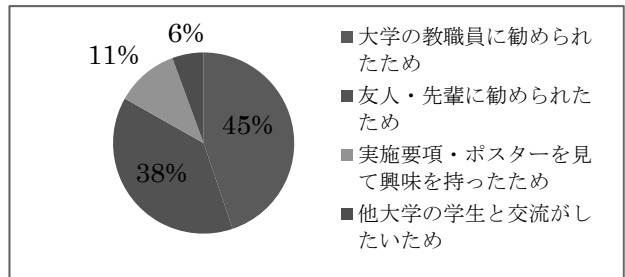
1. ご自身について

	回答数
1 佐賀大学生	102
2 佐賀大学教職員	0
3 佐賀大学以外の学生	25
4 佐賀大学以外の教職員	0
計	127



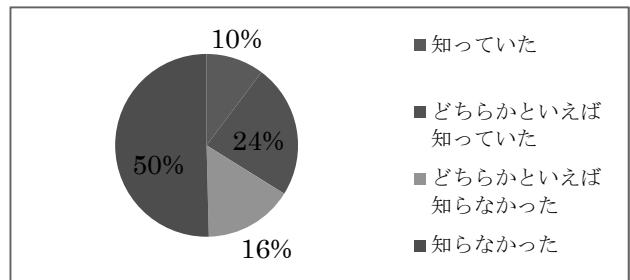
2. このワークショップへの参加動機は何ですか

1 大学の教職員に勧められたため	56
2 友人・先輩に勧められたため	48
3 実施要項・ポスターを見て興味を持ったため	14
4 他大学の学生と交流がしたいため	7
計	125



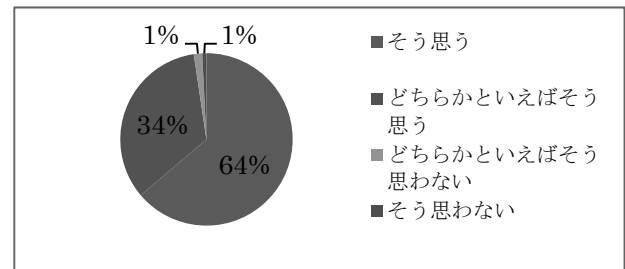
3. ワークショップの内容について、ある程度知っていましたか

1 知っていた	13
2 どちらかといえば知っていた	30
3 どちらかといえば知らなかった	20
4 知らなかった	64
計	127



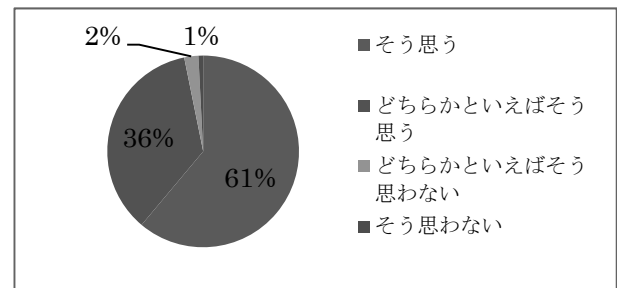
4-1. ワークショップは全体的に満足できるものだった

4 そう思う	81
3 どちらかといえばそう思う	43
2 どちらかといえばそう思わない	2
1 そう思わない	1
計	127



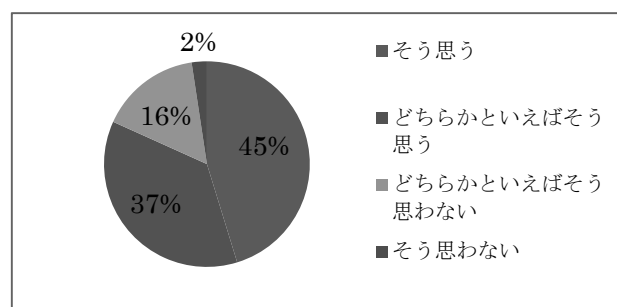
4-2. ワークショップは今後役に立つものだった

4 そう思う	77
3 どちらかといえばそう思う	45
2 どちらかといえばそう思わない	3
1 そう思わない	1
計	126



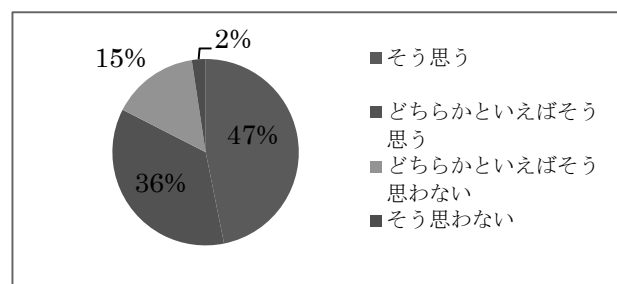
**4-3. ワークショップの日程・時間  
設定は適切であった**

4	そう思う	57
3	どちらかといえばそう思う	46
2	どちらかといえばそう思わない	20
1	そう思わない	3
計		126



**4-4. 今後もリーダーシップ養成の研修があれば参加したい**

4	そう思う	59
3	どちらかといえばそう思う	45
2	どちらかといえばそう思わない	19
1	そう思わない	3
計		126



**5. 今後こんな研修をしてほしいなど、ご意見・ご感想があればお聞かせください。（主なもの）**

- ・参加するまでは、気乗りしていませんでしたが、参加してみると意外と楽しかったです。
- ・とても楽しかったです。
- ・楽しかった!!
- ・本当に今後活かせる内容ばかりで、サイパンでもこの活動を活かしたいです。
- ・内容について全く知らないままに参加したが、話しを聴いたり体験していて、なかなか面白かった。他の人の緊張をほぐすという考えで行けば、とても参考になる話だったと思う。

## 平成 25 年度

### リーダーシップ・チャレンジ in サイパン

報告者	愛媛大学教育学生支援部教育企画課 林 真輝																																																												
実施日	平成 26 年 2 月 23 日 (日) ~ 3 月 1 日 (土)																																																												
実施先	北マリアナ諸島連邦・Public School System (Northern Marianas High School, Gregorio T. Camacho Elementary School, Tanapag Elementary School, Kagman Elementary School, Garapan Elementary School, San Vicente Elementary School, Dandan Elementary School, Oleai Elementary School, William S. Reyes Elementary School, San Antonio Elementary School, Koblerville Elementary School)																																																												
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>教職員</th> <th>学生スタッフ</th> <th>学生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島経済大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>愛知みずほ大学</td> <td>2</td> <td></td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>京都外国語大学</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>九州国際大学</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>京都文教大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>追手門学院大学</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>山口大学</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>山口学芸大学</td> <td></td> <td></td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>佐賀大学</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>香川大学</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>松山大学</td> <td></td> <td></td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>愛媛大学</td> <td>3</td> <td></td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>國學院大學</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>13</td> <td>7</td> <td>125</td> </tr> </tbody> </table>	大学名	教職員	学生スタッフ	学生	広島経済大学	1		4	愛知みずほ大学	2		6	京都外国語大学	2	4	12	九州国際大学	1	1	4	京都文教大学	1		21	追手門学院大学	2	1	20	山口大学	1	1	9	山口学芸大学			4	佐賀大学			1	香川大学			2	松山大学			7	愛媛大学	3		34	國學院大學			1	合計	13	7	125
大学名	教職員	学生スタッフ	学生																																																										
広島経済大学	1		4																																																										
愛知みずほ大学	2		6																																																										
京都外国語大学	2	4	12																																																										
九州国際大学	1	1	4																																																										
京都文教大学	1		21																																																										
追手門学院大学	2	1	20																																																										
山口大学	1	1	9																																																										
山口学芸大学			4																																																										
佐賀大学			1																																																										
香川大学			2																																																										
松山大学			7																																																										
愛媛大学	3		34																																																										
國學院大學			1																																																										
合計	13	7	125																																																										
完了報告	<p>平成 26 年 2 月 20 日から 3 月 8 日まで、UNGL 事業「リーダーシップ・チャレンジ in サイパン」のため北マリアナ諸島連邦サイパン島を訪れた。</p> <p>本研修は、UNGL 事業の Global Programs の 1 つとして、英語を用い、価値観、立場、文化背景などが異なる組織での共同活動を通してリーダーシップを身につけることを目的とするものであった。研修参加学生は、現地の小学校にて自分の得意分野を活かした教育実習を行ったり、同校の教職員等の家でのホームステイ体験を通して、自律性や社会性を養った。</p>																																																												
<p>【プログラムスケジュール】</p> <p>2 / 2 0 17:35 奥村 (広島経済大学) 到着。その後、レンタカー借用。 ANAKS (教職員宿泊所) の段取り。</p> <p>2 / 2 1 2:20 山中・林 (愛媛大学) 到着。 9:30~10:30 スタッフ打ち合わせ 11:00~12:00 現地財界関係者訪問打合せ</p>																																																													

- 13:00～15:00 教育省訪問打合せ  
教育実習、ホームステイなどについて最終打ち合わせを行った。
- 16:00～24:00 スタッフ打ち合わせ  
教職員スタッフの担当、細かな日程、調達備品などの確認を行った。

2 / 2 2

- 9:00 備品調達  
Wi-Fi ルーター、文房具他について現地の店舗を回り調達を行った。
- 12:00～15:00 研修先確認
- 16:00 垣鍔（京都文教大学）到着
- 18:00～24:00 スタッフ打ち合わせ  
学生受け入れに関するミーティングを行った。

2 / 2 3

- 1:00～ 8:00 空港での学生出迎え・対応のためスタッフを配置。  
岸岡・田中（京都外国語大学）、秦（愛媛大学）、松岡（山口大学）、中西・渡辺（追手門学院大学）と学生スタッフ8名、および参加学生がサイパン空港に到着。  
参加者を大型バス2台で一時待機先（スポーツコンプレックス）に輸送。  
教職員・学生スタッフは ANAKS に輸送。
- 10:00～11:30 教職員・学生スタッフミーティング（プログラム確認）
- 14:00 参加学生の一時待機先（スポーツコンプレックス）とプログラム開会式会場（ガラパン小学校）にスタッフ配置。
- 14:30～16:30 同小学校にて開会式、ならびにオリエンテーション。  
（プログラム開始）
- 16:30 各実習先のホストファミリーのもとへ移動開始。  
（6日間のホームステイがスタート）
- 18:30～24:15 教職員・学生スタッフミーティング

2 / 2 4

- 7:00 6台のレンタカーで各実習先（小・中学校、高等学校）へ担当スタッフが移動。
- 8:30 各学校での実習開始
- 14:30～16:00 各学校における実習終了後、スタッフによる参加学生へのリフレクション
- 19:00～22:00 教職員・学生スタッフミーティング
- 22:20～24:00 実習先別スタッフミーティング

2 / 2 5

- 7:00 6台のレンタカーで各実習先へ担当スタッフが移動
- 8:30 各学校での実習開始
- 14:30～6:00 各学校における実習終了後、スタッフによる参加学生へのリフレクション
- 18:00～20:00 教職員・学生スタッフミーティング
- 21:20～22:00 実習先別スタッフミーティング
- 22:10～24:00 学生スタッフミーティング

2 / 2 6

- 8:30 歴史・文化的遺産（バンザイ・クリフなど）の見学研修。
- 11:30 同研修 終了
- 12:30 各実習先にスタッフ配置
- 13:00～16:00 各実習先にて日本文化紹介行事の準備



19:00～21:00 日本人学生と現地の人々とのスポーツ交流  
22:00～24:00 実習先別スタッフミーティング



2 / 27

7:00 6台のレンタカーで各実習先へ担当スタッフが移動。  
8:30 各学校での実習開始  
14:30～16:00 各学校における実習終了後、スタッフによる参加学生へのリフレクション  
22:00～24:00 教職員・学生スタッフミーティング

2 / 28

07:00 6台のレンタカーで各実習先へ担当スタッフが移動。  
08:30 各学校での実習開始  
各実習先にて日本文化紹介行事を実施。  
22:30-23:00 教職員・学生スタッフミーティング



3 / 1

11:00 学生スタッフによる全体リフレクションならびに閉会式会場の設営 (カアリゾートホテル)  
14:00～17:00 全体リフレクション・閉会式  
18:00～21:00 教育省・学校関係者との交流会

3 / 2

2:00 教職員（一部）の帰国に対応

3 / 3

9:00～11:30 ヒアリング調査  
北マリアナ教育省訪問  
13:00～17:00 ヒアリング調査  
北マリアナ日本領事館訪問  
北マリアナ連邦省訪問  
北マリアナ現地財界関係団体訪問  
19:00～22:00 スタッフミーティング

3 / 4

9:30～11:00 ヒアリング調査  
Gregorio T. Camacho Elementary School  
12:30～16:00 ヒアリング調査  
Tanapag Elementary School  
Garapan Elementary School  
19:00～22:00 教職員スタッフミーティング



3 / 5

9:30～11:00 ヒアリング調査  
Oleai Elementary School  
12:30～16:00 ヒアリング調査  
William S. Reyes Elementary School  
San Antonio Elementary School

18:00～21:00 次年度に向けたスポーツ交流の  
デモンストレーション  
23:00～25:00 スタッフミーティング



3 / 6

9:30～11:00 ヒアリング調査  
Koblerville Elementary School  
12:30～16:00 ヒアリング調査  
Dandan Elementary School  
San Vicente Elementary School  
19:00～22:00 スタッフミーティング

3 / 7

9:30～11:00 ヒアリング調査  
Kagman Elementary School  
12:30～16:00 ヒアリング調査  
Chacha Oceanview Middle School  
Kagman High School  
18:00～21:00 次年度に向けたスポーツ交流の  
デモンストレーション  
23:00～24:00 教職員スタッフミーティング

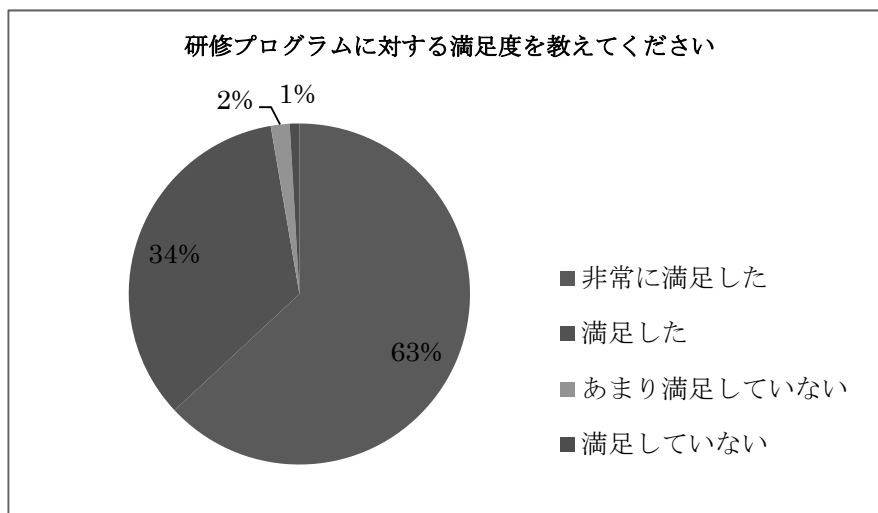


3 / 8

2:00 宿舎出発  
4:00 アシアナ便にて関西空港へ出発（秦・山中）

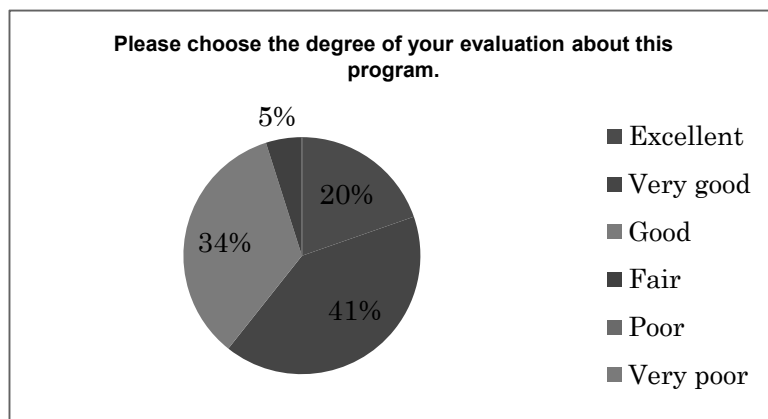
### 【アンケート結果】

#### 1. 参加学生事後アンケート

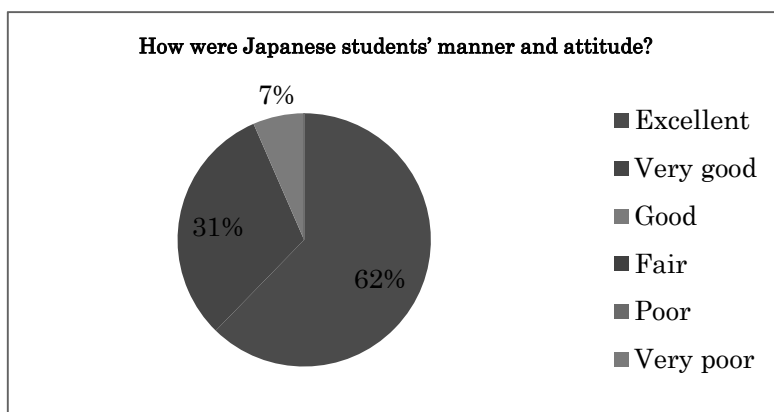


事後アンケートの結果、プログラムに対する参加学生の満足度は97%超であったことから、彼らのニーズを満たしたプログラムであることを確認できた。

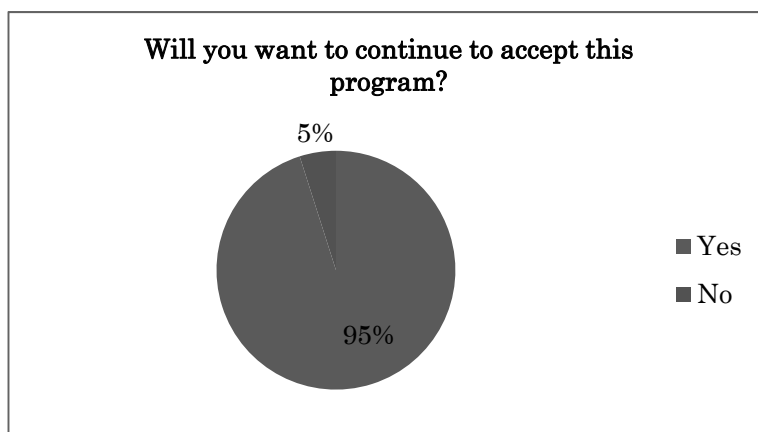
## 2. 受入先学校の教職員に対するアンケート



受入先となった小・中学校、高校の教職員の回答からは、95%が Good 以上の評価を付したことを確認できた。このことから、当プログラムが受入先にとっても有益であると認識できた。



上記の通り、日本人学生の態度に対しても高い評価を得ることができた。



このプログラムに対するニーズについては回答者の95%から継続希望という結果が得られた。非常にユニークな取り組みであるため、十分に理解を得られない場合には否定的な回答となって表れることが推測されたが、上記の結果からは現地でも本プログラムに対する非常に高い関心が向けられており、大学側の学習という側面のみならず、地域貢献的な側面も持ち合わせていることが理解できた。

### 3. 今後の課題

事後の PSS 及び現地学校とのミーティングから、以下のような意見・感想が得られた。項目を以下に示す。

- ・サイパンの生徒たちにとって、異文化と触れ合う貴重な機会でありとても良かった。
- ・日本人学生の取り組みは、総じて積極的なものであり好感が持てた。
- ・大きな学校では、10 人以上の日本人学生を受け入れることが可能だが、規模の小さな学校においては人数の調整が必要である。
- ・日本人学生の英語コミュニケーション能力の向上。
- ・授業時に用いることのできる非言語コミュニケーション手法の修得。

### 4. その他

#### 【事後調査のお願い】

Web アンケートを実施し、全学校の関係教職員に対して行った。  
非常に高いレスポンスをいただいた。

#### 【契約の締結】

事業実施に関して契約書を交わすことで合意した。内容については、UNGL 側が作成した素案を基に、柔軟な対応が可能となるようにする。

#### 【The Exchange Program For Teachers】

北マリアナ教育省は日本の学校（経営・教育制度など）について興味を持っており、実地調査の実現に向けて調整を行っている。実現の暁には、UNGL 連携・協力校にて対応することを検討している。

## 平成 25 年度

### ハワイ・サービス・ラーニング・プログラム

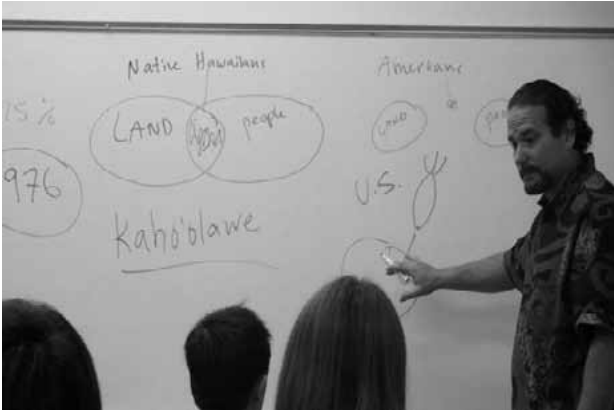
報告者	松山大学学生支援室 泉谷道子																
実施日	平成 26 年 3 月 2 日～18 日																
実施先	ハワイ大学マノア校																
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>教職員</th> <th>学生スタッフ</th> <th>学生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>松山大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>九州国際大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>2</td> <td></td> <td>14</td> </tr> </tbody> </table>	大学名	教職員	学生スタッフ	学生	松山大学	1		12	九州国際大学	1		2	合計	2		14
大学名	教職員	学生スタッフ	学生														
松山大学	1		12														
九州国際大学	1		2														
合計	2		14														
完了報告	<p>講義と奉仕活動を通し、ハワイの自然環境、言語、文化、社会的課題などについて広く学ぶことができた。また、参加者それぞれが、異なる 3 つのグループに属して、3 つの活動を行うことで、多様な他者と協同しながら、異文化環境に適応する経験を得ることができた。参加者は、毎日振り返りシートを記したが、ハワイに対しての関心の高まり、ハワイ文化への敬意、英語学習への更なる意欲、自己の今後の目標に気づきなどが読み取れた。</p>																
<p><b>【プログラム到達目標】</b> 2 週間の現地研修（ハワイ大学での講義、地域での奉仕活動、交流活動）を通してハワイの生活・文化・社会と英語コミュニケーションを学ぶ。また、現地でのプロジェクト実施の為に他大学の学生や現地の人など、価値観、立場、文化などの背景が異なる他者と協同し、経験や振り返りを通してリーダーシップ力と異文化適応力を身につける。</p> <p><b>【アンケート結果】</b> 回答者 11 名</p> <p>① 研修に満足できたか          とても満足である 11 名                      満足である 0 名          あまり満足しなかった 0 名                      全く満足できなかった 0 名</p> <p>② プログラムを通じて感じたこと、学んだこと、今後の学生生活に活かすこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業で習ったことで印象に残っているのは、Give・Grow・Transform です。習ったことを一時的に理解するのではなく、それをまた誰かに伝えることにより自分もより成長する事ができ、そこで学んだことを別のことで活かす。このサイクルに自分で挑戦したいと思いました。</li> <li>・ 全体を振り返ってサービス・ラーニングとは何かを考えたとき、一人のためにみんなが助け合い、お互いの心を豊かにするものだと思います。誰かが困っていたら手を差し伸べて、お互いのことを知った上で相手の要望に応えようと努力する。プログラム以外でも何度も目の当たりにしました。日本のサービスは進んでいると思っていたけれど、コミュニケーション（言葉や表情など）を媒介としてのサービスはハワイの方が最善だと感じました。</li> <li>・ 今回振り返りの時間が多く取られたため、他者の言動をよく観察することができました。他者を評価し改善点や良かったところを見つけることは簡単そうに思えたけど難しいものでした。人の良い点悪い点を見つけると「自分はどうなのか？」と考えて、とてもいい刺激になります。</li> </ul>																	

【活動の様子】



St. Francis High Schoolにて日本文化紹介のミニ授業の様子

Palolo Learning Center (低所得者層向け住宅地の子ども対象の学習施設でゲームや折り紙などを行いました)



53年間、米国海軍の爆撃練習場となっていたハワイ諸島のカホオラヴェ島奪還に貢献したミュージシャンであり活動家のジョージ・ヘルムについて学びました

持続可能な漁業を可能にする800年の歴史を持つ養魚池の修復作業をお手伝いしました



平成 25 年度

リーダーシップ・チャレンジ in 韓国

報告者	山口大学大学教育機構学生支援センター 松岡 陽子		
実施日	平成 26 年 3 月 11 日（火）～16 日（日）		
実施先	南ソウル大学、国農水産大学等		
参加者	大学名	学生	教職員
	愛媛大学	2	2
	松山大学	9	
	松山短期大学	1	
	香川大学	2	
	山口大学	4	1
	追手門学院大学	6	1
	広島経済大学	7	1
	九州国際大学	2	1
	京都文教大学	3	
	京都外国語大学	2	
	京都光華女子大学	2	
	合計	40	6
完了報告	<p>韓国研修の主な構成は参加学生によるプレゼンテーションとホームステイであり、その都度振り返りの機会を学生に与えながら、リーダーシップ研修を実施した。</p> <p>プレゼンテーションにおいては、1 日目は完成度が低いものが目立ったが、振り返りを重ね、最終日には精度の高いものとなっており、挑戦することへの手応えを感じる学生は多かったようである。</p> <p>ホームステイでは、各家庭の事情は異なり、感想も一律ではないが、韓国人との親睦をより深めることになった。</p> <p>全体として、事故や体調不良を訴える者もなく、リーダーシップ・プログラムとして、充実した研修を終えることができた。</p>		
<p><b>【プログラム到達目標】</b></p> <p>Global Programs の一つとして、価値観、立場、文化背景などが異なる組織での協同活動を通してリーダーシップ（スキル・知識・態度）を身につけることを目的としている。特に本プログラムでは、参加学生が韓国人学生に対してセミナーを実施し、ホームステイを体験することで、自律性や社会性を養うことを到達目標とした。</p> <p><b>【プログラム概要】</b></p> <p>本プログラムは Global Programs の Level 1～3 のうち、最もベーシックな Level 1 に相当する海外研修であり、使用言語は日本語である。参加学生はプレゼンテーション、ホームステイ、世界遺産訪問をとおして、韓国文化への理解を深めるとともに、国際交流を念頭においたリーダーシップ力、チームワーク力、プレゼン力、異文化適応能力等の研鑽を積んだ。</p>			

## 【プログラム内容】

### 3月11日(火)

#### ●移動(仁川空港～南ソウル大学)(写真①)

時間： 20:00～22:50

引率スタッフ5名、参加学生40名全員が現地(韓国・仁川空港)集合し、南ソウル大学まで、バス移動した。途中、南ソウル大学の安秉杰先生と合流し、夕食をとる。南ソウル大学到着後は、全員同大学ゲストハウスに宿泊した。



写真① 夕食の様子

#### ●スタッフ・ミーティング

時間： 23:00～24:00

場所： 南ソウル大学ゲストハウス

スタッフ間で、翌日以降のプログラムについて確認し、振り返りなどの指導について打ち合わせた。

### 3月12日(水)

#### ●学生セミナー実施(写真②、③)

時間： 10:00～12:50、14:00～17:50

場所： 南ソウル大学(本館L103セミナー室、5号館授業行動分析室)

2会場に分かれて、11大学、計14チームがそれぞれ50分間のプレゼンテーションを実施した。セミナーに参加した韓国人学生はある程度、日本語を理解することができ、グループワークを行うにあたって、特別な問題はなく、活発な議論が行われた。

各テーマは愛媛大学・松山大学・松山短期大学の「日本学生の私生活と方言」「恋愛について」「日本のファッションについて」「音楽業界や受験制度から競争社会を比較する」、香川大学の「流行の言葉でわかる日本文化」、山口大学の「ツナガレ!フォーチュンクッキー」、京都光華女子大学の「京都の世界遺産と着物について」、追手門学院大学の「日本と韓国のアイドルについて」「大阪について」、広島経済大学の「日本のファッションについて」「日本のアイドルについて」、九州国際大学の「日本と韓国のマナーの違い」、京都文教大学の「日本と韓国の民族衣装の違い」、京都外国語大学の「震災について考えてみよう」である。



写真② プレゼンの様子



写真③ プレゼン中、グループワークの様子



●セミナーの振り返り

時間： 18：00～19：00

場所： 南ソウル大学（本館 L103 セミナー室）

会場別、二手に分かれて振り返りを行った。本館発表チームの振り返り指導は、山中・樋口・松岡が、5号館発表チームは中山・小江が担当した。振り返りは、プレゼンテーションのほか、チーム内におけるリーダーシップ、チームワークなどについて話し合わせ、翌日のセミナーに反省が活かせるよう、指導が行われた。

3月13日（木）

●学生セミナー実施

時間： 10：00～12：50、14：00～17：50

場所： 南ソウル大学（本館 L103 セミナー室、5号館授業行動分析室）

12日同様、14チームが同じテーマでプレゼンテーションを担当した。ただし、半分のチームは会場が入れ替わり、また参加する韓国人学生も日本語を少ししたしなむ程度であるなど、前日とは違う聴衆のなかで実施された。しかし、ほとんどのチームがそれにあわせて内容を作り変えてきており、前日の反省が多く活かされた発表がよく見られた。

●セミナーの振り返り（写真④、⑤）

時間： 10：00～12：50、14：00～17：50、20：00～21：30

場所： 南ソウル大学（本館 L103 セミナー室、5号館授業行動分析室）

振り返りはチーム別振り返りと全体振り返り二種類実施された。

まず、チーム別振り返りはセミナーと同時進行で行われ、発表が終わったチームから順次、プレゼンテーションなど、研修に対する取り組みについて話し合われた。前日同様、本館発表チームは山中・樋口・松岡が、5号館発表チームは中山・小江が担当した。

20：00からは秦による総指揮のもと、本館にて全体振り返りが行われた。まず、学生全員を新たにシャッフル、グループ分けし、互いの発表やその取り組み、反省点などについて話し合わせた。チームや大学を越えた振り返りは結束力を高め、全員が国際交流のためのファシリテーターであることの自覚が促された。

それをもとに、翌日の3回目のセミナー発表に、6チームが選出された。



写真④ 全体振り返りの様子



写真⑤ 全体振り返りの様子

3月14日（金）

●国農水産大学キャンパス見学（写真⑥、⑦）

時間： 9：30～10：00

場所： 国農水産大学キャンパス

国農水産大学キャンパス内のキノコ栽培施設、食用植物栽培施設を見学した。



写真⑥ 国農水産大学キャンパス見学



写真⑦ 農水産大学キャンパス見学

●学生セミナー実施（写真⑧、⑨）

時間： 10：00～12：50、13：00～13：50

場所： 国農水産大学キノコ科

前日選出された6チームが日本語を学んだことがない国農水産大学キノコ科の大学生を対象に、2会場に分けて、セミナーを実施した。ただし、プレゼンテーションには南ソウル大学の学生がボランティアとして通訳を担当した。発表者は聴衆にあわせて、さらに内容を改変し、グループワークを簡素化することで、交流が円滑になるよう工夫していた。

短時間であったが、セミナーは滞りなく遂行され、日本人学生と韓国人学生の交流は活発に行われた。



写真⑧ プレゼンの様子



写真⑨ 国農水産大学前にて全体写真

●隆陵・健陵（世界遺産）、鐘路3街・雲岷宮見学（写真⑩、⑪）

時間： 14：30～17：00

場所： 隆陵・健陵、鐘路3街・雲岷宮

世界遺産である隆陵・健陵、またバス移動後、その関連の歴史建造物である雲岷宮を見学した。両者とも朝鮮王朝第22代王・正祖にまつわる歴史遺産であり、韓国歴史ドラマ（「イサン：正祖大王」）が日本でも放送されていたこともあり、親しみをもって韓国の歴史を学んでいた。



写真⑩ 隆陵・健陵見学の様子



写真⑪ 鐘路3街・雲岷宮見学の様子

●ホームステイ（1日目）

時間： 17：00～

面会場所： 鐘路3街・雲岷宮

参加学生は鐘路3街・雲岷宮にて各自ホストファミリーと面会し、ホームステイ先に向かった。  
学生たちはホームステイをとおして、大学における交流だけでは得られない、より内側に踏み込んだ韓国文化に触れることができた。

3月15日（土）

●ホームステイ（2日目）

参加学生たちは引き続き、各ホームステイ先で韓国人の家族と交流した。

●教職員による振り返り

時間： 10：00～14：00

場所： 南ソウル大学・ゲストハウス

研修全体をとおした、教職員自身の振り返りを行った。学生にとっての研修の意義をどう見出させるかということを念頭に、スタッフの振り返りの仕方、スタッフ間のチームワーク等について論じ合った。

3月16日（日）

●グループ別振り返り

時間： 13：00～

場所： 仁川空港

ホームステイを含めた研修全体の振り返りをチーム別に行い、韓国研修をとおして、何を学ぶことができたかコメントさせ、グループ内で話し合わせた。

●仁川空港にて解散（写真⑫）

各自、出発時間ごと韓国を発った。



写真⑫ 仁川空港にて見送りに来た韓国人学生と別れを惜しむ

平成 25 年度

学生リーダーズ・スプリングスクール

報告者	京都外国語大学外国語学部 岸岡 洋介																																
実施日	平成 26 年 3 月 22 日（土）～23 日（日）																																
実施先	京都府立ゼミナールハウス, 京都外国語大学・短期大学																																
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>教職員</th> <th>学生スタッフ</th> <th>学生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>京都外国語大学</td> <td>3</td> <td>13</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>京都文教大学</td> <td></td> <td>2</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>追手門学院大学</td> <td></td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>愛媛大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>松山大学</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>九州国際大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>6</td> <td>19</td> <td>34</td> </tr> </tbody> </table>	大学名	教職員	学生スタッフ	学生	京都外国語大学	3	13	20	京都文教大学		2	4	追手門学院大学		3	2	愛媛大学	1		1	松山大学	1	1	3	九州国際大学	1		4	合計	6	19	34
大学名	教職員	学生スタッフ	学生																														
京都外国語大学	3	13	20																														
京都文教大学		2	4																														
追手門学院大学		3	2																														
愛媛大学	1		1																														
松山大学	1	1	3																														
九州国際大学	1		4																														
合計	6	19	34																														
講師	京都外大リーダーズ・スクール, UNGL 学生スタッフ有志																																
内容	<p>リーダーシップ研修in京都～世界がもし100人の村だったら～は、京都外大リーダーズ・スクールの学生（13名）を企画コアメンバーとして、グローバル社会におけるリーダーシップの育成を目的として開催した。研修運営に関しては、本学主催で行う初めてのリーダーシップ研修ということで、不安だらけのスタートであったが、研修前日から連携各校より学生スタッフを派遣していただき、多くの場面で協力できた結果、参加学生のみならず、学生スタッフにとっても非常に有意義な研修となった。</p> <p>以下、研修内容について記述する。</p> <p><b>【研修目的】</b> 現代の日本社会では、加速するグローバル化の中で、様々な組織に文化や価値観等に関する多様化が進んでおり、多様性を受け入れ、主体的な行動をとることができる能力が求められている。そこで、本研修では、多様化する社会、組織の中で一人ひとりが当事者意識を持ち、リーダーシップを発揮できるような人材を育成することを目的とする。</p> <p><b>【研修到達目標】</b> 研修を通して ①自分を客観的に理解することができる。 ②他者の視点に立った行動をとることができる。 ③物事を俯瞰することができる。 ④主体的な行動をとることができる。 ⑤積極的にコミュニケーションを図ることができる。</p> <p><b>【研修概要】</b> 参加学生で5～6名のチームを作り、数々のミッションをこなしながらリーダーシップを育成する。その際、世界の縮図を疑似体験するべく、世界を100人の村に置き換える。チーム間での関わりをより強く意識し、村全体の利益を生むにはどうしたらよいか、そのためには何が必要か等、研修を通して考える。</p>																																

【プログラム内容】

全体プログラムスケジュール

3/22 (土)	10:00～10:30	集合・受付
	10:30～11:00	団結式
	11:00～12:30	ゼミナールハウスへ移動（貸切バス）
	13:00～13:30	研修プログラム開始
	13:30～15:30	宝探し（ワーク①）
	15:30～15:40	休憩
	15:40～17:40	貿易ゲーム（ワーク②）
	17:40～18:40	夕食（ハンガーバンケット）
	18:40～19:40	入浴
	19:40～20:40	世界がもし100人の村だったら（レクチャー）
	21:00～23:00	振り返り
	23:00	就寝
3/23 (日)	7:00～8:00	起床・部屋の片づけ
	8:00～8:45	朝食
	9:00～10:30	地球サミット（ワーク③）
	10:30～11:00	会場後片付け
	11:00～12:30	京都外国語大学へ移動（貸切バス）
	12:30～14:00	昼食・休憩
	14:00～16:00	最終プレゼン
	16:00～18:00	最終振り返り
	18:00～18:30	閉会式

今回の研修に参加した6大学の参加者は、10:30の団結式を終えた後、研修先である「京都府立ゼミナールハウス」へ移動し、プログラムがスタートした。今回の研修は、リーダーシップ・トレーニングと平和研修の2つをプログラムの中核に据えており、チーム活動の中で発生する様々な問題を仲間との助け合いで解決することが求められる一方で、世界の現状（貧困、識字率、経済格差…等）を目の当たりにする経験を参加者は疑似体験することとなる。以下、ワークの内容である。

ワーク①：宝探し

宝探しは、ゴールの場所（ベンガル語で書かれている）に結びつくためのヒント（英語）を読み解きながら、施設内のあらゆるところに隠されている宝を拾い集め、最終的にゴールにたどり着くことが求められるワークである。このワークでは、宝を探すためにチームワークを発揮することが求められる一方で、文字が読むことができない不便さを体感してもらうことを目的としている。（識字率の体感）



### ワーク②：貿易ゲーム

ワーク①の順位ごとにくじ引きを引き、参加8チームを先進地域、新興地域、途上地域、後発途上地域に分けた中で貿易ゲームを行った。貿易ゲームは、各地域ごとに割り当てられた資源（紙）、技術（はさみ、定規、コンパス、鉛筆等）を使って、求められた製品を作成し対価を得ることを競争するワークである。ここでは、各チームに割り当てられた資源・技術を使って最大限の利益を得るためのチームワークを発揮すること、グループ内外で主体的な行動を取ることが求められる一方で、経済格差が拡大していく仕組みを体験的に理解することを目的としている。※ほぼ、先進地域に割り当てられたチームが勝つような仕組みになっている。（経済格差の体感）



### ハンガーバンケット

ハンガーバンケットは、貿易ゲームでの順位によって、手にすることができる食事の量が変わる（1・2位 1人、1人前の食事 3・4位 4人に2人前の食事 5・6・7・8位 4人に1人前の食事）。ただし、貿易ゲームを行った時点で、ほぼ順位が決定しているため、途上地域のチームが自動的に貧困を経験することになっている。



### レクチャー：世界がもし100人の村だったら

参加者には事前にそれまでのワークのねらいを伝えていなかったため、このレクチャーで初めて世界の現状を疑似体験したことや、実際の現状を知ることができる。高齢化・若年化、児童労働、所得格差、識字率に沿って、レクチャーとワークを行うことで、ワークだけでは伝えきれなかった世界の現状を、“知る”“考える”きっかけを与えることを目的としている。



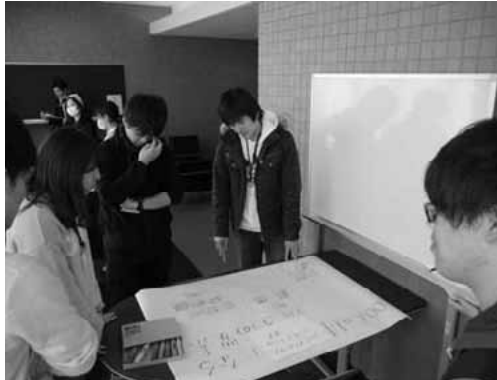
### ワーク③：地球サミット

地球サミットは、前日のワーク、レクチャーでの自らの気づきや理解、過去の知識や自らの価値観を踏まえて、世界で起きている問題について違うチームのメンバーと議論し、まとめ、発表する。このワークでは、前日の振り返りで得ることができた各自の言動に対する気づきを、実際に行動に移すことを求める一方で、多様な価値観を共有し、様々な視点からものごとをとらえることを目的としている。テーマは、児童労働がない世界は平和か、所得格差のない世界は平和か、若年化と高齢化どちらを改善する方がより平和につながるか等。



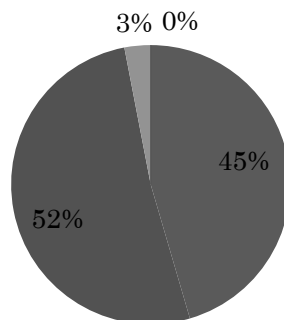
### ワーク④：最終プレゼンテーション

最終プレゼンテーションは、再度初日のチームに戻り、地球サミットで得られた世界の問題に対するさまざまな認識を基にさらに議論し、「世界が平和になるための3つの要素」をチームとしてまとめ、全員の前で発表した。



### 【プログラム満足度】

研修プログラムに対する満足度を教えてください (n=33)



- ①とても満足した
- ②満足した
- ③あまり満足していない
- ④満足していない

【参加学生からのコメント】

- ・いろんな考え方の人がいてその人達と意見や行動することの難しさや、自分の知らなかった、悪い面、良い面メンバーのことを考え行動する大切さなど、今まで課題にしてきたこととこれからの課題を再確認できた。
- ・今の自分に1番あったリーダーシップと自分の理想のリーダーシップをしっかりと明確にでき、自分の長所と短所、未熟な部分も浮き彫りにできた。今回チャレンジしたことは、自分なりのやり方を見出すことができた。
- ・自分ではなかなか気づくことができない自分の良さや改善すべき点等をメンバーをとって気づかせてもらえたことが良かったです。
- ・話し合いの中での自分の話し出すタイミングなどが学べた。世界中の貧しい人々の比率や自分が恵まれているというのは知ってはいるが、今日は実感できた。
- ・ひとつのテーマに向けて皆で考えること。振り返りやワークの中で意見を受け入れることで自分への変化、チームへの変化へとつながること。
- ・自分の知っている自分と他者からみた自分は凄く差があつて勉強になった。また研修を通して「幸せ」の意味を改めて実感できました。
- ・チームの活動をどう進めていくか、自分がどの位置にいたら円滑に進むのかを考えてチーム活動をしていきたい。朝起きて健康であることに幸せを感じた。
- ・人に確実に伝える意識を忘れない！メモして整理してしゃべる。
- ・頭が固いこと、もっと笑顔でいるべきことに気づいたので、人を笑顔にできる人になる。フォロワー、リーダーどっちの力も使い分けできる人になること。
- ・今までは自分の強みを弱みであるとも捉えていたけど、この研修をとして弱みとしてとらえず強みとして、それを活かして回りの皆をサポートしていきたいと思う。
- ・様々なワークを通しての気づき、それもテーマに基づいた気づきだけではなく、お互いの気づきを得たことが大きく変化につながった。そして「振り返り」の重要性を凄く感じたプログラムでした。
- ・準備お疲れ様でした。とても学びの多い研修になりました。もっとアクティブな内容をやりたかったなと思いました。ありがとうございました。
- ・日ごろはぜんぜん興味のないことでしたが、実際に研修に来てみて凄く興味深かったです。いい友達がたくさんできました。
- ・改めて考え直したこと、今までの自分を反省しなおしたこと、くやしいおもい、いい出会いにめぐまれて本当に良かったです。次は絶対スタッフとして参加し、また別の成長と学びを得たい。ありがとうございました。
- ・学年は違えど、同じ大学生なのにこんな企画を考えてワークごとの説明や意義などもすごく明確でなんか本当にすごいなーと感じました。振り返りの時なども「〇〇はこう言っていたけど〇〇についてはどう思うの？」みたいな感じで話がどんどん広げてくださって、話し方、話の進め方などの勉強になりました。本当にありがとうございます。お疲れ様でした！あと、夜ご飯はつらかったです。動画感動しました。ご飯つらかったです！笑





